

九

援蔣ルート遮断問題

1 仏印ルート

(1) 仏印ルート禁絶に至る経緯

1747

昭和13年10月18日
在ハノイ宗村(丑生)総領事より
近衛外務大臣宛(電報)

仏印經由対中武器輸送問題などにおける仏国
側の非友誼的な対日態度は正につき意見具申

ハノイ 10月18日後発
本省 10月18日夜着

第二三七號(極秘)

佛本國竝ニ東印度支那政廳側ノ最近我方ニ對スル面從腹背
的^(件)非友誼行爲ハ日佛兩國國交竝ニ日對佛印關係將來ノ爲此
ノ際徹底的是正解決ノ對策ヲ講スルコト緊要ナリト思考ス
即チ

一、鐵鑛輸出禁止問題

本年ハ表面上ノ理由ハ兎ニ角明カニ排日ヲ目標トシテ佛
國國防省派遣員等ノ示唆ニ基キ現地ヨリ本國ニ具申セラ

レタルモノニシテ昨夏當地滯在中ナリシ前總督「バレン
ヌ」等ノ尻押モ手傳ヒ本令發布ノ前後ヨリ當地官憲ハ既
ニ數箇月内ニ東印度支那人領内ヨリ全日本人ヲ驅逐スヘ
シト公言シ居レル排日眞意ニ其ノ立案ノ根據ヲ有ス換言
スレハ本問題ハ東佛印ノ排日經濟壓迫ヲ根底トスル一現
象ナルコトハ今回小官カ本件ニ關シ總督以下七、八名ノ
有力當局ト屢々面會ヲ遂ケタル際得タル印象ニ依リテモ
明カナリ從テ早キニ及ヒテ之カ是正解決ヲ圖ルニアラサ
レハ從來通り今後次々ニ對日通商上ノ諸問題ヲ生スル惧
アリ

曩ニ矢田前公使當地ニ於テ總督ト會談ノ際佛國側ニ對日
通商協定改訂ノ用意アリヤ否ヤ質シタルニ對シ之カ用意
アル旨明言セルニ付テハ單ニ本問題解決ノミニ止マラス
右言質ニ基キ本問題惹起ヲ契機トシテ現通商協定ノ改訂
ヲ圖リ以テ兩國關係ノ改善ヲ期スルコト當面ノ急務ナリ
ト思考ス

二、武器輸送問題

佛國側力既約品輸送^(送力)ヲ肯定シ居レル點コソ即チ本問題ノ證據ノ一二シテ數字ノ如キハ我方ヨリ提示スルヨリモ既ニ佛國乃至佛印當局側ニ於テ明瞭ナルヘキヲ強調セラレ度ク且數量ノ多少其ノ他如何ナル佛側言分アルモ輸送シ居レル事實ト佛側ノ右ニ對スル肯定アル以上之ヨリ有力ナル證據ナキヲ主張セラレ度キコト屢次電稟ノ通りナリ尙佛側ハ本問題等ニ關シ我方ヨリ徹底の解決案ノ申入ナキヲ見テ英佛聯合ノ前ニ我方ヲ弱腰ナリト誤認シ當方面佛人間ニハ內心ハ恐怖シ乍ラ少クモ表面ハ安南人ノ手前モアリ明カニ之ヲ放言シ居レリ

曩ニ矢田前公使當地ニ於テ總督ト會見ノ際將來ノ武器輸送ニ關シテ總督ニ質シタルニ對シ總督ハ日本ノ宣戰ヲ布告セサル今日之力輸送ヲ禁止スルハ困難ナリト答ヘタルニモ鑑ミ佛本國竝ニ佛大使ニ於テ如何ナル言譯ヲ爲スモ右ハ明カニ面從服背^(服背)の遁辭ニ過キス從テ之力徹底の解決ノ對策ニハ慎重考慮ヲ加フヘキモノアリ若シ佛側ニシテ之力輸送ヲ禁スル誠意ナキニ於テハ佛印ト支那間ノ輸送線^(線)（勞開國境ノ橋、ナンカン國境、「モンカイ」國境ノ

橋）ニ對シ自衛の手段ヲ加フルコトアルヘキヲ申入レ之カ徹底ヲ期スルコト當然ナルヤニ思考ス尙雲南爆撃ハ印度支那ニ對スル間接ノ「アベルチスマン」ト思惟シ居レル佛國側ニ對シ右ヲ申入ルルコトハ效果のナリト存ス

三、支那兵通過問題

本問題ハ佛側ニ如何ナル言譯ヲ有スルモ第三國タル義務違反ナルコト明白ナリ武器輸送問題ニ關シ弱腰ナリトノ誤認ノ下ニ更ニ此ノ背信の非友誼行爲ヲ重ネタルニ至ツテハ我方ニ於テモ之カ對策ヲ施スヲ要ス即チ斯ノ如キ第三國タル義務ニ反シ援蔣行爲ヲ爲スニ於テハ同國ノ在支權益ヲ擁護スルコト能ハサルヘキヲ明確ニ申入レ之カ將來ノ禍根ヲ一掃スルコト必要ナリト思考ス

個人ノ資格ニ於ケル佛國航空武官ノ支那側雇人ニ對シテ佛側ニ於テ取締不可能ナリト放言スル不誠意振ニ對シテモ亦同様ナル對策ヲ以テ臨ムヲ得ヘシト思考ス

右御參考迄卓見具申ス

佛、北京、上海、滿、臺灣外務部長へ轉電アリタシ
香港、西貢へ暗送セリ

1748

昭和13年10月28日

仏印經由対中武器輸送問題に関する情報部長談話

佛國ノ印度支那經由支那向ケ武器輸送禁止問題

二關スル情報部長談(十月二十八日)

昨年十月佛蘭西政府ハ自發的ニ印度支那ヲ經由シテ支那ヘ送ラレル武器ノ輸送禁止ヲ決定シタノテ其ノ好意的態度ハ日本政府ニ於テモ之ヲ諒トシ其ノ實行ニ付佛蘭西政府ノ誠意ヲ信賴シタノテアル。

然ルニ其ノ實行振リニ付兎角遺憾ノ點カアル様見受ケラレテタノテ其ノ後屢々佛蘭西當局ノ注意ヲ喚起シ本年二入ツテモ二度ニ亘リ嚴重佛側ノ反省ヲ求ムル所カアツタノテアル。

右ニ對シ佛蘭西政府ハ其ノ都度禁止ノ勵行ヲ約シタカ我方ノ入手スル確實ナ情報ニ徴スレハ右佛蘭西政府ノ回答ト一致セサル情勢力依然現地ニ於テ繼續セラレツツアル様認メラレル殊ニ廣東攻略後香港トノ連絡力斷絶シタ結果印度支那ハ外國武器ノ最も重要ナ輸送路トシテ殘ルコトトナリ支那側トシテハ既ニ此點ニ關シ活躍ヲ開始シタトノ情報モア

リ、我方トシテハ今後ノ成行ニ付重大關心ヲ有スル次第テアル。

帝國政府トシテハ佛蘭西政府カ此際武器輸送禁止ヲ眞ニ有效ナラシムル如キ的確ナル手段ヲ執リ曩ニ確約セル禁止ノ實效ノ舉ルコトヲ要請シ若シ佛國政府ニシテ右様適切ナル措置ニ出テラレサル場合ニハ帝國政府トシテハ已ムヲ得ス自衛上必要ト思惟スル手段ヲ執ルカ如キ事態ニ立到ルヘキ旨ヲ佛國政府ニ申入ルル様杉村大使ニ電訓スルト共二本二十八日近衛兼攝外相ヨリ在京佛蘭西大使ニ對シ右ノ趣旨ヲ申シ入レタ。

編 注 本文書は、昭和十三年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第三號)」から抜粋。

1749

昭和13年12月20日

在仏国宮崎臨時代理大使より
有田外務大臣宛(電報)

仏印經由対中武器輸送問題に関する仏国外務

次官内話について

付 記 昭和十六年一月、南洋局第二課作成「佛印經

由蔣政權向軍需品輸送禁絶方ニ關スル日佛交渉經緯」より抜粋

広東陥落以後欧州大戰勃発までの交渉経緯

パリ 12月20日前発
本省 12月20日後着

第八〇八號(部外極秘、館長符號扱)

十三日訣別⁽¹⁾ノ爲杉村大使來訪ノ際日佛關係ニ關シ「レジエ」ノ語リタル所(大使ニ於テ館員ニ筆録セシメラレ參考トシテ殘シ置カレタルモノ)ハ佛側ノ僞ラサル感ヲ表ハシ居ルヤニ認メラルルニ付要領電報ス尤モ右ハ前顯ノ通り大使ニ於テ參考ノ爲殘サレタルモノニテ特ニ電報ノ御考ハナカリシ模様ナルニ付部外秘ニ御取扱相成様致度シ

記

在支佛代理大使、總領事、領事等ノ報告ヲ綜合スルニ日本軍部ハ英國ヨリ以上ニ佛國ヲ慘ク扱フ模様アリ右ハ單ニ佛國カ今日内外ノ難局ニ直面セルカ故ニシテ佛國カ英國ヨリ強ケレハ斯ルコトナカルヘシト思ハル

然ルニ佛側トシテハ佛ニ好意ヲ有スル友人カ今尙日本國內ニ相當多シト確信スル故ニ理由ナキ慘キ取扱ヲ日本カ爲ス

トハ思ハサルモ軍部ノ連中ハ機會アル毎ニ佛國ヲ極東ヨリ放逐セント焦慮シツツアルモノノ如ク印支問題ニ付テモ佛國ハ初メ日本ニモ支那ニモ武器ヲ賣ラサル方針ヲ執リタル處日本側ハ支那ニ賣ツテモ差支ナキニ付日本ニモ賣ツテ吳レ(海軍側「ホチキス」ノ件)ト言ヘルニ付不賣ノ原則ヲ棄テテ双方ニ賣ルコトニシタル處其ノ結果ハ封鎖次テ印支問題ナリ封鎖ニ付テハ過去ノコト故暫ク措キ印支問題ニ付テハ佛國ハ印支ノ中立從テ安全ヲ確保スル見地ヨリ自發的ニ武器彈藥ノ通過ヲ阻止スルコトヲ申入レタル處支那ハ既ニ代金ノ全額又ハ大部分ヲ支拂ヒ又佛側ノ製造能力不足ノ爲著シク期限ヨリ遅レタル武器彈藥引渡ヲ要求シテ已マス印支通過禁止ニ對シテハ「ボイコット」其ノ他ノ方法ヲ以テ對抗スルニ至リ他方英國ハ倫敦、巴里ニ於ケル首相、外相會談毎ニ香港ノ立場ヲ擁護セン爲同様印支ヨリ自由ニ武器ノ輸入サルルコトヲ求メテ已マス其ノ間多少ノ武器カ印支ヲ通りシコトハ勿論之ヲ認ムルモ佛政府トシテハ此ノ方針ヲ堅持シ來レル次第ナリ昨今緬甸、雲南ノ大道路既ニ成リ英國ハ此ノ方面ヨリ盛ニ武器ヲ供給スヘキニモ拘ラス佛ノミヲ攻撃スルコトハ佛政府ヲシテ徒ニ困難ノ立場ニ陥ラシ

ムルモノニシテ此ノ點日本側ノ反省ヲ求メテ已マス
 之ニ對シ本使ハ右ノ御話ハ何度モ聞キ能ク承知シ居ル所ナルカ此ノ際一言率直ニ言ヒ度キハ日佛ノ外交ヲ道德的線ニテ行ヒ度キコトナリ若シ佛ノ仕打カ不都合ナラハ東京ニ軍事行動ヲ取ルコトサヘ勸告スヘシ然シ針小棒大ニ瑣事ヲ誇張シテ徒ニ兩國ノ關係ヲ惡化セシメントスル遣方ニハ不贊成ナリ唯茲ニ一言注意スヘキハ日本ハ徹底の二蔣介石ヲ叩カントシ居ルコトニシテ印支及緬甸カラスル武器ノ供給ハ是非共絶ツト言フ固キ決心ヲ有ス佛力既ニ印支通過禁止ノ原則ヲ自發的ニ聲明セル以上支那ニ武器ヲ供給セストノ方針ヲ確立シテハ如何倒レ掛ル家ヲ小サキ木ニテ支フル如キ援助ノ仕方ハ何ノ效果モナシ佛ハ何故支那ニ爾ク未練ヲ持ツヤ歐米ノ支那通ハ數年前ノ支那ノミシカ知ラス今日支那ニ居ル歐米人モ租界内ニ籠城シテ外界ノ動キニ直接接觸セス從テ大局ヲ知ラス過去ノ政治原則ハ其ノ儘ニ繰返サルルト見ルハ誤ニシテ其ノ邊ハ達識ノ政治家カ能ク見透シ以テ絶エス東亞ノ新事態ヲ認識シテ行ク様セサルヘカラストト極力勸說ニ努メタルモ「レ」ハ現狀維持政策堅持ノ立場ヨリ少クモ本使ニ對シテハ承服ノ色ヲ示ササリキ

(付記)

二(前掲) 昭和十三年十月二十一日廣東陷落後ニ於ケル對佛交渉

スル間二十月二十一日廣東遂ニ陷落シ同二十七日武漢三鎮モ相次イデ我軍ノ掌中ニ歸ス斯クテ佛印ハ對支武器輸送ノ最モ重要ナル「ルート」トシテ殘ルニ至レリ即チ從來ニ於ケル佛側ノ禁止方針言明ニモ拘ラズ依然佛印ヲ經由シテ相當量ノ武器輸送繼續セラレタルノミナラズ佛印「ルート」方面ノ支那側活動ハ益々活潑ヲ加ヘントスルノ情勢觀取セラレタルニ依リ蔣政權潰滅ヲ期スル我方ハ佛側ヲシテ從來ノ援蔣的態度乃至曖昧ナル態度ヲ清算セシムルコトノ緊要ナルヲ痛感シ新ニ佛側ニ對シ武器輸送禁止問題ニ付嚴重申入方在佛杉村大使ニ訓令セリ依テ右ニ基キ宮崎參事官ハ十月二十六日佛國外務省「マシグリ」次官補ヲ往訪、佛側ノ自發的輸送禁止ノ誓約ハ遺憾乍ラ完全ニ勵行セラレ居ラス帝國トシテハ最早證據如何ノ論議ニ時間ヲ空費スルヲ欲セズ佛國ガ其ノ言明ヲ如實ニ實行セラレンコトヲ要求スルモノナリ就テハ佛側ニ於テ我方提案ノ調査團派遣ヲ受諾セラルルカ又ハ我方ノ疑

惑ヲ氷解セシムルニ足ル有效措施ヲ執ラレ度ク右ノ何レニモ應諾セラレサルニ於テハ我方トシテハ獨自ノ立場ニテ必要措置ニ出ズルノ已ムナキニ至ルコトアルベキ旨申入レタルニ「マシグリ」次官補ハ佛側力誠心誠意本件誓約履行ニ努メ居ル際斯ル申出ニ接スルハ意外ニシテ調査團ノ派遣乃至國境閉鎖ニハ應シ得ズト答ヘタルガ更ニ十一月四日「オブノー」亞細亞局長ハ右我方申入ノ諸點ヲ篤ト考慮シタル上ノ決定的回答ナリトシテ、

(一)佛國ハ法律上ノ義務ナキニ拘ラズ日佛友好關係維持ノ爲佛印ニ於ケル支那向武器通過ヲ禁止シ一年來佛印當局ハ確實ニ之ヲ實施シ來レリ

(二)日本政府ガ確タル根據ナキ武器通過ヲ阻止スル爲日佛關係ニ面白カラサル影響ヲ與フベキ措置ヲ執リ得ト考ヘラルルハ了解ニ苦シム所ナリ

(三)佛印ヲ通過スル武器ハ所謂既約品ノミニシテ右以外ハ全然通過シ居ラズ從テ佛印當局カ今日迄實施シ來レル措置以外ノ措置ヲ採ルコトヲ考慮シ得ズ

(四)調査團派遣及國境閉鎖ニ關スル日本側提案ハ佛國ノ主權ニ牴觸シ又ハ支那トノ正當ナル交通ヲ阻害スルモノ

ニシテ全然同意シ得ス

トノ趣旨ノ正式回答文ヲ手交シ更ニ前記(三)ニ謂フ既約品ニ付我方ノ求メニ應シ十一月五日極祕トシテ左記ノ如キ引渡未濟契約品目表^(附略)ヲ手交セリ

尙右巴里ニ於ケル申入ト竝行シテ十月二十八日近衛大臣ヨリ「アンリー」在京佛大使ニ對シ同様佛側ノ反省ヲ促ガシタルモ大使ハ例ノ如ク輸送ノ事實ヲ否定シ日本輿論ノ佛國攻撃ニ對スル不滿ヲ述ベ結局水掛論ニ終レリ尙大使ハ我方ノ意圖スル自衛手段ノ説明ヲ求メタルカ大臣ハ佛側ノ好意的考慮ヲ信賴シ未タ具體的ニ考慮シ居ラズト答ヘタリ

右ノ如キ佛側回答ニ關シ十一月十五日宮崎參事官ヨリ「オブノー」亞細亞局長ニ對シ佛國カ好意的ニ我方ニ通報シ來レル契約品以外武器輸送ノ事實ナシト言フノミニテ何等我方ヲ納得セシメ得ル如キ誠意アル措置ヲ執ラレサルハ甚タ遺憾ニシテ我方トシテハ今一應佛側ノ再考ヲ求ムル意味ニテ帝國總領事又ハ總領事館員或ハ總領事ノ指名スル者カ其ノ必要ト思惟スル場所ニ出入シ調査スルノ自由ヲ認メ佛印官憲ヲシテ之ニ協力セシメラレンコト

ヲ要望スル次第ナリト申入レタルニ總領事等カ國境地方ニ旅行滞在スルハ全ク自由ナルモ必要ト思惟スル場所ニ出入シ調査スルコトハ到底承諾シ得ズト我方申出ヲ拒否セリ

我方ニ於テハ其ノ後モ再三、既約品ノ名ノ下ニ依然多量ノ蔣向武器カ佛印經由輸送セラレ居ル事實、或ハ海防方面ニ於ケル軍需品滯貨狀況ヲ指摘シ我方トシテハ佛側カ既約品ナルト否トヲ問ハズ、凡テ對支武器輸送禁止ヲ誠實勵行セラレンコトヲ要求スルモノニシテ、佛側ニ於テ我方ノ疑惑ヲ氷解セシムル如キ適當措置ヲ講セラレ度キ旨申入レタルニ既約品ノ禁止ハ實行不可能ナリトシ又昭和十二年十月閣議決定ニ基ク措置カ效果ヲ擧ケ居ルニ付差當リテハ更ニ適當ナル措置ヲ考ヘ及バズトテ依然不誠意ナル態度ヲ示シタリ

尙「トラック」類ノ輸送ニ關シテハ十二月九日在河内帝國總領事ヨリ佛印當局ニ對シ「トラック」ガ餘リニ多數ナルハ我方ノ重要視スル所ナルガ佛印トシテハ之ヲ全部許可スル意向ナルヤト問ヘルニ佛印當局ハ本國政府ノ訓令ニ基キ(イ)病院車ハ無制限(ロ)郵便車及鹽運搬車ハ在支佛

國大使ニテ證明セル範圍内(ハ)一般「トラック」ハ一ヶ月一百臺ニ限り通過ヲ許可スルコトナリ居ル旨答ヘタリ
三、我方雲南鐵道爆發方針決定

斯クノ如ク我方ニ於テハ本件ヲ佛側ノ自發的措置ニ依リ平和的ニ解決セントシテ隱忍自重再三再四佛側ノ反省ヲ促シ來レルモ佛側ハ口ニ支那事變ニ對スル嚴正中立及蔣向武器輸送禁止方針勵行ヲ唱ヘ乍ラ裏面ニ於テ既約品ノ輸送ヲ口實ニ蔣ノ抗戰力培養トナルヘキ多量ノ蔣向武器ノ佛印經由輸送ヲ默認シ前記ノ通十月二十六日我方ノ警告の申入ニ對シテモ武器輸送ノ事實ヲ否定スルト共ニ我方ノ要求スル措置ヲ採ルコトヲ拒否シ右ハ決定の回答ナル旨ヲ述ヘ結局我方トシテハ雲南鐵道爆發ノ外ナキ情勢トナリ居リタル處昭和十三年十二月上旬海軍側ヨリ、豫テ雲南鐵道爆發ノ作戰上必要ナルヲ認メ居タルガ近ク南支派遣軍首腦更迭ニ際シ本件ニ關スル海、外兩省ノ一致セル方針ヲ授ケ度シトテ當省ノ意向ヲ求メ來レルニ依リ早速本件爆發ヲ辯護シ得ベキ法律論、爆發ノ效果、其ノ我國國際關係ニ及ボスベキ影響殊ニ佛國ノ出方等諸般事情ヲ検討シテ其ノ利害得失ヲ考察セル結果雲南鐵道ガ對支

援助ノ軍事目的ニ使用セラレツアルノ事實ハ國際法上我方ノ爆撃ヲ正當化スルモノニシテ右破壊ニ對シテハ帝國ハ損害賠償ノ責ニ任ズルヲ要セズ、又爆撃ノ作戰上並ニ政治上ノ效果頗ル大ナルモノアリ然モ其ノ佛竝ニ英米ニ與フル影響必スシモ憂フルヲ要セズトノ結論ニ達シ右ニ付大臣ノ決裁ヲ經タル上十二月九日石澤歐亞局第三課長ヨリ海軍省神中佐ニ對シ口頭ヲ以テ「外務省トシテハ陸軍、及海軍ガ作戰上必要トセラルル限り支那領内ニ於テ雲南鐵道ヲ爆撃セラルルコト差支ナシト認ムル」旨回答スルト共ニ在佛杉村大使ニ右ノ旨ヲ電報シ、爆撃ガ實行サレタ場合佛側ガ我方ニ行フコトアルベキ抗議ニ對シ我軍ノ爆撃ガ正當ナル所以ヲ説明シテ適當應酬方訓令セリ

爾來海軍側ニ於テハ諸般準備ヲ進メ居タル處愈々爆撃ヲ實行スヘキ旨昭和十四年二月二十四日當方ニ通報シ來レルモ種々ノ事情ニ依リ實現セズシテ止ミ、更ニ其ノ後海軍側ヨリ三月下旬頃ヨリ雲南方面ガ雨季ニ入ルニ先チ是非爆撃ヲ實行シ度キ旨通報越セルモ是レ亦實現セラレザリキ

四、昭和十四年八月歐洲政局ノ緊迫化ニ伴フ日佛國交調整機運ノ擡頭

前記ノ如ク佛印經由武器輸送問題ニ關スル日佛交渉ハ停頓ノ形トナレルノミナラズ駐佛大使ニ對スル「アグレマシ」拒否、我軍ノ海南島占領、新南群島ノ領有宣言、西沙島ノ領土權、佛印鐵礦ノ輸出禁止等支那事變以來累積セル諸問題ヲ繞リ日佛關係圓滑ヲ缺キ居タルカ獨蘇不可侵條約ノ締結殊ニ歐洲戰爭ノ勃發以後佛國官民ノ對日態度著シク改善セラレ、右傾向ハ佛國新聞ノ論調ニ現ハレタルノミナラズ、八月末佛國政府ハ不取敢佛印鐵礦ノ輸出、在「ヌメア」帝國領事館ノ設置、日「タイ」定期航空路ノ佛印通過ノ三懸案ニ付我方要求ヲ容レ來レルカ更ニ九月上旬佛國トシテハ其ノ傳統的の平和政策ニ基キ兩國間ノ了解ノ成立スルコトヲ衷心ヨリ希望スルモノナリトテ各種懸案解決ノ爲ノ日佛問話合開始ニ關スル我方意向ヲ確メ來リ又佛領印度支那總督代理ハ在河内鈴木總領事ニ對シ日本カ歐洲戰爭不介入政策ヲ如實ニ實行スルニ於テハ佛本國トシテモ之ニ應ジ日本トノ妥協政策ヲ執ルベシト述ブル等佛國政府ハ日佛國交調整ニ付漸次積極の二

我方ニ働キ掛ケ來レリ
(以下略)

1750

昭和14年8月30日

在ハノイ浦部(清治)総領事代理より
阿部外務大臣宛(電報)

雲南(滇越)鐵道の輸送力強化に関する情報報告

ハノイ 8月30日後発

本省 8月30日夜着

第一七七號

滇越鐵道ノ輸送量ハ客年十月頃ヨリ毎日三百噸見當ト推定
セラレ最近海防鐵道書記ヲシテ七月分輸送表ヲ作成セシメ
タルヲ見ルモ毎日三百乃至四百噸トナリ居ル處最近三、四
箇月來海防ニ於ケル滯貨累積シテ捌ケ切れサルニ鑑ミ同鐵
道側ニ於テモ輸送力ヲ強化スルコトニ決シ同鐵道總監督ハ
昆明ニ赴キ雲南側及蔣政權側ト協定ノ結果同鐵道側ニテ新
タニ機關車五十及貨車六百五十ヲ購買増車スルト同時ニ支
那側ニ於テモ貨車三百數十ヲ購入シ近ク一日六百噸以上ニ
強化スヘシト雲南建設廳長ハ發表シ居レリ
關係ノ向ヘ轉電アリタシ

1751

昭和14年11月30日

野村外務大臣
在本邦アンリ仏國大使 會談

日仏國交調整や仏印經由援蔣物資輸送の停止
などに関するわが方希望をアンリ大使へ提議
について

日佛國交調整ノ件並ニ外務省員及軍事専門家

河内派遣方ノ件ニ關シ十一月三十日野村大臣

在京佛國大使會談錄

大臣ヨリ先ツ國交調整ノ件ニ關シ別紙甲號ノ通り申入ラレ
タル後、

「委細ハコノ書面ニ認メ置キタルニヨリ御覽願ヒ度シ尤モ
之ハ口頭ヲ以テ詳シク申上クル代リニ自分ノ申述ヘント欲
スルトコロヲ其ノ儘卒直ニ書キ卸シタ全然外交辭令拔キノ
モノデアルカラ左様御諒承アツテ其ノ御積リニテ御讀ミ願
ヒ度シ」

トテ前記口頭申入ノ趣旨ヲ敷衍セル別紙乙號高裁案中
「記」以下ノ佛譯文ヲ手交セラレタル後更ニ本件並ニ今般
廣西ニ於ケル我軍事行動ニ關シ現地總領事及佛印當局ト連
絡又ハ懇談ノ爲本省係官及軍事専門家河内派遣方ノ件ニ付

別紙丙號ノ一ノ通り申入レラレタルニ佛大使ハ右ヲ聽キリタル後先ツ第一ノ申入ニ關シ

「本國政府ヘ電報ノ上何分ノ訓令アル迄御答申上グルコトヲ得ナイカ只今御話ヲ拜聽シテ居ル内ニ感シタル自分一個ノ印象ヲ申上クレハ本國政府ハ此ノ御申入レニ接シテ意外ノ感ヲ抱クテアラウト思フ本使ハ從來度々言明致シタル通り支那向武器彈藥等カ佛印ヲ經由シテ輸送セラルルノ事實ハ絕對ニ無イト云フコトヲ重ネテ申上ケ度イ尙御話ノ内ニ食糧品「トラック」等輸送ノコトカアツタカ此ノ點ニ付テハ調査シタ上テナイト確カナコトハ申上ケラレナイカ自分ノ得テ居ル情報テハソノ事實モ無イヤウテアル過去ニ於テモ日本側ノ得ラレタ情報ナルモノハ所謂情報屋ノ情報テアツテ *fantastique* ナルモノテアル極端ナ例ヲ擧クレハ以前ニモ申上ケタコトガアル通り「ダラット」(佛印ノ避暑地)カラ支那ヘ向ケ大砲カ運ハレルト云フカ如キコトハ有り得ナイ次ニ只今ノ御話中佛側ノ援蔣政策ト云フ御言葉カアツタカ其ノ如キ事實ハ絕對ニ無イ功利的ニ考ヘテモ佛蘭西ガ今ヤ奧地ニ逃避シテ了ツタ蔣介石ヲ援助スルガ如キ政策ヲ採ツテ何ノ得ル所ガアラウカ」ト述ヘ更ニ第二ノ申入レニ

關シ同大使ハ、

「此ノ御申出ハ第一ノ御申出ト關聯シテ居ル譯テアルカ此ノ方モ書キ物ニシテ至急届ケテ頂キ度イ本件御申出ヲ本國政府ヘ申傳ヘルニ際シテ貴省員及軍事専門家ノ佛印派遣カ何ノ爲テアルカ其ノ目的ヲ明確ニ承知致シテ置カネハナラヌカラテアル」ト述ヘタルニ依リ

大臣ヨリ右派遣ノ目的カ廣西ニ於ケル我軍事行動ノ推移ニ付佛印當局ノ有スルヤニ察セラルル不安乃至疑念ヲ氷解セシメ且ツ今後本問題ニ關スル河内駐在帝國總領事ト佛印當局トノ連絡折衝ヲ充分ナラシメンカ爲南支ニ於ケル我軍事行動ノ實際情況ヲ同總領事及佛印當局ニ篤ト傳ヘ尙印支國境方面ノ情況ニ付印度支那當局ヨリモ説明ヲ聽キ意思ノ疎通ヲ計ルニ在ル次第ヲ繰返シ説明セラレタルニ佛大使ハ、
「只今印支國境方面ト云フ御言葉カアツタカ夫レハ支那側カ佛印側カ其ノ何レノ側ヲ意味セラルルカマサカ支那側ニ於ケル情報ノ蒐集等ニ付日本ト協力セヨト申サルルノテハ有ルマイト思フガ」

トテ「國境方面ノ情況云々」ニ付昨年我方ヨリ提案シ主權侵害ノ故ヲ以テ佛側ノ拒絕セル武器輸送情況視察團派遣ノ

件ヲ想起セル爲カ不安ノ色アリタルニ依リ大臣ヨリ

「國境線ニ不明確ナル點ガアル爲カ本邦飛行機ノ佛印領土内飛行等ノ事件モ起ツタヤウテアルカラ國境方面ノ情況ニ付佛印側ヨリ種々説明ヲ聽キ得レハ自然右ノヤウナ事件ノ發生モ無クナルテアラウト考ヘテキル次第テアル」

ト説明ヲ加ヘラレタ處同大使ハ

「御趣旨ハ結構テアルカ今其ノ必要アリヤ否ヤ疑ハシイ何レニセヨ本件派遣ノ目的ヲ明確ニシテ頂キ度イ」

ト更ニ前言ヲ繰返シタルニ依リ大使ハ

「誤解無キヤウ願ヒ度イ其ノ目的ハ要スルニ相互ノ間ニ了解ヲ進メテ行カンカ爲ニ外ナラナイ」

ト述ヘラレタルニ佛大使モ

「夫レデハ要スルニ日本ト佛印トノ文武當局カ懇談シテ兩國ノ磨擦ヲ避ケントスル趣旨ナリヤ」

ト駄目ヲ押シタルニ對シ大臣ヨリ

「其ノ通り」

ト答ヘラレ本件申入レモ後程書キ物トシテ送達スヘキ旨約セラレタリ。

次デ佛大使ハ

「從來此種問題ハ日本新聞ノ「センセーショナル」ナル

「キャンペーン」ノ種トシテ利用セラレ出來上ルヘキ相談モ打壞サレタルニ鑑ミ本件モ其儘新聞ニ御發表ノコト無ク可然御取計願ヒ度イ」

ト申入レタルニ依リ大臣ヨリ

「南支方面ニ於ケル我軍事行動其ノ後ノ進展竝ニ其ノ佛印トノ關係ニ付話合ヒヲナス爲會見セルモノナリト致シテハ如何」

ト問ハレタルニ對シ同大使ハ

「夫レニテ結構ト存ス」

ト答ヘ之ニテ會談ヲ了レリ

「註」 本省係官及軍事専門家ノ河内派遣ニ關スル申入レニ付テハ我方ノ目的ヲ明確ナラシムルト共ニ佛側ノ危惧乃至誤解無カラシムルヤウ別紙丙號ノ一二多少修正ヲ加ヘタル別紙丙號ノ二ノ佛譯文ヲ十二月一日佛

大使ニ送達シ置ケリ

別紙甲號

日佛國交調整ニ關シ在京佛蘭西大使ニ對スル

野村大臣談話要領(案)

支那事變發生以來種々ノ問題ノ爲日佛關係兎角圓滑ヲ缺キ居タル處先般貴方ニ於テ二、三ノ懸案ニ付我方要求ヲ容レラレタルハ本大臣ニ於テモ多トスル所テアリ更ニ又貴大使ハ阿部前大臣及本大臣ト會談ノ際日佛國交調整ノ望マシキ旨申述ヘラレタルカ本大臣ニ於テモ右御趣旨ニ全然同感テアル

乍併佛國ニ於テハ斯ノ如ク一方ニ於テ我國トノ國交調整ヲ希望セラレ乍ラ他方ニ於テ我國カ國力ヲ舉ケテ其ノ潰滅ノ爲戰ヒツツアル蔣政權ヲ今猶援助シテ居ラレルガ斯ノ如キハ我方ノ了解ニ苦シム所テアル即チ佛國政府ハ從來屢々蔣政權援助ノ方針ニ非サルコトヲ言明セラレタケレトモ事實ハ之ト反對テアツテ依然多量ノ食糧品、「トラツク」、石油、各種ノ機械類等ノミナラス純粹ナル武器彈藥スラ佛印ヲ經由シテ蔣政權向輸送セラレ居リ之等ハ直接間接蔣政權ノ抗日力ヲ維持培養シツツアル。佛國ニシテ此ノ際右ノ如キ曖昧ナ態度ヲ清算シ蔣政權向一切ノ貨物輸送ヲ遮斷セラレ且何等カ適當ノ方法ニ依リ援蔣「ルート」遮斷ノ具體的結果ニ付我國民ヲ納得セシメ得ルコトナラハ日佛友好關係ノ

増進ニ資スル所大ナリト信スル今回我軍ノ廣西作戰モ從來ニ於ケル我方屢次ノ申入ニ拘ラズ依然佛印ヲ經由シテ廣西向軍需品其他ノ貨物輸送ガ繼續セラレ居ルニ鑑ミ遂ニ實力ヲ以テ之ヲ遮斷スルノ已ム無キニ至ツタ次第アル尙若シ佛印經由支那向軍需品ノ輸送ガ停止セラレルコト、ナラバ最近數箇月間ニ屢々貴方ヨリ御抗議アリタル本邦軍用機ノ佛印領空飛行ノ問題ノ如キモ派生シナクナル譯デアル又從來南洋及太平洋方面ノ佛領ニ於ケル各種ノ反日的經濟障壁モ日佛友好關係ヲ妨ゲテ來タ他ノ有力原因デアツテ此等ガ現實ニ除去セラレナイ限り國交調整ハ實現不可能デアルト思フ從テ現在佛印當局ガ現行通商協定ノ精神ヲ蹂躪シテ我商品ニ課シツツアル各種輸入制限措置ノ撤廢又ハ緩和方御考慮願度イ又佛印及「ニユカレドニア」ニ於テハ從來往々政治的理由ニ依テ我國ヘノ資源供給又ハ邦人ノ入國、企業經營等ヲ阻止スルノ態度ヲ示サレタガ將來ハ斯ルコトナク寧口進ンデ是等ノ問題ニ付積極の二便宜及支援ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル

本大臣ハ貴大使ガ前記ノ諸點ヲ貴國政府ニ傳ヘラレタル上右ニ關スル貴方御意向御回答ヲ得バ幸甚ニ存ス

別紙乙號

高裁案

昭和十四年十月二十七日
昭和十四年十一月十日
起案
決裁

對佛領特ニ佛印關係處理方ニ關スル件

支那事變勃發以來佛印經由支那向武器彈藥其他軍需品ノ輸送、駐佛大使ノ「アグレマン」拒否、我軍ノ海南島占領、新南群島ノ領有宣言、西沙島ノ領土權、佛印鐵鑛ノ輸出禁止等ノ諸問題ヲ繞リ日佛關係兎角圓滑ヲ缺キ居タルガ獨蘇不可侵條約ノ締結、及歐洲戰爭ノ勃發以後佛國官民ノ對日態度著シク改善セラレ、右傾向ハ佛國新聞ノ論調ニ現ハレタルノミナラズ、八月末佛國政府ハ不取敢佛印鐵鑛ノ輸出、在「ヌメア」帝國領事館ノ設置、日泰定期航空路ノ佛印通過ノ三懸案ニ付日本側ノ満足セラルル樣解決スヘシトテ我方要求ヲ容レ來リタルガ九月七日阿部前大臣「アンリ」在京佛國大使接見ノ際同大使ヨリ自分ハ約十日前澤田次官ニ對シ佛國政府ハ東亞ニ於ケル各種懸案ヲ解決シ度キ希望ヲ有スル旨ヲ通報シ又斯ル解決ノ氣運醸成セラレタルモノト信ズル旨ヲ述ベタルガ自分ハ佛國ノ傳統的平和政策ニ基キ兩國間ノ了解ノ成立スルコトヲ衷心ヨリ希望スルモノナル

處、本國政府ニ對シ本日ノ會談ノ結果日本政府ニ於テハ各種懸案解決ノ爲日佛間ニ話合開始ノ用意アル旨ヲ傳達シ差支ヘ無キヤト確メタルニ對シ阿部前大臣ヨリ斯カル話合開始ハ望マシト答ヘラレタル次第アリ又在河內鈴木總領事九月十五日新總督代理ニ挨拶ノ爲往訪ノ際ニモ同總督代理ハ日本カ歐洲戰爭不介入政策ヲ如實ニ實行スルニ於テハ佛本國トシテモ之ニ應ジ日本トノ妥協政策ヲ執ルベシト述ベタル趣ニテ佛國側ガ日佛國交調整ニ付漸次積極のトナリ我方ニ働キ掛ケントシツツアルハ明カナルヲ以テ我方トシテハ右氣運ニ乗ジ支那事變處理及東亞新秩序建設ニ至大ノ關係ヲ有スル佛領特ニ佛印關係諸問題ヲ一舉有利ニ解決スル爲野村大臣ヨリ在京佛國大使ニ對シ左記趣旨申入レラレ佛側意嚮「サウンド」セラル、コトト致意

記

支那事變發生以來日佛關係兎角圓滑ヲ缺キ居タル處先般佛國側ニ於テ二、三ノ懸案ニ付我方要求ヲ容レラレタルハ本大臣ニ於テモ多トスル所デアルガ更ニ其ノ後貴大使ハ阿部前大臣、澤田前次官及本大臣ト會談ノ際兩國々交調整ノ望マシキ旨申述べラレ本大臣ニ於テモ右御趣旨ニ全然同感デ

アル。

乍併佛國ニ於テハ斯克ノ如ク一方ニ於テ我國トノ國交調整ヲ希望セラレ乍ラ他方ニ於テ我國ガ國力ヲ擧ゲテ其ノ潰滅ノ爲戦ヒツツアル蔣政權ヲ援助シテ居ラレル。佛國政府ハ從來屢々蔣政權援助ノ方針ニ非ザルコトヲ言明セラレタケレドモ事實ハ之ト反對デアツテ斯克ノ如キハ我方ノ了解ニ苦シム所デアル佛國ニシテ眞ニ我方トノ國交調整ヲ望マルルナラバ此ノ際右ノ如キ曖昧ナル態度ヲ清算シ今ヤ沒落シツツアル蔣政權ト手ヲ切ラルルト共ニ我支那事變處理ニ對シ寧口好意の態度ヲ執ラルルコト可然ト思考スル次第デアル。又現在南洋及太平洋方面ノ佛領殊ニ佛印ニ於テハ我國ニ對シ各種ノ經濟的障壁ヲ設ケテ居ルコト御承知ノ通デアルスノ如キ兩國友好關係ヲ妨グル根本原因ガ現實ニ除去セラレナイ限り國交ノ調整ハ實現不可能デアルト思フ。

佛印經由援蔣行爲ニ付テ言ヘバ從來我方ヨリ屢々之カ停止方ヲ求メタルニ拘ラズ今猶蔣政權向多量ノ軍需品ガ佛印經由輸送セラレテ居リ又佛印ニ於テハ軍事的若ハ政治的目的ヲ有スル反目的支那人ノ往來モ頻繁ヲ極メ居リ佛印ハ恰モ援蔣抗日行爲ノ源泉タルカノ如キ觀ヲ呈シテ居ル佛印當局

ニ於テハ純粹ナル武器ノ通過ハ禁止シ居ルモ其ノ他ノ物資ニ付テハ假令其レガ軍用ニ供シ得ヘキモノタリトモ是レガ一般商品トシテ通過スル限り之ヲ遮斷シ難シト辯明シ居ル處純粹ナル武器彈藥スラ依然輸送セラレ居ルハ疑ノ余地ナキ事實デアリ又食料品、「トラツク」、石油、各種ノ機械類等假令純粹ナル武器彈藥ナラズトモ其レガ蔣政權ニ供給サルル限り其ノ抗日戰鬪力ヲ維持培養スルモノデアツテ此ノ點ハ佛國ガ對獨戰爭ニ於テ發表セル戰時禁制品目ニ徵スルモ明カデアル宣戰布告ノ有無ノ如キハ此ノ關係ニ於テハ實際上問題トナラナイ我方トシテハ國ヲ擧ゲテ專念シツツアル支那事變ノ處理ヲ妨クル蔣政權向一切ノ貨物輸送ニ對シ佛國ガ法律的末節ノ議論ヲ離レ實際政治ノ見地ヨリ之レヲ遮斷スルノ英斷ニ出ラレンコトヲ切望シ且ツ何等カ適當ノ方法ニ依リ援蔣「ルート」遮斷ノ具體的結果ニ付我國民ヲ納得セシメ得ルコトトナラバ日佛友好關係ノ増進ニ資スル所大ナリト信スル今回我軍ノ廣西作戰モ從來ニ於ケル我方ノ屢次ノ申入ニ拘ラズ依然佛印ヲ經由シテ廣西向軍需品其ノ他ノ貨物輸送ガ繼續セラレ居ルニ鑑ミ遂ニ此方面ニ實力行動ニ出ヅルノ已ムナキニ至ツタ次第デアル

尙最近數ヶ月間ニ屢々貴方ヨリ本邦軍用機ノ佛印領土内飛行及爆彈投下ニ付御抗議アリタル處右ハ佛印國境近クニ在ル支那領鎮南關(Chen Nam Quan)ガ佛印ヲ經由シテ蔣政權向輸送セラルル軍需品ノ集散地ナルニ鑑ミ我軍トシテハ軍事上ノ必要ヨリ同方面ニ於テ爆撃ヲ行ハザルヲ得ザル事情ニアリ、其ノ際本邦軍用機中ニハ或ハ不可抗力ニ依リ或ハ過ツテ佛印領内ヲ飛行シ又ハ爆彈投下ヲナシタルモノモ若干ハアツタ様デアル。右ハ甚ダ遺憾ナル出來事デ之ニ付帝國政府ハ夫々適切ナル措置ヲ執ツタコト御承知ノ通デアルガ若シ佛國ニシテ援蔣行爲ヲ停止セラルルニ於テハ右ノ如キ不幸ナル事件モ起ラナクナル譯デアル

南洋及太平洋方面佛領、殊ニ佛印ニ於ケル反日的經濟障壁ニ付テ言ヘバ

(イ)佛印當局ニ於テ現在我商品ニ對シ高率關稅、輸入割當等現行通商協定ノ精神ヲ蹂躪スルガ如キ輸入制限措置ヲ講ジテ居ルノハ我方ノ甚ダ不滿トスル所デアツテ之レガ撤廢又ハ緩和方御考慮願ヒ度イ

(ロ)又先般漸ク解決シタ佛印ノ鐵鑛輸出禁止問題ニ見ル如ク佛印、「ニューカレドニア」等ニ於テハ從來往々政治的理

由ニ依テ我國ヘノ資源供給又ハ邦人ノ入國、企業經營等ヲ阻止スルノ態度ヲ示サレタガ將來ハスルコトナク寧口進ンデ此等ノ問題ニ付積極的の二便宜及支援ヲ與ヘラレンコトヲ希望スル。

佛國側ヨリ前記諸問題ニ關スル御意嚮御回答ヲ得バ幸甚ニ存ズ

別紙丙號ノ一

昭和十四、十一、三十

廣西作戰及佛印經由援蔣行爲停止方ニ關シ佛印當局ト懇談ノ爲本省係官及軍事專門家派遣ノ件ニ付在京佛大使ニ對スル野村大臣談話要領(案)

日佛國交調整ニ關スル我方ノ氣持ハ以上述べ通りデアルガ此際特ニ一言申添ヘ度キハ今回ノ廣西作戰ニ關シ我軍ノ行動範圍ガ佛領印度支那國境ニ近接セル爲印度支那當局ニ於テ右作戰ノ推移ニ付不安乃至疑念ヲ有セラルルヤニ察セラルルガ其ノ不安乃至疑念ヲ氷解セシメ且今後河内駐在帝國總領事ガ本問題ニ關聯シ充分印度支那當局ト連絡折衝スルニ資スル爲外務省ヨリ近日中係官一名ヲ數日滞在ノ予定

ヲ以テ河内ニ派遣セシメ度尙其ノ際南支ニ於ケル軍事行動ニ關シ印度支那軍當局ニモ篤ト實際情況ヲ傳ヘ尙印支國境方面ノ狀況ニ付印支側ヨリモ説明ヲ聽キ意思ノ疎通ヲ圖ル爲佐官級ノ軍事専門家一名ヲ隨伴セシメ度ク考ヘ居レリ就テハ貴大使モ右意嚮ヲ諒解ノ上前記二名ノ派遣ヲ現地佛當局ニ傳達セラルト共ニ何分ノ便宜ヲ供與セラレンコトヲ希望ス

尙貴方ノ御都合ツカハ在京佛國陸軍武官ヲ同道派遣セラ
ル、コトモ結構ト考ヘ居レリ

別紙丙號ノ二

昭和十四、十一、三十

廣西ニ於ケル我軍事行動及日佛國交調整(殊ニ佛印經由支那向軍需品輸送停止方)ニ關シ現地總領事及佛印當局ト連絡又ハ懇談ノ爲本省係官及軍事専門家派遣ノ件ニ付在京佛大使ニ對スル野村大臣談話要領

日佛國交調整ニ關スル我方ノ氣持ハ只今申述ベタ通りデアルガ本件ニ於テハ佛印關係ノ問題ガ重要部分ヲ占メル次第デアルカラ此際本省係官ヲ河内ニ派遣シテ其詳細ヲ同地駐

在帝國總領事ニ篤ト説明セシメ置クコトハ今後本件ニ關スル同總領事ト印度支那當局トノ連絡折衝ヲ充分ナラシメル上ニ必要且ツ有益デアルト思フ

又今回ノ廣西ニ於ケル我軍事行動ハ其ノ範圍ガ佛印國境ニ近接シ居ルコトデモアリ、印度支那當局ニ於テハ右軍事行動ノ推移ニ付不安乃至疑念ヲ有セラレルモノ、如クデアルカラ其實際情況ヲ右外務省員ヨリ篤ト河内駐在帝國總領事及佛印當局ニ傳ヘシメ、以テ右不安乃至疑惑ヲ解決カシムルト共ニ本省ニ於テ今後モ引續キ佛印關係ノ事務ヲ取扱フベキ右係官ヲシテ佛印當局ト意思ノ疏通ヲ圖リ置カシムルコトハ機宜ニ適スルモノト思フ

依テ右目的ノ爲近日中ニ本省係官一名ヲ河内ニ派遣致度イト考ヘテ居ルガ廣西ニ於ケル我軍事行動ニ關スル説明ハ何分軍事専門的智識ヲ要スル次第デアルカラ前記外務省員ヲ輔佐スル爲軍事専門家一名ヲ隨行セシメルコト、致度イト思フ右兩名ハ河内ニ數日間滞在ノ上東京ニ引返ス次第デアル

就テハ貴大使ニ於テモ本件趣旨ヲ御了解ノ上右二名ノ派遣ヲ佛印當局ニ傳達セラレルト共ニ何分ノ便宜供與方御取計

アランコトヲ御願ヒ致度イ

尙、貴方ノ御都合ツカバ貴大使館附陸軍武官ヲ同道派遣セラル、コトモ結構デアルト思ツテ居ル

~~~~~

1752

昭和14年12月12日  
野村外務大臣  
在本邦アンリ仏国大使——會談

仏印經由援蔣物資輸送の事実はないなどわが  
方提議へのアンリ大使回答について

日佛國交調整問題ニ關スル

十二月十二日野村大臣在京佛大使會談錄

(在京佛大使野村大臣ニ會見ヲ求メ十二月十二日午后五時  
十五分ヨリ大臣官邸ニ於テ會談行ハル)

先ツ大使ヨリ「口頭ニテ申上ゲントスル所ヲ便宜上其儘、  
先般貴大臣ヨリ頂キタルト同様ノ形式ノ書キ物トシタルモノ  
ヲ讀上ゲ度キニ付御諒承アリ度シ」ト述べタルニ對シ大  
臣領カレタルニ依リ大使ハ別紙假譯文ノ如キ内容ノ書キ物  
ヲ一節ヅ、讀上ゲ。

(別紙)

日佛國交調整問題等ニ關スル野村大臣申入ニ對スル  
在京佛大使回答假譯

(昭和十四、十二、十二)

「佛國政府ハ去ル十一月三十日閣下ヨリ御申出アリタル件  
ニ關シ慎重ニ考究スヘク其ノ後ニ非サレハ閣下ニ對シ正式  
ノ回答ヲナシ得ナイ

然シ乍ラ不取敢本使ハ茲ニ本國政府ノ命ニ依リ帝國政府カ  
印度支那佛當局ニ對シ過去ニ於テモ全ク根據無キコト證明  
セラレタル不滿ヲ今回再ヒ繰返サレタルコトニ對シ佛國政  
府トシテハ誠ニ心外ニ堪エサル旨閣下ニ申述ヘネハナラヌ  
佛國政府トシテハ帝國政府ノ諸要求ニ對シ満足ヲ與エタル  
直後ニ於テ帝國政府カ所謂印度支那經由武器輸送ニ關スル  
非難ヲ持出シテ茲ニ新タナル要求ヲ提出セラレタルコトヲ  
意外ニ存スル次第テアル

佛國政府ニ於テハ各種ノ問題例ヘハ帝國軍隊ニ依ル海南島  
占領、「スプラットレー」群島(註新南群島)ノ併合ニ關ス  
ル決定、揚子江ノ自由航行ニ對スル妨碍、支那ニ於ケル帝  
國軍隊ノ占領地域内ニ於ケル通商自由ノ侵害及其他支那事  
變發生以來支那ニ於テ佛國權益ノ蒙リタル總テノ損害等ノ

問題ニ付卒直ニ意見ノ交換ヲ行フヘキ會談ヲ開始スルコトカ帝國政府ノ意嚮ナルニ於テハ右ニ異議アルモノテハナイ印度支那ニ日本外交官及將校ヲ派遣スルノ件ニ關シテハ其ノ實際の利益如何ハ疑ハシイ印度支那總督ニ對シ公式ノ使節ヲ派遣スルコトハ勿論問題トナラナイ蓋シ日本行政當局ト佛印總督トノ關係ハ既ニ河内駐在日本總領事ニ依リ正常ニ保タレテキルカ故テアル然シ乍ラ若シ帝國政府ニ於テ同總領事トノ間ニ特別ノ連絡ヲ保タント欲セラルルニ於テハ信書使(Courriers de Cabinet)ヲ送ラルルコトハ素ヨリ可能テアル、右ニ對シ佛國大使館ニ於テ印度支那ヘノ入國及戰時個人ノ資格ニ於テ同領内旅行ノ外國人カ通常享有スル行動ノ自由ヲ保證スル查證ヲ拒否スヘキ何等ノ理由モナイ閣下ハ前回ニ於ケル御申出ノ際北海竝ニ南寧方面ノ軍事行動ニ付御説明アリタルニ依リ佛國政府ニ於テハ同地域ニ關スル原則ニ就テノ佛國トシテノ立場ヲ想起スルコトカ有益ナリト信スル

本使カ既ニ閣下ノ前任者ニ對シ屢々申上ケタル通り佛國政府ニ於テハ日本軍カ東京灣ニ於テ行動ヲ差控エラレタルハ佛國政府カ印度支那經由軍用材料輸送ヲ禁止スルノ手段ヲ

執リタルコトニ對スル代償ナリト了解シ居タル次第テアル、假ニ右ノ如キ輸送行ハレタリトスルモ國際法ノ見地ヨリ見テ何等非難ヲ招クヘキモノテナク寧ロソノ禁壓コソ國際聯盟ノ一員タル佛國ヲ道德的ニ拘束スル特別ノ規定アルニ鑑ミ佛國ヲ極メテ機微ナル立場ニ置クモノテアツタ

佛國政府ハ更ニ一般の見地ヨリ見テ目下兩國政府ニ依ル一九〇七年ノ日佛協約ノ尊重ヲ緊要ナラシメテキル政治的均衡ノ不安ナルモノハ帝國軍隊カ同方面ニ於テ執ラレタル各種ノ軍事行動ニ起因スルモノト思考スル

仍ツテ本使ハ印度支那隣接地帶ニ於テ行ハレ居ル軍事行動ノ目的性質及其ノ繼續期間ニ付閣下ヨリ御説明ヲ得レハ幸甚ニ存スル」

右朗讀了リタル後、

大臣「當方ニモ申上ゲ度キコトガアル佛側ニ於テハ佛印經

由軍需品輸送ノ事實無シト繰返シ述ベテ居ラレルガ、

當省ノ得テ居ル情報ニ依レバ右輸送ノ事實アリト斷定セザルヲ得ナイ例ヘハ最近我方ガ支那ニ於テ得タル確實ナル情報ニ依レバ重慶政府ハ廣西ニ於ケル我軍事行

動ニ鑑ミ同方面ニ在ル軍用材料其ノ他ノ物資ガ日本軍ニ押收セラル、ヲ防グ爲之ヲ一時佛印領内ニ逆送スルコトニ付佛側ノ斡旋ヲ求メタル結果佛側ニ於テハ相當好意ノ取計ヲ爲スベキ旨約セリトノコトデアルガ右ハ佛側ガ軍需品ノ輸送其ノ他ニ付重慶政府ニ種々ノ便宜ヲ供與シ之ヲ軍事ノニ幫助シテ居ルコトヲ示ス一材料デアル、

又佛側ニ於テハ從來往々支那向軍需品其他ノ物資輸送ヲ停止スル法律上ノ義務無キコトヲ主張シテ居ラレルガ、其點ニ關シテハ日支間ニハ宣戰布告ガ發セラレテ居ナイノデアルカラ佛側ニ法律上對支物資輸送停止ノ義務ナキコトハ我方モ勿論承認シ居ル所デアルガ日本ト重慶政府トノ間ニ大規模ノ戰鬪行爲ガ行ハレテ居ルコトハ明カナ事實デアル。而シテ佛印經由ノ對支物資輸送ハ日本ノ敵タル重慶政府ヲ直接間接援助スルノ結果トナツテ居リ、我方トシテ之ヲ默視シ得ナイコトハ貴大使モ容易ニ御了解ニナルデアラウ從テ佛側ガ形式的法律論ニ囚ハレラル、コトナク實際の大局の見地ニ立ツテ右輸送停止ノ英斷ニ出デラレンコトヲ我方ハ切

望シテ居ル次第デアル」

大使「佛國政府ハ貴大臣ノ前任者數人ニ對シ繰返シ佛印經由軍需品輸送ノ事實無キコトヲ申上ゲタルニ帝國政府ニ於テ未ダ之ヲ信用セラレナイノハ誠ニ遺憾デアル、帝國政府ガ所謂情報屋ノ持參スル曖昧ナ情報ヲ根據ニシテ佛國政府ノ眞意ヲ疑フ如キ言辭ヲ繰返サレルノハ甚ダ残念デアル、只今御話ノ前段ノ件ハ自分ハ既ニ香港新聞ニテ讀ンデ居ル斯卡ル情報ハ香港ニ於テ製造セラレル無責任極マル情報デアリ信用シ得ナイ、又調査スルニモ致シ様ガ無い、勿論佛國政府トシテハ帝國政府ヨリ具体的事例ヲ舉ゲラレルニ於テハ調査ヲ怠ルモノデハ無い然シナガラ帝國政府ガ過去ニ於テ同様ノ要求ヲ出サレタ際示サレタ情報ナルモノハ何レモ曖昧模糊タルモノデアツテ一トシテ實證の事例が無い」

大臣「先程御朗讀相成ツタ御申出ノ詳細ニ付テハ直ニ御答ヘスルコトヲ得ナイガ、唯二、三質問ヲ許サレ度イ

印度支那ヘノ「クーリエ」ノ件ニ付テ

第一佛國政府ハ査證ヲ與ヘラル、ヤ

第二印度支那内ニ於テ外國人旅行者ガ個人ノ資格ニ於

テ有スル行動ノ自由トアリタルガ其レハ如何ナル  
モノナリヤ

第三、在京佛國陸軍武官ヲ同道セシムルコトハ可能ナリ  
ヤ

ト尋ネラレタルニ對シ

大使「第一、勿論査證ヲ拒絶スル理由ハ無イ

第二、印度支那戰時下ノ法規ニ準據スル限りニ於ケル行  
動自由ヲ意味スル

第三、單ナル「クーリエ」トシテ出張セラル、ニ當リ、

當方陸軍武官ヲ同道セシムルノ必要ハ考ヘラレナ  
イ右旅行ニハ何等困難ナク日本ヨリ船ニテ海防ニ  
上陸セラレ自動車ニテ河内ニ向ハレルノニ何等面  
倒ノ起ル筈ハ無イ」ト答ヘ

大臣「兎ニ角能フ限りノ便宜供與方ヲ御願ヒスル」ト述べ  
ラレタリ

次イデ更ニ大臣ヨリ「先程廣西作戰ノ目的、性質竝ニ繼續  
期間ニ就テノ御質問ガアツタガ右ハ統帥事項ニ屬スル  
モノデ茲ニ自分ヨリ確言シ得ナイガ自分ノ承知シテキ  
ル所ニ依レバ其ノ目的ハ蔣政權ニ對スル兵站路即チ武

器食糧品其他凡ユル物資ノ輸送路ヲ遮斷スルニ在ル、  
右ハ支那沿岸ニ對スル封鎖ト竝行シテ行ハルモノデ  
根本ノ目標ハ蔣政權ヲ崩壞セシメントスルニ外ナラナ  
イ、繼續期間ニ就テハ蔣政權ヲ崩壞セシメナイ内ハ何  
トモ申上ゲラレナイ」

ト述べラレタルニ佛大使ハ沈黙ノ儘頷キタリ



1753

昭和14年12月21日 野村外務大臣  
在本邦アンリ仏国大使 會談

日仏国交調整に当たつては雲南鐵道への空爆  
容認発言の是正など両国間の感情融和が緊切  
の旨アンリ大使より注意喚起について

駐日「アンリ」佛大使・野村外務大臣會談録

昭和十四年十二月二十一日

大使 揚子江開放問題ニ關シテハ昨日西歐亞局長ヨリ「フ  
アン」參事官ニ對シ御説明アリタル處開放ノ條件乃至ハ  
制限等ニ關シ閣下ヨリ詳細承ルコト可能ナリヤ。尙佛國  
政府ニ於テハ日佛間國交調整ニ關シ種々會談ヲ開始スル  
コト兩國親善關係ニ鑑ミ緊要ノ事ト存ズル處、日英間ニ

於テモ天津問題ヲ繞リボツボツ會談進捗シ居ル模様ナルヲ以テ、之ト併行の二是非共日佛間ノ會談ヲ開始致度シ大臣 日佛國交調整ニ關スル貴大使御申入ハ前回貴大使トノ會談ノ際御提示相成リタル「エドメモアール」ニモ記載アリタル處、右ノ中揚子江問題ニ關シテハ既ニ御通知致シタル通りナリ、而シテ揚子江岸ニハ今尙敵軍或ハ敵匪出沒シ居ル情況ニシテ漢口ノ後方等ニ於テハ日本ノ兵站路其ノ他交通遮斷ノ行動ニ出ヅルコト多シ、斯ノ如ク占領地ニ於テモ戰鬪行爲激烈ニシテ揚子江開放ノ條件トシテハ

第一、敵ニ兵器彈藥ヲ直接タルト間接タルトヲ問ハズ供給セザルコト、右ハ軍ノ治安ノ見地ヨリ絕對必要ナリ

第二、揚子江ニ關シテハ英國最モ權益多ク、之ガ航行ニ關スル種々ノ條件等ニ付テモ英國側ト話合フコト必要ニシテ目下意見ノ交換中ナリ、從ツテ英側トノ打合セヲ爲シタル後ニ非ザレバ詳細御説明シ難シ

日佛國交調整ニ關スル佛國側御見解ニ對シテハ當方ニ於テモ關係當局ニ於テ種々檢討シ居ルニ付、近キ將來ニ公正ナル立場ニ於テ御話スルコト可能ナリト思考ス、但シ

何月何日ト云フガ如ク的確ニ時ヲ申上ゲ難シ、本大臣トシテハ兩國間ノ話合ヲ爲スニ當リテハ建設の立場ニ立チテ爲スコト肝要ナリト存ズルモノニシテ、貴國側ニ於テモ十二分御協力アランコトヲ希望ス

大使 兩國間ノ話合ヲ開始スルニ當リ兩國間ノ感情ノ融和ヲ圖ルコト緊切ト思考ス、而シテ貴大臣ノ述べラレタル建設の立場ニ於テ爲スコトニハ全ク同感ナルモ、之ニ付テ若干貴大臣ノ御注意ヲ喚起致度シ、即チ日本國內ニ於ケル新聞通信社其ノ他責任アル當局者ノ言明ニ於テ若干右國交調整ノ機運ト背馳スルガ如キモノアルハ遺憾ニ堪ヘズ、之等ヲ排除シ兩國間ノ空氣ノ緩和ヲ圖ルコト是非共必要ト存ズ、茲ニ氣付キタル儘二三ノ例ヲ申上ゲ度シ、十二月六日、上海情報部長ハ雲南鐵道ニ關シ同鐵道ヲ爆撃セザル事ニ關シ日佛間ニ何等協定ナシト言明セラレタリ、右ハ其ノ通りナルモ、續イテ同部長ハ雲南鐵道ヨリハ多數ノ武器、軍需品等輸送セラレ居ルヲ以テ、之ヲ停止セザレバ同鐵道ヲ無警告爆撃スルコトアルベシト述べラレタリ、右ハ同盟通信社ニ依リ佛國竝ニ諸外國ニモ電報セラレタリ、然ルニ右軍需品ノ輸送ハ全

ク事實無根ニシテ斯卡ル報道佛國ニ達スル時ニハ佛國輿論ヲ刺戟スルコト必定ナリ

三、十二月十三日外務省情報部長ハ十二月十二日ニ於ケル貴大臣ト本使トノ會談ニ關シ帝國政府ニ於テハ印度支那經由武器輸送ノ事實ニ關シ佛國政府ノ注意ヲ喚起スル所アリタリ云々ト語ラレ右亦同盟ニ依リ海外ニ放送セラレタリ

三、廣東派遣軍參謀長土橋少將ノ「ハノイ」行ニ關シ佛國政府ニ査證發給方御依頼アリタル處同少將ハ全ク私的會談ノ爲メ赴カルル由申越サレタルヲ以テ佛國政府ニ於テハ出來得ル限り便宜供與方取計ヒタル處十二月十三日同盟通信ハ土橋少將ハ印度支那經由武器輸送ニ關シ日本竝佛印當局間ノ正式交渉ノ爲メ赴任セリトノ記事ヲ掲ゲタリ右ハ全ク事實ヲ歪曲セルモノニシテ佛國政府トシテハ誠ニ遺憾ナリ

四、過日讀賣新聞ハ松尾特派員ノ電報ヲ掲載セル處右電報ニ於テ佛國ノ前線竝ニ銃後ノ模様ヲ記載シ誠ニ興味多キ記事ナリシ處同記事末尾ニ「佛國ニ於テハ失業者多ク最近支那ヨリ軍需品ノ注文アリタル爲メ失業救済ノ

見地ヨリ佛國政府ハ大イニ満足シ居レリ」トノ記事アリタルヲ以テ本使ハ斯ノ如キ記事ガ佛國檢閲ヲ通過スルトハ考ヘラレズ直チニ佛國檢閱當局ニ照會シタル處右ノ如キ電報ハ全然巴里ヨリ發送セラレ居ラズ全ク東京ニ於テ捏造セラレタルモノニ過ギズト判明セラレタリ佛國政府トシテハ斯ノ如キ虛構ノ宣傳行ハルルコトハ堪ヘ難ク必要ニ應ジテハ否定記事ヲ發表スルノ已ムナキニ至ルベク佛國政府トシテハ斯ノ如キ繼續的新聞「キヤンペーン」ノ行ハルルニ於テハ佛國政府トシテモ甚ダ不愉快ニシテ又佛國輿論ヲ刺戟スルコト大ナリト思考ス勿論只今申上ゲタルハ日佛間ノ交渉ヲ繼續セザル意思ヲ有スル爲ニアラズ交渉ヲ圓滑ニ行ハンガ爲ニハ之等新聞通信社竝關係當局ニ對シテ十二分御注意アランコトヲ切ニ御願スル次第ナリ

大臣 帝國政府ハ御承知ノ通り歐洲戰爭ニ不介入ノ方針ヲ決定シタルヲ以テ交戰國ノ双方ニ對シ親善關係ヲ維持シテ行キ度キ考ナリ而シテ新聞ニ於テモ出來得ル限り公平ナル取扱ヲナスコト肝要ナリ不幸ニシテ現狀ニ於テハ交戰國ノ双方ヨリ度々申入レアリ政府トシテモ十分注意ヲ



1754

昭和15年1月5日

## 雲南鐵道空爆に関する仏国側の対日抗議について

致シ本日ノ如キモ内閣ニ於テ新聞社幹部ヲ招待シ注意ヲ喚起スル所アリタリ併シ乍ラ御承知ノ通り本邦ニ於テハ言論ノ自由アル爲メ治安風俗竝國交上有害ナル記事ニ非ザレバ之ヲ取締ルヲ得ズ國交上有害ノ記事ト云フモ程度アリ必ズシモ總テノ記事ヲ統制スルコト不可能ナリ此ノ點十分御諒承アリ度シ

大使 日本新聞ノ自由ニ付テハ本使モ十分承知シ居レリ唯問題ハ同盟ノ如ク外國ニ於テ國策通信社ト考ヘラレ居ル通信社ガ以上ノ如キ記事ヲ掲載シ或ハ又帝國官憲ガ佛國ヲ誣ユルガ如キ言明ヲナサルコトヲ差控ヘラレ度キコトヲ茲ニ申述ベタル迄ナリ

大臣 貴大使ノ御申入レハ十分了解セリ繰返シテ申上グルモ本邦ニ於ケル新聞ニハ統制ヲ加ヘラレザルヲ以テ或ル程度ノ記事現ハルルコトハ避ケ難シ但シ度ヲ越シテ有害ナルモノニ付テハ十分注意致スベシ

~~~~~

雲南鐵道爆撃ニ關シ佛國側ヨリ帝國政府ヘ

抗議申入レノ件

昭和十五年一月五日在京「アンリ」佛國大使野村大臣ヲ外務省ニ來訪本國政府ノ訓令ニ基ク趣ヲ以テ雲南鐵道ノ爆撃ニ關シ抗議申入レノ次第アリ之ニ對シ野村大臣ハ實情調査ノ上何分ノ回答ヲ爲スヘキ旨應酬シ置キタルカ其ノ際「アンリ」大使ハ野村大臣ニ對シ左記趣旨ノ覺(假譯)ヲ手交セリ

記

在京佛國大使ハ本國政府ノ訓令ニ基キ日本軍飛行機力引續キ三回ニ亘リ雲南鐵道ヲ爆撃シタル事實ニ關シ貴外務大臣ノ深甚ナル注意ヲ喚起スルノ光榮ヲ有ス即

去ル十二月三十日二十七機カ九十八杆及八十三杆ノ地點ニ爆彈ヲ投下セリ

去ル一月一日十八機カ八十三杆ノ地點ニ爆彈ヲ投下セリ
去ル一月二日多數飛行機カ七十四杆ノ地點ニ爆彈ヲ投下セリ

在京佛國大使ハ本件鐵道カ完全ニ佛蘭西資本ニ依リ建設セラレタルモノナルコト及ヒ同鐵道カ佛國會社ノ財産ニシテ

其ノ經營シ居ルモノナルコトニ關シ茲ニ注意ヲ喚起スルノ
光榮ヲ有ス

佛蘭西共和國政府ハ如何ナル觀點ヨリモ正當化シ得サル本
件爆撃力出先ノ發意ニ基ク遺憾ナル出來事タリシヲ信スル
モノナルカ本件攻撃ハ日本軍飛行機ノ「ドウゾン」不時着
問題ニ關聯シ佛國ノ取りタル極メテ友好的ナル態度ニ對ス
ル不可思議ナル回答ノ如キ觀ヲ呈セリ

佛國政府ハ帝國政府カ東京ニ於テ外務大臣閣下ヲ通シ又巴
里ニ於テ駐佛大使ヲ通シ友好的意圖ヲ表明セラレ居ル此ノ
際軍最高司令部カ日佛兩國接近ノ爲ノ凡テノ努力ヲ無ニス
ルニ最モ適當ナル斯ル事件ヲ惹起セシメラレタルモノトハ
解シ得ス

仍而佛國政府ハ帝國政府ヨリ事態右ノ如クナリシコトノ確
認及ヒ將來斯ル事件ノ再發ヲ禁遏スル爲ニ有效ナル凡テノ
措置ヲ取ラレタル旨ノ保障ヲ得ルヲ得ハ最モ幸甚トスル所
ナリ

在京佛國大使ハ茲ニ本件鐵道會社カ其ノ蒙レル損害ノ賠償
ヲ得ルノ權利ニ關シ有效ナル總テノ留保ヲ爲シ置クモノナ
リ

1755

昭和15年1月8日
在仏国沢田大使より
野村外務大臣宛(電報)

仏印經由援蔣物資の輸送停止などわが方要求
の承諾を仏国外務次官へ説示について

パリ 1月8日前発
本省 1月8日後着

第一九號(極秘、至急、館長符號扱)

一⁽¹⁾「ダラデエ」首相ヨリ豫テ本使ヨリ會見ノ希望アリタリ
トノ理由ニテ本月二日會談方申越シアリ本使ヨリハ右ハ
誤傳ニテ別ニ會見ヲ求メス又差當リ會見ヲ求ムル要件モ
ナシトテ取消サシメタルニ先方ヨリ年頭ノ挨拶ノ意味ナ
ラハ可ナラスヤトコトナリシヲ以テ雜談ヲ交ヘタリ談
話中本使ヨリ歐洲戰爭モ時ノ經過ト共ニ英佛側ニ有利ニ
展開シツツアルヤニ聞クト言ヒタルニ「ダ」ハ未タ未タ
幾多ノ困難ニ逢着スルヲ豫期セサルヘカラス只最近特ニ
蘇聯邦ノ芬蘭ニ於ケル失敗以來獨逸ハ其ノ内政外交各方
面ニ非常ナル焦燥氣分ヲ現シ居リ之ハ獨逸人ニモ似合ハ
サルコトニテ從テ特ニ注目スヘキ面白キ兆シナリト認め
居レリト語り日佛關係ニ付テハ「ダ」ハ兩國ハ古キ親善

ノ傳統ヲ有スルコト故益々之ヲ強化シタキモノナリト述
ヘタルヲ以テ本使ハ最近稱ヘラルル國交調整モ結構ナル
コト乍ラ之カ爲ニハ双方共ニ先ツ各個ノ特殊地位又ハ國
家の運用ヲ充分諒解シ

其ノ根本的の了解ヲ遂ケタル上ナラテハ恆久的ナル親善關
係ヲ打樹ツルコト不可能ナリ故ニ急カス靜ニ而モ健實ニ
右了解ヲ昂メ行クコト肝要ト認ムル旨答ヘタルニ「ダ」
モ固ヨリ「アンプロビザシオン」ハ長續キセス徐々ニ健
全ナル地盤ヲ作ルコトニ努力スヘシトテ同感ノ意ヲ表シ
タリ

二、翌三日外務省亞細亞局長ハ一應本使ニ「レゼー」次官ト
會談ノ氣持ナキヤヲ尋ネタルヲ以テ固ヨリ着任ノ挨拶ニ
ハ出掛ケル心算ナル旨答ヘ置キタリ其ノ取計ノ結果五日
「レゼー」ト會見シタルニ「レ」ハ首相ト本使トノ會談
模様ヲ聞キ事務的ニモ本使トノ會見有益ナリト感シタル
旨ヲ述ヘ人民戰線存在當時其ノ掣肘ヲ受ケテ「ケードル
セイ」トシテモ遣リ難キコトアリシヲ陳辯シ但シ最近ニ
ハ佛國側ヨリハ好意ヲ以テ各種懸案ノ讓歩解決ヲ計リ來
リシニ日本側ヨリハ一向報ヒラレス之ニテハ妥協ヲ以テ

臨ムモ無益ナリトノ非難ヲ受クル惧アリ何トカ色好キ態
度ヲ示シ貫ヒタキモノナリト言ヒシニ依リ

本使ハ日本政府ノ要求スル所ハ佛國カ先ツ現在ノ極東ノ
事態ヲ充分ニ認識シ呉レルコトニ在リ從テ客年十一月三
十日野村大臣ヨリ「アンリー」大使ニ要求セラレタル點
ノ如キハ先ツ率直ニ承諾セラルルコト必要ニテ然ラハ日
本政府モ或ハ引續キテノ話ニモ乘リ得ルナラント思考セ
ラレ然ル上ハ本使モ充分仲介ノ職ヲ盡スヘシト答ヘタル
ニ「レ」ハ客年貴電合第二八五號「アンリー」大使ノ
中間報告ト同様理由ヲ繰返シテ右野村大臣ノ要求承諾困
難ナルヲ述ヘタリ依テ本使ハ夫ハ理窟ナリ此ノ際ハ理窟
ヲ離レ好意ヲ以テ考ヘラルルコトカ局面打開ノ第一歩ナ
リト認ムト言ヒタルニ「レ」ハ之ヲ「ノート」シ乍ラ別
ニ約束ハセサリシモ再考スルカ如キ口吻ヲ洩シタリ

三、序ヲ以テ客年貴電第四六六號ノ件ニ言及シ日本ハ佛國側
ノ誠意ニ信頼シテ其ノ了解基礎ノ下ニ「タイ」國トノ間
ニ協定ヲ締結シタルニ佛國側最近ノ申立ハ該協定實施ヲ
不可能ナラシムルモノニテ當惑シ居リ詳細ハ事務當局ニ
申出サシメ置キタルニ依リ之モ好意ヲ以テ再考アリタキ

旨述ヘタルニ「レ」ハ之亦「ノート」スルト共ニ取調ヘ
シムヘキ旨答ヘタリ

~~~~~

1756

昭和15年1月12日 野村外務大臣  
在本邦アンリ仏国大使 一 会談

雲南鐵道空爆に関する仏国抗議に対しわが方  
回答を野村外相通告について

付記 外務省作成、作成年月日不明

雲南鐵道空爆に関しわが方に損害賠償の義務  
なき理由

雲南鐵道爆撃問題ニ關スル野村外務大臣在京佛國  
「アンリー」大使會談

昭和十五年一月十二日

自午後三時 至四時

於外務大臣室

野村大臣 雲南鐵道ノ爆撃ニ關スル佛國政府ノ抗議ニ對ス  
ル帝國政府ノ回答ヲ申シ上グベシトテ別紙ヲ讀ミ上グ  
「アンリー」大使 御回答ノ趣旨ハ早速本國政府ニ傳達ス  
ベシ、只此處ニ再應閣下ニ申上ゲ度キハ何度モ本使ガ言

明シ居ル通り佛側ガ雲南鐵道ヲ通ジ武器ヲ輸送シ居ル事  
實全然無キコトナリ、御回答ニ武器以外ノ物資トハ如何  
ナル物ヲ云フヤ指摘セラレ度

大臣 軍ハ蔣政權ノ抗戦力ヲ撃破スル爲メニハ兵器彈藥其  
ノ他戦争ニ必要ナル物資ノ之ニ到達スルヲ遮斷スル必要  
アリト考ヘ居ルモノナリ

大使 然ラバ米、乾果物等ヲモ之ニ含マシムル御考ナリヤ  
蔣政權ノ抗戦力ヲ強ムル物資トハ如何ナルモノナリヤ明  
示セラルレバ幸ナリ

大臣 蔣政權ノ機械化部隊ヲ動カシ又軍ノ移動ヲ助クル石  
油自動車ノ如キハ其ノ最タルモノナルベシ

大使 御要求ハ佛國側ガ佛印國境ヲ閉鎖セヨト云フニ在リ  
ト諒解シテ可ナリヤ

大臣 然ル意味ニハ非ズ

最近到達セル新聞報ニ依レバ在支佛大使「コスム」氏ハ  
重慶ニ於ケル或會合ニ於テ蔣介石ヲ激勵シ侵略ニ對シテ  
最後迄抗戦スベシトノ趣旨ヲ述ベタル由ナルガ、帝國ガ  
佛國トノ親善關係繼續ヲ企圖シ居ル此ノ際佛國政府ノ代  
表者ガ斯ル言ヲ弄セラル、ハ遺憾ナリ

日本ガ國力ヲ舉ゲテ蔣政權ト戰ヒ居ル此ノ際ナルニ付佛國ハ此ノ事態ヲ認識セラレ日支間ニ嚴正ナル中立態度ヲ執ラレ度キ次第ナリ

大使 佛國ハ國際法上何等ノ義務無キニモ拘ラズ早クヨリ自發の二支那ニ對スル武器彈藥ノ輸送ヲ禁止シタルニ見ルモ佛國ガ終始中立的態度ヲトリ居ルコトハ明ナリ、今若シ御要求ニ基キ佛印國境ヲ閉鎖スルノ措置ニ出ルコトコソ中立ノ觀念ニ反スルモノナリ、佛國ハ支那ト戰爭狀態ニアルニ非ズ

又重慶ニ於ケル「コスム」大使ノ演說云々ニ關シテハ本使ハ未ダ何等ノ情報ニ接シ居ラズ右ハ支那新聞ノ報道ナルニモ鑑ミ支那側ノ爲メニスル宣傳トモ認メラル

大臣 英ハ曩ニ支那ニ於テ日支間ニ大規模ナル戰爭アル事態ヲ認識セリ、自分ハ佛國ニ於テモ此ノ現實ノ事態ヲ認識セラレ居ルモノト思考ス、此ノ狀態ニ於テ雲南鐵道ガ敵ニ對スル戰爭物資ノ輸送路トシテ利用セラレ居ル事實ハ軍作戦上默視シ得ザル處ナリ、我ガ廣西作戦ノ目標ハ之ガ遮斷ニ在リ、先程本大臣ガ「蔣政權ノ抗戦力ヲ強ム可キ一切ノ物資輸送ヲ自發の二停止シ且我軍當局ニ於テ

其ノ事實ヲ確認シ得ル何等カ適當ナル具体的方法ヲ講ゼラレ度シ」ト云ヘル點ニ付御考慮アランコトヲ希望ス

大使 承知セリ、但シ先程貴大臣ハ雲南鐵道ノ爆撃ハ繼續セラル可ク場合ニ依リテハ強化セラル、コトアルベキ旨述ベラレタルガ佛國政府ハ本使ニ對スル訓令トシテ雲南鐵道ノ爆撃ハ佛政府ノ重視スル處ニシテ之ガ繼續ハ兩國關係ヲ惡化セシムルモノナル旨申越シ居ルニ付左様御承知相成度

先程貴大臣ハ「日本ハ佛印向ケ船舶ノ臨檢其ノ他蔣政權向ケト見做サルベキ積載貨物ノ押收ヲ差控ヘ居レリ」ト云ハレシガ日支間ニハ官戰ノ布告無ク國際法上斯ルコトヲ爲シ得ル筈無シ

又佛國ガ日本ノ獨逸トノ貿易ヲ停止スルコトヲ要求シタリトセバ日本政府ハ之ヲ容認セラルルヤ、

次ニ廣西作戦ニ於テ佛印製ナルコト明瞭ナル武器彈藥ヲ鹵獲セラレタリト云フモ佛印ニハ武器工場無シ（此ノ點誤解ヲ訂正シ置キタリ）獨逸製品コソ多量ニ鹵獲サレタルナルベシ

貴方回答ニハ幾多疑問アルモ兎モ角右ハ早速巴里ヘ取次

グベシ

大臣 最後ニ申上ゲ置キ度キコトハ日本ハ蔣政權ヲヤツツケルコトヲ目的トシ居ルモノニシテ佛國ニ對シ他意無ク之トノ國交調整ニハ熱意ヲ有シ居ルコトナリ

大使 佛國政府モ然ルコトヲ希望シ居ルモ軍出先モ同様考ヘヲ持チ居ルヤ疑問ナリ

大臣 中央モ出先モ同様ナル考ヘナルハ申上グル迄モ無シ之ニテ會談ヲ終レルガ「アンリー」大使ハ序ニ御願ヒ致シ置キタキコトアリトテ佛情報事務所ノ設置問題ニ關シ左ノ通り述ベタリ

大使 大使館ニ於テハ最近事務増加シ増築ヲ必要トスル狀態トナリシガ急ノ間ニ合ハズ又其ノ余地モ無キニ付最近大使館ノ近傍ニ新ニ大使館事務所別館ヲ設置シ度キ意向ニテ外務省係官ニ右承認方要請シ置キタル處何カ意外ノ事ノ如ク考ヘラレ居ル様子ナルニ付テハ貴大臣ニ於テ右事情御諒察相成リ許可方斡旋相成度

大臣 關係方面ニ傳達シ置クベシ

(歐二 金山記)

(別紙)

雲南鐵道爆撃ニ關スル在京佛國大使抗議ニ對スル

野村大臣回答(案)

(昭和十五、一、十二)

一、去ル五日貴大使ヨリ本大臣ニ御手交アリタル覺及六日附本大臣宛貴翰ヲ以テ我軍用機ニ依ル雲南鐵道爆撃ニ關シ御申越ノ次第アリタル處帝國政府ニ於テハ豫テヨリ日佛國交ノ大局ニ鑑ミ佛國財産タル雲南鐵道ノ爆撃ハ能フ限り之ヲ避ケントノ見地ヨリ宇垣大臣在任當時ヨリ屢々貴方ニ對シ同鐵道其他佛印經路ニ依ル支那向ケ軍需品等蔣政權側ノ抗戰力ヲ強ム可キ物資ノ輸送ヲ停止セラレンコトヲ要求シ來リ又本大臣自ラモ就任以來既ニ二回ニ亘リ貴大使ニ對シ同趣旨ノ申入ヲ行フト共ニ若シ佛側ニ於テ右輸送ヲ停止セラルルニ於テハ其他ノ兩國間懸案ニ付テモ其ノ合理的解決ヲ圖リ日佛國交ノ全般的調整ヲ爲スノ用意アル旨申出タル次第ナルカ貴方ヨリノ回答ハ徹頭徹尾右輸送ノ事實ニ對スル否定ニ終始セリ。然ルニ實際ハ貴方ノ否定ニモ拘ラス我方ノ入手スル確實ナル情報ニ依レハ明カニ右輸送ノ事實アリタルニ依リ之ニ基キ再三

四貴方ノ再考ヲ促シタルニ拘ラス依然トシテ之カ停止方ニ付誠意アル態度ヲ示サレサリシ結果遂ニ我方ニ於テハ廣西方面ニ軍事行動ヲ起シ佛印ヨリスル同方面ヘノ軍需品其他ノ物資輸送ヲ實力ヲ以テ遮斷スルノ止ムナキニ至レル次第ナリ。果セル哉我軍ノ鹵獲品中ニハ佛印ヨリ輸送セラレ來リタルコト明カナル武器彈藥其ノ他ノ軍需品多量アリタルノミナラス、我軍ノ押收ヲ免カレンガ爲多量ノ同種貨物佛印ヘ逆送セラレタル事實アリ又右軍事行動以來雲南鐵道ニ依ル支那向輸送ハ俄然増加シ一日ノ輸送量ハ二倍以上ニ激増シ居レルコトヲ我方ノ得タル確實ナル情報及我軍用機數次ノ偵察ニ依リ充分推定シ得ルニ至レリ。

斯ノ如キ狀態ヲ放置スルニ於テハ廣西ニ於ケル我軍軍事行動夫レ自身ノ意義ヲ減却スルコト、ナルノミナラス目下蔣介石ハ同方面ノ我軍ニ對シ反擊ヲ企圖シ居ルニ鑑ミ其ノ開始ニ先立ち之ニ使用サル可キ軍需品其他ノ物資輸送ヲ遮斷スルコトハ我作戦上緊急ノ必要ニシテ今次支那領内雲南鐵道爆撃ハ右作戦上ノ目的ヨリ決行セラルルニ至レルモノニシテ右ハ帝國政府トシテモ出先軍ノ自衛上當

然ノ措置ナリト思考シ居ル次第ナリ。從テ我方トシテハ今後モ佛印經由蔣政權向ケ軍需品其他ノ物資輸送カ繼續セラル、限り爆撃ヲ續行スルノミナラス更ニ之ヲ強化スルノ外ナキ次第ハ佛國政府ニ於テモ充分諒解セラレンコトヲ希望ス。

二、日支間ニハ大規模ノ戰鬪行爲行ハレ居ルニモ拘ラズ我方ハ佛印向ケ船舶ノ臨檢其他蔣政權向ケト見做スヘキ積載貨物ノ押收ヲ差控ヘ居ル次第ナルニ佛側ハ自國カ交戰國タル歐洲戰爭ニ於テハ戰時禁制品目ヲ著シク擴張シ歐洲行ノ本邦船ヨリ各種ノ貨物ヲ押收セルノミナラス我國ノ必要トスル物資ヲ獨逸ヨリ邦船ニ依リ輸送スルコトスラ阻止セントシ我方ニ多大ノ損害ヲ與ヘ居レル事情ニ對シ此機會ニ貴大使ノ御注意ヲ喚起致度シ。

三、然シナガラ佛國政府ニシテ我方ノ眞ノ意圖ヲ理解セラル、ト共ニ日佛國交ノ大局ニ鑑ミ蔣政權ノ抗戦力ヲ強ム可キ一切ノ物資輸送ヲ自發の二停止シ且ツ我軍當局ニ於テ其實ヲ確認シ得ル何等カ適當ナル具体的方法ヲ講セラル、ニ於テハ我方トシテハ強テ爆撃其他實力ヲ以テスル遮斷行爲ヲ繼續スルノ必要無キニ至ル次第ナルノミナ



ラス日佛國交ノ全般的調整ヲ圖ランカ爲友好的話合ヲ行ハムトスル用意アル點ニ於テハ何等從來ノ態度ヲ變更セ<sup>ル</sup>ル次意ニ非ス。

四、雲南鐵道ハ支那事變勃發以來蔣政權ニ對スル軍需品其他ノ物資輸送ノ爲ニ利用セラレ明カニ其ノ軍事上ノ利益ニ供セラレタルモノナレハ之ニ對スル當然ノ戰鬪行爲トシテ行ハレタル我軍用機ニ依ル今次爆撃ノ爲同鐵道ノ線路及鐵橋ノ蒙レル損害ニ對シテハ我方トシテ何等損害賠償ノ責ヲ負フヘキモノニ非スト思考ス。

五、日本軍用機ノ「ドーゴン」(Dogon)不時着問題ニ關シ佛國政府ノ執ラレタル友好的態度ニ付テハ帝國政府トシテハ之ヲ多トシ居リ我海軍當局ヨリモ在河内帝國總領事ヲ通シ佛印當局ニ對シ感謝ノ意ヲ表明セル次第ナルカ本件ト雲南鐵道ノ爆撃トハ自ラ別個ノ問題ナリト思考セラル。

### (付記)

一、滇越鐵道ハ佛國會社タル滇越鐵道會社ノ所有及經營ニ係ルモ我方ノ右ニ對スル爆撃ハ不法ニ非サルヲ以テ爆撃ニ基ク損害ニ付原則トシテ我方ニ賠償ノ義務ナシ

二、蓋シ我方ハ支那軍撃滅ノ爲又我軍ノ存立ヲ確保スル爲支那ノ領土ニ於テ必要ナル軍事行動ヲ採リ得ヘキハ言ヲ俟タサル次第ナル處滇越鐵道ハ佛國會社ナリト雖一九〇三年佛清間ニ締結セラレタル雲南鐵道ノ敷設及經營ニ關スル協定ニ依レハ「清國カ外國ト交戦スル場合ニ於テハ該鐵道ハ中立ノ規則ニ從フコトヲ得ス全然清國ノ權内ニ在ル」ヘキ旨規定セラレ居リ(同協定第二十四條第二項)又「清國政府カ各種ノ軍隊、其ノ武器軍需品ノ輸送ヲ必要トスルトキハ之ヲ他ノ如何ナル運送ニモ優先セシムヘク且料金ハ通常料金率ノ半額タル」ヘキ旨規定セラレ居ルニ顧ルモ(同協定第二十三條第四項)同鐵道カ戰爭ノ際軍隊輸送ニ將又軍需品供給ニ支那軍ノ輸送機關タルヘキコトハ佛支協定締結當時ニ於テモ既ニ豫見セラレ居タル處ナルノミナラス今次事變ニ於テモ本鐵道ハ現在支那軍ニ殘サレタル重要補給路トシテ利用セラレ居レリト認メラルルヲ以テ我方カ自衛上支那領域内ニ於テ本鐵道ニ對シ必要ト認ムル軍事的措置ヲ講スルモ右ハ適法ニシテ何等損害賠償ノ問題ヲ生セサルモノト解ス

1757

昭和15年1月19日  
在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南鐵道空爆に関するわが方回答に対し仏国  
外務次官が強い不満を表明し軍需品輸送に関  
する共同調査を要請について

パリ 1月19日後発  
本省 1月20日後着

第五五號

貴電第二〇號ニ關シ(日佛航空連絡交渉ニ關スル件)

十九日「レジエー」次官ヲ往訪シ過日モ依頼シタル日「タ  
イ」定期航空ノ件ニ付實施期日二月一日モ差迫ルニ鑑ミ差  
當リ問題トシテ佛印上空飛行竝ニ河内着陸ニ對シ同意ヲ與  
ヘラレ度キ旨申入タル處「レ」ハ昨夜「アンリー」大使宛  
發シタル雲南鐵道爆撃問題ニ關スル訓電ヲ朗讀シタル後  
「佛印國境ヲ閉鎖シテ一切ノ物資ノ輸送ヲ停止セヨ然ラハ  
國交調整モ考ヘ遣ルヘシ然ラサレハ爆撃ハ續行ス」トノ日  
本政府回答ハ一ノ脅迫ニ異ラス一方ニ斯ル脅迫ヲ加ヘ乍ラ  
他方ノ問題ヲ好意ヲ以テ考慮セヨトハ面目ヲ潰サレタル話  
ト謂ハサルヲ得ス且又南寧附近支那軍ヨリノ鹵獲品中佛印

輸送ノモノ多數アリ「レ」ハ米國邊ヨリ來リシ「カミオ  
ン」ヲ送りタル事實アルハ既に日本側ニモ話濟ノ所ナリト  
附言ス」トノコトナルヲ以テ調査員ヲ派シテ共同取調ヲ行  
フコトモ一策ト思ヒ其ノ提議方ヲモ別ニ訓令シタル次第ナ  
リ從テ之等申入ニ對シ日本政府ニ於テモ少シハ軟ラカナル  
態度ヲ以テ臨ミ來ラサルニ於テハ話合ニナラス仍テ夫レ迄  
ハ航空ノ問題其ノ他一切之ヲ懸案ノ儘トナシ置カサルヲ得  
サル次第ナリト答ヘタリ仍テ本使ハ今日ニ於テハ雲南鐵道  
ハ蔣ノ抗日勢力培養ノ唯一ノ途ニシテ之ヲ遮斷セサレハ廣  
西作戰ノ意義ヲ爲サス從テ支那領土内ニテモ鐵道ヲ爆撃ス  
ルハ純然タル作戰ノ必要ニ基クモノニシテ出先軍ノ當然ノ  
措置ナリト反駁スルト共ニ

日「タイ」航空ノ問題ハ之トハ別ニ考慮ヲ求メサルヲ得ス  
元來佛國政府ニ於テ去ル九月佛印上空飛行ノ同意ヲ與ヘタ  
ルカ故ニ其ノ好意ニ信賴シ其ノ諒解ノ下ニ「タイ」國ト協  
定ヲ結ビタル次第ニシテ今之カ實施ニ當リテ右諒解ヲ覆ス  
ハ餘リニ誠意無キ遣方ナリ故ニ鐵道爆撃問題トハ離レテ至  
急同意ヲ與ヘラレ度キ旨ヲ求メタルニ「レ」ハ爆撃問題ニ  
付テモ同盟通信等ハ佛印ノ物資輸送ヲ大キク報道シ居ルニ

拘ラス佛國側ニテハ一般人心ヲ激昂セシメサル爲新聞ニモ成ルヘク報道セシメサル様手心ヲ加ヘサセ居ル次第ナルカ其ノ他過般來佛國側ニ於テ種々好意ノ手ヲ差延フルモ日本側ニ於テハ之ハ當然ノコトトスルノミニテ之ニ酬ユル所ナク而モ自分ノ要求ハ之ヲ押通サントシ最後ニハ脅迫ヲ以テ臨ムニ至テハ甚タ心外ト言ハサルヲ得ス航空問題ハ別ナリト言ハルルモ最早理窟ニアラスシテ「サイコロジ」ノ問題ナリ一切ノ問題ハ此點ニ懸ルニ依リ日本側ニ於テモ好意ヲ示サレサルニ於テハ如何ナル問題モ考慮ノ餘地無シト言ハサルヲ得スト答ヘ更ニ應酬シテ別途考慮方ヲ求メタルモ「レ」ハ右諸問題懸案ノ儘ト爲シ置ク點日本政府ニ申入方ヲモ訓令濟ノコトナルヲ以テ東京ヨリ回答ヲ待つ外無シト言フノミニテ會談ヲ終レリ

1758

昭和15年1月22日

在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

仏国提案の共同調査を受諾しその間雲南鉄道の空爆中止方ピラ前駐日大使提案について

第六〇號

パリ 1月22日後発  
本省 1月23日前着

二十二日「ピラ」前駐日大使(現在情報總局極東部長來訪印支武器輸送問題暫クノ間下火トナリ佛國側モ其ノ他ノ懸案解決ヲ圖ラントシ居リタル矢先雲南鐵道爆撃トナリ殊ニ今回ハ一切ノ物資ノ輸送ヲ禁止セヨトノ要求ニテ相當無理ナル註文ト認メラレ爲ニ佛國官邊ニ於テハ又復氣ヲ腐ラシテ遂ニ日佛間ノ問題ヲ懸案ノ儘トセントシ居ル趣ナルカ別ニ佛國側ハ共同調査委員設置ヲ提議シ居ル趣ニモアリ日本側ニテモ之ヲ承諾シ調査執行中爆撃ヲ中止セシメ置カルレハ其ノ間ニ誤解ノ解ケル點モアリテ氣分モ柔ラキ以テ懸案解決ト謂フ實益ヲ收メ得ルニ至ルヘク爆撃ニ依リテ佛國側ヲ硬クナラセルノミニ勝ルコト萬々ニテ何トカ兩國間ノ空氣ノ惡化セサル様工夫シテ貫ヒタシト存スト語リタルカ右ハ多分ニ「ケードルセー」ノ意ヲ受ケテ來リシ言葉ト認メラレタルヲ以テ鐵道爆撃ノ軍ノ作戰ノ必要ニ出テタル所以ヲ説明シ共同調査ノ問題ハ「アンリー」大使ヨリ日本政府ニ申入レ居ルコトト認メラレ如何ニナルヤ何トモ言ヘスト

答フルト共ニ佛國側ニテモ雲南鐵道問題ト關係ナキ一切ノ問題ヲ懸案トシ特ニ一旦同意シタル印支上空飛行ヲ取消ス等ハ相當横車ヲ押スモノト謂ハサルヲ得スト述ヘ置キタリ尙「ピラ」ハ汪精衛ニ對スル日本側ノ相當苛酷ナル條件ナルモノヲ汪一派ニテ香港ニ脱出シテ發表シタルモノアル趣ナルカスルコトニテ中央政府運動挫折スルコトナカルヘキヤヲ訊ネタルヲ以テ汪ノ運動ハ中傷ヤ妨害ニ拘ラス進行シ中央政府出現モ遠カラスト信スル旨(又)伊太利ノ如キハ汪宛祝電ヲ發シタリトノ新聞情報モアリ出現ノ上ハ逸早く承認スルニアラスヤトモ想像セラル旨ヲモ述ヘ置キタリ

~~~~~

1759

昭和15年1月26日 有田外務大臣より
在仏国沢田大使宛(電報)

仏印經由援蔣物資輸送停止問題および日タイ
航空路の仏印領空通過問題に関する対仏交渉
上の留意点について

本省 1月26日後発

第四一號

貴電第五五號及第五七號ニ關シ

共同調査員派遣等ノ件ニ關シテハ「アンリー」大使ヨリノ申出ヲ見タル上局面打開ノ爲之カ利用方ヲ考究スベキモ貴使ハ不取敢左記諸點御含ミノ上可然「レジェー」ノ誤解ヲ解クト共ニ佛印經由蔣向物資輸送ノ停止方及日泰飛行ノ佛印通過許可方ニ付此上共御努力アリ度

「我方ニ於テハ雲南鐵道ノ爆撃ヲ避ケンガ爲過去一年以上ニ亘リ「アンリー」大使ヲ通ジ右輸送ノ停止方求メ來レルニ拘ラズ同大使ハ法律論及事實ノ否定ヲ繰返スノミニテ、政治的解決ヲ圖ラントスル我方意嚮ニ一顧ダモ與ヘザリシ結果遂ニ我方ニ於テハ作戰上緊急ノ必要アル場合同鐵道爆撃ヲ行フモ已ムヲ得ズトノ方針ヲ決定シ之ヲ出先軍ニ訓令スルト共ニ實行ノ時期等ニ付テハ司令官ノ判斷ニ任セタルモノナリ唯本件會談ノ當日ニハ爆撃ニ關スル軍當局ノ通報未ダ當省ニ接到シ居ラザリシニ依リ野村大臣ハ調査ノ上回答スベキ旨應酬セル次第ナリ

ニ、佛側ニ於テハ三懸案ノ解決ニ依ル好意ノ表示ニ對シ我方ガ何等報ユル所無シトノ不滿ヲ洩ラシ居ル處我方ノ言分ヲ卒直ニ述ブレバ在留邦人一千名ヲ越ユル「ヌメア」領事館設置ニ對スル同意ハ寧口當然ト言フベク、日泰飛行

ノ佛印通過ハ相互主義ニ基ク日佛航空協定ノ一部タルベ
キモノナリ、又佛印鐵鑛輸出ニ付テハ往々政治的理由ニ
依リ之ヲ禁止セントスル佛側態度コソ不當ニシテ殊ニ右
禁止ハ佛國ノ認可シ居ル日佛合辦鐵山會社ノ事業ニ支障
ヲ生ゼシムルモノナルヲ以テ輸出許可コソ寧ロ當然ナリ
ト思考シ居レリ然レドモ我方ニ於テモ右佛側ノ友好的
「ジエスチユア」ハ之ヲ多トスル建前ヲ執リテ、佛側希
望ノ國交調整ニ付テモ佛側ニシテ蔣向物資輸送ヲ停止ス
ルノ用意アルニ於テハ他ノ諸懸案ヲモ含メテ右話合ニ應
ズベキ旨ヲ申入レ、以テ佛側意嚮ノ回示ヲ待チ居タル次
第二シテ、一方的ニ我方要求ノミヲ押付ケントスルモノ
ニ非ズ

三、前記我方態度ハ今猶變リ無キ處日泰飛行ガ二月中ニ開始
ノ手筈ナルコトハ既ニ國內ニ發表シ居リ若シ之ガ佛印通
過拒否ニ依リ不可能トナラバ我國民ノ對佛感情ヲ惡化シ、
國交調整ノ努力モ水泡ニ歸セシムル虞アリ、加之日佛航
空協定ニ基キ東京巴里間定期航空ガ開始セラルコトト
モナラバ航空機ニ依ル佛側情報ノ我國ヘノ速報ヲ可能ナ
ラシメ戰爭關係宣傳上佛側ニトリテ有利ナル外、佛國機

ガ東京へ最初ニ乗入ヲナス外國定期航空機タルコトハ日
佛友好關係ヲ世界ニ印象付クル等佛側ニ有利ナル結果ヲ
齎スベシ

四、客年十一月下旬在上海米國總領事ヨリ帝國總領事ニ對シ
重慶ニ在ル米國軍艦ヘノ補給品運送用「トラツク」二臺
ノ佛印南寧・重慶間運行方ニ付通報越セル次第ハアルモ
米國製「トラツク」其ノモノノ佛印經由輸送ニ對シ一般
的ニ了解ヲ與ヘタル事實無シ

1760

昭和15年1月31日

在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日本側が雲南鐵道空爆を停止せず仏印国境閉
鎖を強要する限り他の日仏懸案の解決は困難
との仏国外務次官回答について

第八一號

パ リ 1月31日後発
本省 2月1日前着

(1) 一月三十日「レジエー」次官ヲ往訪シ「アンリー」大使ヨ
リ未タ共同調査委員派遣等ノ件申出無キ趣ナルカ日「タ

イ」飛行ハ實施期日モ切迫シ居リ國內ニ於テハ既ニ之ヲ發表シテ諸般ノ準備ヲ進メ居ル關係上佛印通過拒否ニ依リ實施不可能トナラハ我方關係方面ニ於テ困難ヲ來スハ勿論我國民ノ對佛感情ヲ惡化セシムル惧アリ加之之ヲ許可セリトテ佛國側ニ於テ何等失フ所無キノミナラス佛國側情報ヲ速達セシメ戰爭關係宣傳上佛國側ニ大ナル利益アルヘク旁々本問題ハ佛印ノ物資輸送ノ問題トハ切離シテ承諾方重ネテ申入ルル次第ナリト述ヘタル處「レ」ハ去ル十二日ノ野村大臣ノ「ウルテイマートム」ニ等シキ日本側回答ヲ固執セララル以上到底他ノ問題ヲ考慮スル能ハス元來佛國側ニテハ佛印經由武器輸送ノ事實無シト言明シ居ルニモ拘ラス日本側ニテハ此ノ言明ヲ信セス而モ別ニ物的證據ヲ擧ケスシテ又シテモ輸送ノ事實ヲ強ヒラルル處右ハ全ク佛國ノ名譽ニ係ル所ナルヲ以テ之ヲ傷ケラルル以上他ノ問題ヲ好意ヲ以テ考慮ノ餘地無シト答ヘタル時東京ヨリノ電報接到セリトテ西歐亞局長ト「フアン」參事官トノ會談報告ヲ一讀シタル後更ニ語ヲ次キ日本側懸案ナルモノハ過去ノ佛國側善意（佛印通過ノ武器無キ事實）ヲ立證セシメントスルモノニアラスシテ今後ノ監督ノ爲委員ヲ派遣セントスルモノナルト

共ニ佛印領土上ニテ右監督權ヲ行使スルカ如キハ到底承諾出來ス

兎モ角脅迫ノ下ニ佛印國境閉鎖ヲ強ヒラルル事實ハ過日會談ノトキト何等變化無ク斯クテハ他ノ問題ノ話合ニ應スルヲ得スト答ヘタリ依テ本使ハ雲南鐵道カ蔣ノ軍事的利益ニ供セラレ又ハ其ノ抗日勢力ノ培養ニ利用セラルル以上我方ニ於テ支那領土内ニテ之ヲ爆撃スルコトハ事變ノ目的遂行ノ爲當然ノ行爲ニシテ從テ佛國側ニ對シ同鐵道カ蔣側ノ利益トナラサルコトヲ要求スルハ脅迫ニモアラス最後通牒ニモアラス極メテ當然ノコトナル所以ヲ説キタルモ「レ」ハ佛國ノ名譽傷ケラレタル以上他ノ問題ハ考慮シ得ストノ感情論ヲ繰返スノミ本使ヨリ更ニ直接關係ナキ問題迄モ一括話合ニ應セスト言フカ如キハ全ク國交ヲ絶ツニ等シク穩當ナラス寧口航空聯絡ノ如キ相互ニ利益アル問題ハ之ヲ逐次解決シテ始メテ大ナル問題ノ調整ニモ資スルモノナリ序々日本民間會社ニ於テ佛國ノ爲武器製造ヲ引受クル件ヲ我カ大使館トシテ邪魔セサル態度ニ出テ居ル點等ヲモ考慮ニ容レラレタキ旨附言シタルニ「レ」ハ其ノ點ハ多トスル旨ヲ述フルト共ニ佛印問題ニ付テハ前掲西局長ノ所言ハ其ノ個

人的意見ナリトノコトナルヲ以テ日本政府トシテノ回答ヲ待ツコトトスヘシト答ヘタリ

1761

昭和15年2月2日

在ハノイ鈴木総領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本が仏印經由対中石油輸送の禁止を求める
ならば代償として海南島撤兵や新南群島の占
拠取消しを求めると仏国武官内話について

ハノイ 2月2日後発

本省 2月3日前着

第一八號

三十一日在東京佛蘭西武官ト面會ノ節談偶々當領經由ノ「カミオン」石油等ニ及ヒタル處同武官ハ私見トシテ貴電合第一號土橋少將トノ會談ニモ有之佛トシテ右品目ノ支那向通過ヲ禁止スルトセハ佛蘭西ハ中立ヲ破ルコトトナリ支那ニ對シ非友誼的行動ニ出ツコトトナルヘキニ付日本ヨリモ何等カノ代償ヲ要求セサルヲ得ヌ例ヘハ日本側ニ於テハ海南島撤兵新南群島ノ占據取消等ノ行爲ニ出テラルルヲ要スヘシト内話セルヲ以テ本官ヨリ右日本軍ノ行動ハ對支

作戰上絶対必要ナルコトニモ鑑ミ右ハ到底本邦トシテ受諾シ能ハサル理由ナルカ貴方ニ於テ之ヲ以テ印支ノ脅威タルカノ如ク想像セラルルハ誤解ナリ帝國トシテハ日佛國交調節ニ乗出シ居ルコトハ貴官モ御承知ノ通りニシテ斯ノ如キハ單ナル杞憂ニ過キスト應酬シ置キタル處同武官ハ英佛ハ最モ緊密ナル步調ヲ取りツツアルヲ以テ支那問題ニ於テ英國ト協調セラルルニ至ラハ佛蘭西トシテモ容易ニ日本ノ右諸要求ニ應ジ得ルニ至ルヘシト思考シ居レリト答ヘタリ爲念

軍側へ通報アリタシ

1762

昭和15年2月3日

在ハノイ鈴木総領事より
有田外務大臣宛(電報)

日本軍の雲南鉄道空爆によって仏国人を含む
多数死傷者発生に対し仏印当局が事件重大視
について

ハノイ 2月3日後発

本省 2月4日前着

第二〇號

三日ノ當地新聞ニ依レハ本邦機ノ二月一日雲南線爆撃事件⁽¹⁾アリ佛人五名、安南人六十名ノ死者アル旨(其ノ他傷者ニアリテハ目下取調中)報シ居ル處在東京佛國武官「チエボ」少佐ハ殊更ニ本官ヲ來訪シ余ハ日佛國交調整ノ爲日本側意見開陳ノ目的ヲ以テ來印シタル次第ナル處總督トノ三時間ニ渉ル談合ノ結果佛印トシテハ日本ニ利益ナルカ如キ行動ヲ執ラサルコトナリタル矢先右事件起リタルハ誠ニ遺憾トスル所ニシテ若シ右カ日本ノ作戰上橋梁破壊ノ如キ行動ニ出ツルニ於テハ表面的ニハ兎モ角何トカ泣寝入りモ出來得ヘキモ列車ヲ襲撃シ佛人ヲ殺害スルカ如キニ對シテハ佛國トシテモ之ヲ重大視セサルヲ得ス從來通りノ日本側回答ニハ満足出來サルコトトナルヘク從テ今回ハ右事件ニ對シ日本側ノ責任アル回答ヲ要求スルコトトナルヘシト内話セリ

次イテ西浦中佐出發挨拶ノ爲同官同道總督ト面會シタル際ニモ總督ヨリモ同様ノ意見ヲ開陳セルカ頗ル本件ヲ重要視シ居ル旨強調セリ同日西浦午餐會ノ席上ニ於ケル「マルタン」軍司令官及空軍司令官モ繰返シ鐵道鐵橋破壊ノ如キハ日本ノ作戰上必要ナラハ之ヲ是認シ得サルニアラサルモ事

一度列車ヲ襲撃シ佛人ヲ殺害スルカ如キ(例ヘハ今回ノ如キ殊ニ婦人二名、小兒二名ヲモ殺傷シタルカ如キ)コトニ對シテハ佛國トシテ何等カノ手段ニ出ツルノ已ムヲ得サルニ至ルヘク斯クテハ折角土橋少將力來印シタル趣旨ヲモ沒却スルニ至ルヘキコトヲ憂フル次第ナリトノ趣旨ヲ縷々陳述セリ

思フニ小官嘗テ當地有力者ヨリ聞込ミタル處ニ依ルモ日本ノ作戰上ニ依ル雲南鐵道ノ攻撃ニ對シテハ表面的ノ抗議ハ兎モ角何トカ目ヲツムルコトモ出來得ヘキモ今回ノ如キ人道上ノ問題ニ對シテハ沈黙スル能ハスト述ヘタルコトアリシカ今回ノ事件ニ對スル官憲ノ意嚮ヲ察知スルニ本件ヲ相當重要視シ居ルヤニ觀測セラル

就テハ日佛國交調整力緒ニ就カントシツツアル折柄本件突發ハ實ニ遺憾ナルコトニ付彼は法理論ノ餘地ハ存スヘキモ之ヲ迅速且友誼的ニ解決スルコトカ雨降ツテ地固マル例ニ依リ却テ根本問題タル日佛關係ノ増進ニ寄與スル處アルヘシト思考セラルルニ付テハ當領官民ニ一大衝擊ヲ與ヘタル本事件ノ解決策トシテ出來得レハ本件ハ獨立事件トシテ取扱ヒ少クトモ佛人及安南人死傷者ニ對シ速ニ慰問方法ヲ講

スルコト適當ナリト思考セラル

尙本件ニ關シテハ當地各新聞カ殆ト目ノ届カサル程度ニ掲載シ居ル事實ハ前述ノ如ク當局カ本件ヲ極メテ重大視シ居ルニモ拘ラス日本ヲ「エキサイト」セサルカ爲ニ殊更ニ佛人ニ注意シ居ルカ爲ナリト察セラル

右ニ付テハ陸海軍側トモ打合セノ上結果至急御回電相成様致度シ

西浦陸軍中佐トモ協議濟

佛、廣東、海口ヘ轉電セリ

~~~~~

1763

昭和15年2月3日  
在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南鐵道空爆による仏国人被害に対し仏国首

相が抗議申入れについて

パリ 2月3日後発  
本省 2月4日後着

第九〇號

三日「ダラジエ」首相ノ求メニ依リ往訪シタルニ首相ヨリ雲南鐵道會社及植民省ニ達シタル電報ニ依レハ昨<sup>マツ</sup>二日日

本飛行機二十七機第八三號鐵橋通過中ノ列車ニ對シ爆撃ヲ加ヘ多數ノ死傷者ヲ出シ佛人五名死亡セリトノコトナル處元來日本側ニ於テハ武器ノ佛印通過輸送ヲ口實トシテ屢同鐵道ノ爆撃ヲ行ハルルモ佛國政府トシテハ一九三七年以來其ノ名譽ニ掛ケテ斷シテ武器ヲ輸送シタルコトナシ然ルニ日本側ニテハ其ノ通過ノ實證ヲ擧ケスシテ斯クノ如ク屢爆撃ヲ行ヒ而モ佛人ノ生命迄損傷ヲ加ヘラルルニ至ルコトハ兩國ノ國交上眞ニ遺憾ナリト言ハサルヲ得ス此ノ點ニ對スル日本側ノ満足ナル説明ヲ求メタキ次第ナリト述ヘタルヲ以テ本使ハ右二日ノ出來事ニ付テハ何等公報ニ接シ居ラス從テ説明ノ由ナキモ帝國トシテハ現在蔣政權潰滅ノ最後の段階トモ云フヘキ軍事行動ニ移リ居リ雲南鐵道ハ蔣ノ抗日勢力ヲ培養スル唯一ノ途トナリタルカ故ニ單ニ武器彈藥ノミナラス敵ヲ利スルカ如キ物資ノ輸送ニ對シテモ之ヲ阻止セサルヘカラサル作戰上ノ必要ニ迫ラレ居ルモノナリ今同ノ爆撃ノ如キモ恐ラク右必要ニ基キ行ハレタルモノト考ヘラル故ニ佛側ニ於テ該鐵道ニ依ル一切ノ物資輸送ヲ停止セラルルコトカ事態平靜ヲ來ス第一ナリト信スト應酬シ置ケリ首相ハ更ニ日本ハ支那ニ對シテ宣戰ヲ布告シ居ル次第

ニアラス從テ武器輸送ノ阻止スラ佛國トシテハ自發のニ之ヲ行ヒ居ルモノニシテ更ニ物資ノ輸送ヲモ阻止セヨトハ即チ佛印國境ヲ閉鎖セヨトノ要求ニシテ何等法の根據ナキコトナリト述ヘタルニ依リ(米國等モ國際法ノ見地ヨリ不滿ヲ抱クコトト思考スル旨附言セリ)本使ハ法律論ハ別ナルカ日本ニ對スル政治的「ゼスチユアー」ヲ佛側力其處迄考慮スルコト望マシト言ヘル處首相ハ現在佛政府トシテハ國境閉鎖迄モ考フルコトハ不可能ナリト述ヘ居タリ就テハ本件ニ關スル詳細ナル事情折返シ御電報相成リタシ英、米ヘ轉電セリ

~~~~~

1764

昭和15年2月5日

谷外務次官
在本邦アンリ仏國大使

— 會談

雲南鐵道空爆被害に対する抗議文をアンリ大
使提出およびわが方応酬振りについて

付記 昭和十五年二月五日付

右抗議文仮訳

谷次官「アンリ」佛大使會談要旨

(昭和二五、二六 歐二)

二月五日午後五時半在京「アンリ」佛國大使外務省ニ谷次官ヲ來訪去ル二月二日(ハ、)ノ雲南鐵道爆撃ニ關スル別紙抗議文ヲ手交スルト共ニ本件ガ米國ノ對日輿論ニ非常ナル惡影響ヲ及ボスベキ旨及佛國輿論ハ極度ニ憤激シ居ル旨ヲ述ブルル處アリタルガ右ニ對シ谷次官ノ應酬セル處要領左ノ通り一、本件列車爆撃事件ニ關シテハ目下取急ギ真相調査中ナル處帝國政府トシテハ詳細ノ事情判明次第公正妥當ナル措置ヲ執ル積リナルニ付貴大使提出ノ公文ハ我方調査ノ際ノ參考トシテ考慮致スベシ但シ我方ノ入手セル情報ニ依レバ本件列車ガ軍事的目的ニ利用セラレタル形跡アリトノコトナリ

二、雲南鐵道ノ爆撃自体ニ關シテハ佛ガ本件鐵道ニ依ル軍需品其他ノ輸送ヲ繼續セラレ蔣介石ノ抗戰ヲ強ムルノ結果トナル以上帝國トシテ之ヲ阻止スル爲メ必要ノ措置ヲトルハ作戰上及自衛上當然且止ムヲ得ザルコトナルニ付現狀ニ於テハ我方トシテ之ヲ中止スルコトハ御約束出來ズ三、佛側ハ日本ガ支那ニ對シ宣戰布告ヲ爲シ居ラザルコトニ拘泥シ居ラルル如キモ宣戰布告無キ戰爭ハ歷史上幾多ノ例アリ特ニ南米ニ於ケル戰爭ニ其ノ例多キ處米ノ「シユ

アード」國務卿ノ如キ明白ニ宣戰布告無キ戰爭ヲ認メ居
レリ

現ニ日支間ニ大規模ノ戰鬪行ハレ居ル事實ハ何人モ否定
シ得ザル處ニシテ曩ニ英國ハ正式ニ此ノ事態ヲ承認スル
旨意思表示セルコトハ御承知ノ通ナリ仍而佛側ニ於テモ
此ノ事實ヲ認識シ其ノ基礎ノ上ニ總テノ行動ヲ考ヘ且執
ラレ度コトヲ茲ニ力說致シ度シ

四、佛側ハ日支間ニ中立的態度ヲ取り居レリト云ハルモ國
際聯盟其他ニ於ケル佛側當局ノ公式ノ言動、蔣政權ニ對
スル「クレディット」ノ設定、鐵道施設ニ對スル援助對
蔣軍需品其他物資ノ輸送等々ノ事實ニ依リ佛國ガ援蔣政
策ヲトリ居レルコトハ我國民ノ信セサントスルモ能ハ
サル所ナリ

從而日佛國交調整ノ先決問題ハ佛側ガ先ヅ此ノ態度ヲ改
ムルコトニ在リ、我方トシテハ佛側ガ誠意ヲ以テ之ガ停
止ノ措置ヲトラルル事希望ニ堪ヘズ

我方トシテハ一切ノ物資ノ輸送ヲ停止セラルルコトヲ希
望シ來レル次第ナルモ右困難ナルニ於テハ少クトモ既ニ
佛側ニ於テモ戰時禁制品トセラレ居ル左ノ如キ品目ノ輸

送停止方ヲ希望シ度キ次第ナリ

一、武器及彈藥類

二、飛行機及同部分品

三、「トラック」其他自動車及同部分品

四、「ガソリン」其他ノ油類

五、金屬類及機械其他金屬製品

六、機關車、貨車及鐵道材料

七、化學藥品類

五、雲南鐵道ノ爆撃ハ甚ダ不幸ナル事件ナルモ現在トナリテ
ハ此ノ禍ヲ轉ジテ福トナスコトコソ必要ナリ、我方トシ
テハ佛側ニ於テ右様物資ノ對蔣輸送ヲ停止スル爲メ有效
適切ナル措置ヲ執ラルルニ於テハ軍當局トモ協議ノ上雲
南鐵道ノ爆撃中止方ニ付我方態度ヲ表明スヘク更ニ進ン
デ日佛國交ノ全面的調整ノ爲メ建設的話合ニ應ズル用意
アル次第ナリ

汪政權ト日本トノ和平條件ニ關シテハ今此處ニ詳細申上
グル限りニ非ザルモ香港ニ於テ公表セラレタルガ如キモ
ノニ非ザルコトハ明言シ得、兎モ角帝國トシテハ如何ナ
ル犠牲ヲモ排除シテ之ヲ守リ立テ行ク確固不動ノ決意ヲ

有ス

仍而佛側ガ若シ援蔣ノ結果トナルヘキ一切ノ行爲ヲ停止セラルルニ於テハ我方ニ於テモ將來新支那ニ於ケル佛側權益ノ維持ハ勿論其ノ増進ニ付充分考慮ノ余地アルベキコトヲ茲ニ申上ゲ置キ度キ次第ナリ

六、對蔣物資輸送ノ停止方ニ關シテハ佛側ニ於テ或ハ第三國關係、對内關係等ヨリ之ガ公表ヲ困難ナリトスル事情モアルベキ處我方トシテハ佛側ガ事實上一切ノ援蔣行爲ヲ停止セラルレバ満足スル次第第二付之ガ公表ハ要求セズ、例ヘバ消極的措置ノ一ツヲ示セハ當分ノ間雲南鐵道ノ修理ヲ爲サズ外部ニ對シテハ修理不可能ト云フコトニシ置クコトモ一案カト存ゼラル

七、今日ノ日佛關係ハ個々ノ問題ノ論議ニ時日ヲ費シ居ル時期ニアラズ根本的ニ日佛關係ヲ如何ニ打開スベキヤヲ考慮スルコトコソ重要ナリ

廣西ニ於ケル日本軍鹵獲品ノ共同調査ノ如キハ大局的ニ見テ何等根本的解決ニ資スル所以ニ非ズト思考ス

「アンリー」大使ハ右谷次官ノ説明ヲ熱心ニ傾聽シキタルカ日本政府ハ軍人ノヤルコトヲ後カラ後カラ容認シ行ク傾

向ニアル如ク見ラルル處斯ノ如キハ特ニ米國ノ輿論ニ對シ惡影響ヲ及ホスヘキ旨及ヒ日本側ハ佛政府ノ否定ニ不拘佛側カ蔣政權ニ對シ武器軍需品ヲ輸送シ居ル如ク主張シ居ラルルモ其ノ證據ヲ積極的ニ示サレサルハ遺憾ナリト述ヘタルヲ以テ次官ヨリ前段ニ關シテハ斯ル事實無キ旨後段ニ關シテハ我方ノ情報ハ信據スヘキモノニシテ各方面ヨリノ報告ニ基キ佛支間ニハ物資供給ニ關スル「アンタント」サヘ存在スルコトヲ承知シ居レリト應酬セリ

尙「アンリー」大使ハ谷次官ノ説明中重要ナル點ヲ書キ物トシテ送ラレ度キ旨依頼セリ

編 注 別紙は見当たらないが、本文書付記の仮訳参照。

(付 記)

二月一日我海軍機ニ依ル雲南鐵道列車爆撃ニ關スル

二月五日附在京佛大使「エードメモール」假譯

佛蘭西國大使ハ曩ニ日本飛行機ノ雲南鐵道爆撃ニ關シ外務大臣閣下ノ前任者ニ對シ累次申入ノ光榮ヲ有シタル處今般更ニ二回ニ亘リ右佛蘭西國財産ニ加ヘラレタル侵害行爲ニ

對シ抗議ヲ提出スルノ光榮ヲ有ス

本月一日二十七機ヨリ成ル日本飛行機ノ一隊ハ八十三粒及九十五粒ノ兩地點ニ於テ爆彈ヲ投下セリ第二回ノ爆撃ハ物の損害ヲ惹起セルモ第一回ノ爆撃中一彈ハ午後二時四十五分八十三粒ノ地點ニ於テ旅客列車上ニ投下セラレ多數ノ犠牲者ヲ出セリ既チ^{（ハ）}現在迄ニ崩壞物中ヨリ救出セラレタル死体四十二達シ其ノ中佛蘭西人五名アリ既ニ判明セル安南人及支那人ノ負傷者ハ百八十四名ニ達ス

右今回ノ攻撃ハ日本飛行機力往復共佛領印度支那領空ヲ飛翔セル事實ニ依リ一層重大化サレタリ

零時四十五分及一時四十分ノ間ニハ「タ・ルン」(Ta Lung)「トラン・カン・ブー」(Trung-Khang-Phu)「トラ・リン」(Tra-Ling)「ハ・ヂアン」(Ha-Giang)「ドン・ヴァン」(Dong-Van)「マン・メー」(Man-Mei)「ムオン・クー・オン」(Muong-Khu-Ong)ノ各所ニ又三時五十四分及四時七分ノ間ニハ「ポー・バン」(Pho-Bang)「ドン・グアン」(Dong-Van)及「シヤン・ブーン」(Chau Pong)ノ各所ニ於テ右飛行機飛來ノ警報發セラレタリ

佛蘭西國大使ハ被害狀況判明次第損害賠償ノ爲之ヲ帝國外

務大臣ニ通報スルノ權利ヲ留保スルモノナリ

1765
昭和15年2月5日
在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

雲南鐵道空爆被害に對する仏国側対応の背後
事情につき觀測報告

パリ 2月5日後發
本省 2月6日後着

第九八號

雲南鐵道爆撃ニ關シ左記御參考迄

(一)從來ノ爆撃ハ鐵道自體ノ損害大ナリシモ佛國人死傷者ナカリシト日本ニ對シ言論ヲ慎シム數ヶ月來ノ方針ヲ維持シ居タルトニ依リ當方面ニテ殆ト公然ノ問題トハナラサリシ次第累次往電ノ通ナル處今回遂ニ公然ノ言論(往電第九八號御參照)ヲ許スニ至レルハ佛人殊ニ婦女子ノ死者アリシコト大國タル手前モアリ泣寢入リモ出來サルノミナラス何時迄モ隱シ終セサルコト日本カ大ニ恐レ居ルヤニ見受ケラルル米國ノ同情力添ヲ得ルニ本件力格好ナルコト等ノ爲ナルヘシ

(二)佛當局カ公然言論ヲ許スニ當リ其ノ取扱方針トシテ「プレス」方面關係ニ内セル所ハ第一佛國ノミナラス米國モ日本當局ト本件話合中ナリシニ爆撃繰返サレタルハ驚クヘキコト第二爆撃ハ恐ラク現地軍限リニテ行ヒシモノナルヘク中央ノ知ラヌ間ニ行ハルル様子ナルコトハ東京ニ於テ得タル印象ニ依リ「コンファーム」サレ居ルコト第三日佛間過去ノ親善關係ハ維持シタキモノナルコト等ナル趣ニシテ本件論評ハ總テ大體之ヲ骨子トセルモノナリ

(三)右第二點ハ事實「アンリー」ノ報告ニモアルコト往電第五七號ノ通りニ付誤解無キ様此ノ上共御説示願度キモ他方佛國トシテハ事件ヲ「ミニマイス」スル爲ノ逃道トシテ出先限リ云々ノ説明ヲ用ヒ居ルコト又米國ヲシテ關心ヲ懷カシムル爲ニハ多年米國上下ニ信セラレ居ル日本中央出先不一致云々ヲ説明ニ用ヒルコト適當トノ考モアリ得ヘシト想像セララル

(四)當地軍部及植民省ニ關係アル當館出入者ハ三日首相本使會見及「アンリー」申入ハ半ハ對内の必要ニ出テタル措置ト解スヘキコト勿論故之ニ對シ餘リムキニナルハ如何

カト思ハルト内話セル由

(五)爆撃ノ必要ナル限リ續行スルハ素ヨリ當然ナルモ之ニ關シ議論紛爭ヲ激シクスルハ實益ナク却テ問題ヲ感情的ニ惡化スルノミナラス米國其ノ他國際輿論ニモ佛國ノ希望スル如キ影響ナキヲ保シ得サルヘキニ付可成ク口喧嘩ノ相手ニハナラサルコト適當ト存ス

英、米へ轉電セリ

~~~~~

1766

昭和15年2月10日

在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南鐵道空爆に関するわが方立場を説明し仏  
印經由援蔣物資輸送の停止を仏国外務次官へ  
要請について

要請について

パ リ 2月10日後発

本 省 2月11日前着

第一一四號

九日<sup>(1)</sup>「レゼエ」次官ヲ往訪シ

(一)貴電第六一號及第六三號ニ依リ雲南鐵道爆撃ニ關スル説明ヲ與ヘタル處「レ」ハ右ハ五日ノ佛國政府申入ニ對ス



ル回答ナリヤヲ尋ネタルニ依リ本使ハ本日ノ來訪ハ過日「ダラヂエ」首相トノ會談ニ顧ミ我方情報ヲ傳ヘ立場ヲ説明スヘキ義理アリタルカ故ナリ帝國政府ノ回答トシテハ何レ「アンリー」大使ニ對シ爲サルヘキモノト認ムル旨答ヘ置キタリ

(二)貴電第六四號谷次官「アンリー」大使會談ニ付テハ既ニ同大使ノ電報ニテ承知ノ模様ナリシニ依リ本使ハ軍需品其ノ他ノ輸送行ハルル限り雲南鐵道爆撃ハ已ムヲ得ストスル點ハ帝國政府ノ譲リ得サル所ナリ故ニ嘗テ御話シシタル通り佛國トシテモ英國同様率直ニ日支間戰爭狀態存在ノ事實ヲ認メ(往電第一九號一月五日「レ」トノ會見ノ際貴電第六四號(ロ)ト略同様ノ理由ヲ述ヘテ「クレーギー」署名ノ「テキスト」ヲ佛譯シタルモノヲ渡シ置キタルコトアリ)問題ノ物資輸送ヲ停止セラレ度ク少クトモ谷次官指摘ノ品目ノ輸送停止ヲ希望ニ堪ヘスト述ヘタル處「レ」ハ日本側ニテハ宣戰布告ナキ以上武器ノ輸送停止スラ要求セラルル權利ナシ

而モ佛國ハ自發的ニ之ヲ停止セントスルハ既ニ英國以上ノ措置ヲ執リ居ルモノト考ヘ居リ其ノ上ニ鐵道ノ運行停

止ニ等シキコトヲ要求セラルルコトハ全ク無理ノ註文ト言ハサルヘカラストテ從來ノ論議ヲ繰返スニ過キス依テ本使ハ最早今日ハ法律論ニ拘泥シ居ル時ニアラス蔣介石ヲ援クルコトカ佛國ノ極東ニ於ケル利益ヲ擁護スル所以ナルカ夫レトモ日本ト協力スルコトカ此ノ目的ヲ達スル途ナルカヲ考慮シテ政治的決心ヲ付クヘキ時期ニ到達シ居ルト思ハレスヤト言ヒタルニ「レ」ハ從來如何ニ隱忍スルモ日本側ヨリ頭ヲ叩カルノミナリシニ鑑ミ國論ニ對スル手前モアリ此ノ上右ノ如キ決心ヲナスコト困難ナリ何レ過日ノ申入ニ對スル日本政府ノ正式回答ヲ待ツテ更ニ考フルコトトスヘシ但シ日本側ニテ爆撃ヲ續行セラルルニ於テハ從來ノ新聞ニ對スル抑制モ困難トナルヘク國論沸騰スルニ至ルヲ惧ルト言ヘルニ依リ本使ハ國論ヲ沸騰セシムルコトカ佛國ノ利益ト思ハルルナラハ致方ナカルヘシ但シ之ニ依リテ日本ノ輿論ヲモ刺戟シ爲ニ佛國カヨリ大ナルモノヲ失フコトトナリ得ヘキヲ思ハハ右新聞政策ハ慎重考慮ノ要アルヘシト答ヘ置ケリ

英、米へ轉電セリ



1767

昭和15年2月17日

有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

日仏国交調整交渉に当たり意見回示方訓令

本省 2月17日後9時30分發

第七八號(至急、極秘)

貴電第二一號ニ關シ

最近我方ノ雲南鐵道爆撃等ノ問題ニ關聯シ日佛兩國間ノ空氣頓ニ惡化シ來レルニ付之ガ打開ノ途ヲ講シ進ンテ一般の問題ノ話合ヲモ開始スルコト兩國ノ爲望マシキ次第ナル處「アンリ」大使トノ會談ノ經過ニモ鑑ミ主トシテ貴地ニ於テ之ヲ行フコトヨリ效果のナル様思考シ居レリ本件話合ノ具体案ハ別ニ電報スヘキモ冒頭貴電末段ノ次第モアリ貴大使着任以來佛國側各方面トノ接觸ノ模様貴方ヨリ見タル右具体案ニ關スル御意見其ノ他本件話合ノ持チ出シ方ニ關スル御氣付ノ點等參考トシ度キニ付折返ヘシ回電アリ度シ

~~~~~

1768

昭和15年2月17日

有田外務大臣より
在仏国沢田大使宛(電報)

日仏国交調整に關する具体的交渉方針案につ

き通報

第七九號(極秘)

本省 2月17日後9時30分發

往電第七八號ニ關シ

本件交渉ノ具体的大筋トシテ當方ノ考ヘ居ル所左ノ通り
一、本件交渉ハ佛國側ヲシテ其ノ援蔣態度ヲ放棄セシメ結局帝國ノ支那ニ於ケル政策ニ同調セシムルコトヲ以テ根本方針トスルモ交渉ニ當リテハ我方トシテモ讓ルヘキハ讓リ先方ヲシテ我方ノ公正妥當ナル態度ヲ了解セシムル様仕向クルモノトス

二、右方針ニ基キ左ノ通り措置ス

(一)最近ノ雲南鐵道爆撃ニ依ル佛人及安南人ノ被害ニ對シテハ遺憾ノ意ヲ表シ被害者ニ弔慰金ノ支拂ヲナスヘキ旨申入ル(近日中ニ東京ニテ實行ノ筈)

(二)右實行ノ上ニテ元來本件ノ如キ不祥事ノ發生ハ豫テ我方ヨリ佛側ノ注意ヲ喚起シ居ル通り佛印ヨリ雲南鐵道ニ依ル蔣政權ヘノ物資輸送絶エザル事實ヨリ發生セルモノニシテ帝國トシテハ斯ル事態ノ發生ヲ好ムモノニ非サルハ言フ迄モナク又我廣西作戰自体ニ關シテモ其

(三)我方ノ要求

- (イ)昨夏日英會談ニ於テ到達セル有田「クレীগー」原則ノ承認

- (ロ)天津租界ニ於ケル治安問題及經濟問題ニ關シ日英間ニ到達スベキ協定ト同趣旨ノ原則承認

- (ハ)右ノ結果トシテ援蔣行爲ヲ中止シ特ニ武器彈藥其他蔣政權ノ抗戦力ヲ強ムルガ如キ物資、不取敢少クトモ「ガソリン」及「トラック」ノ佛印經由輸送ヲ中

ノ目的トスル所ハ同方面ヨリスル蔣政權向物資輸送阻止ヲ主眼トスルコトニアルニモ鑑ミ斯カル事實消滅セ

バ右軍事行動モ自然考慮セラルルコトト察セラルル次第ナリ反之事態此ノ儘ニ推移セバ我方トシテハ此種事件再發防止ヲ約束出來サルハ勿論尙一層佛印國境ニ近

接セル地方ニ軍事行動ヲ擴大スルノ必要ニ迫ラルルヤモ知レズ斯クノ如キハ將來永キニ亘リ日佛關係ノ調整

ヲ不可能ナラシムルコトトナルベキニ付此ノ際日佛國交ノ大乗的見地ヨリ兩國相互ニ相手ノ立場ヲ理解シテ適當ナル措置ヲ講ズルコト必要ナルベシトノ趣旨ヲ說

示シ左記(三)及(四)ヲ主眼トスル話合ヒノ開始方ヲ提議ス

1769

- (四)佛側ヘノ對價
止スル爲メ適當措置ヲ講ズルコト

- (イ)在支佛國權益ノ尊重特ニ雲南鐵道爆撃ノ中止

- (ロ)支那ニ於ケル佛國人關係諸懸案ノ迅速解決

- (ハ)佛側ニ於テ海南島、西沙群島、新南群島問題等ヲ持

出シ之ガ解決ヲ要求シ來ル場合右各個ノ問題ニ一々應接スルコトハ話合ヲ複雑困難ナラシムヘキヲ以テ

此際ハ之ヲ避クルコトトシ先方ヨリ佛印領土權ノ尊重約束等ヲ希望シ來ル場合ニハ我方トシテ新事態ニ

即應シテ之ヲ約スル爲メ商議ヲ開始スルノ用意アル旨ヲ表明スル程度ニ止メ度キ考ナリ

- (五)尙右政治交渉ガ圓滑進捗ノ見透シツク頃合ヲ見計ラヒ之ト併行シテ兩國經濟關係ノ緊密化ヲ計ル爲メ別途交渉ヲ開始ス

昭和15年2月20日
在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

現在ハわが方から仏国に対し一般的国交調整を求める時期ではない旨意見具申

パリ 2月20日後発
本省 2月21日後着

第一二八號(極秘)

貴電⁽¹⁾第七八號ニ關シ(日佛國交調整ニ關スル件)

本使着任以來外務省側ヲ初メ上下兩院議長及言論界ノ人々トノ接觸ニ依リ得タル印象ニ依レハ何レモ日佛關係改善ヲ要望シ居ルハ事實ナルモ概シテ極東時局ニ對スル認識薄ク本使來任ニ際シ何等カ兩國國交調整ノ使命ヲ帶ヒ來リタルモノト推察シ右ニ關スル日本側ヨリノ提議ナキヤヲ期待シ居リタルモノノ如ク對日關係改善モ實ハ極東新事態認識ノ基礎ノ上ニ我方ト協力セントスルモノニアラスシテ寧ろ本邦カ支那事變處理ニ困窮シ佛ニ接近ヲ求ムルヲ待ち其ノ極東權益ノ維持ヲ計ラントスル考ニ出テ居タルモノノ如ク見受ケラレタリ從テ本使着任ニモ拘ラス何等日本側ヨリ具體的提議ナク好意ヲ示ス積リニテ差伸ヘタル手ハ日本側ニテハ當然ノコトトシテ何等酬ヒラレス(少クトモ斯ク解シ)聊カ失望シ居タル矢先雲南鐵道爆撃ノコトアリ日佛接近ノ希望ハ一時影ヲ潛メ佛國ノ對日空氣ハ極度ニ惡化シ遂ニ一切ノ問題ヲ懸案ノ儘ニ置クコトサヘ主張スルニ至レリ之ニ對

シ我方トシテハ右鐵道爆撃力作戰上ノ必要ニ基クモノニシテ佛印經由物資輸送止マサル限り續行セラルヘシトノ立場ヲ堅持シテ佛國側ト睨合ヲ續ケ居ル現在雲南鐵道爆撃中止等ヲ持出シ一般的國交調整ヲ切出スコトハ自ラ折レテ出テタル印象ヲ與ヘ徒ニ先方ヲシテ附上カラシムル惧アリ策ノ得タルモノトハ存セラレサル次第ナリ

而シテ⁽²⁾一般的國交調整ハ相互ノ根本的理解ナクシテ行ハレ得サルモノナレハ現在ハ寧ろ極東ニ於ケル日本ノ立場ヲ充分ニ了解セシムルコトニ努力ヲ集中シ以テ一般的話合ノ基礎タル地盤ヲ固ムルコト適切緊要ト存シ當方ニテハ右心構ヘニテ先ツ出來得ル限り逐次懸案ヲ解決セシムル様ニシ以テ徐々ニ兩國間ノ纏レヲ解クニ努メツアル次第ナレハ本省ニ於テモ成ルヘク先方ノ熱意ヲ啖^マリ出ス様努メラレ例ヘハ近ク行ハルル趣ナル雲南鐵道爆撃ニ依リ佛人及安南人ノ被害賠償問題ニ關スル交渉等ヲ通シ一般國交調整ニ對スル先方ノ熱意ヲ打診セラレタク斯クシテ双方ノ氣合熟スルヲ見テ話ヲ切出スモ遲カラスト考ヘ居レリ殊ニ佛國トシテハ目下國力ヲ擧ケテ戰爭ニ没頭シ居リ其ノ推移ハ固ヨリ豫斷ヲ許ササルモ戰爭永引カハ極東權益ノ維持ハ本邦トノ協力

ニ俟タサルヘカラサル運命ニ在ルモノナレハ開談ノ時期ハ徐々ニ熟シ來タルヘキヤニ思考セラルルニ付テハ貴電第三號御示唆ノ如ク茲暫ク歐洲及支那ニ於ケル一般情勢ノ推移殊ニ新中央政府ノ成立等ト睨合セ好機ノ到來ヲ俟ツ方賢明ナラスヤト存セラル當方事情ト共ニ卑見申進ス

~~~~~

1770

昭和15年2月21日 有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

### 雲南鐵道空爆被害に関する谷・アンリ会談の

#### 内容通報

本省 2月21日後9時発

第八四號(至急)

往電第六四號ニ關シ

二十日次官ヨリ「アンリ」大使ノ來訪ヲ求メ、調査ノ結果二月一日ノ爆撃ハ第七番鐵橋ヲ主要目標トシテ行ハレ、列車ノ爆撃ハ帝國軍用機ノ最初ヨリ企圖セシ所ニ非ズ本件爆撃ハ帝國軍用機ガ敵戰鬪機ノ來襲及附近防空砲臺ヨリノ砲火ヲ受ケツツ氣流極メテ不良ナリシ情況ニ於テ三千八百米ノ高度ヨリ行ヒタルモノナルガ當時本件列車ハ右鐵橋上ニ

停車中ニシテ鐵橋其他ノ構造物及其ノ蔭影等ノ爲軍用機搭乗者中何人モ列車ヲ識別シ得ザリシ趣ニテ軍用機ヨリ投下セラレタル爆彈ガ右列車上ニ落下セルハ全ク偶然ノ出來事ナリ然レドモ帝國政府ハ右ノ結果佛國人及安南人ニ死傷者ヲ生ジタルコトヲ深く遺憾トシ之ニ對シテハ被害狀況判明ノ上合理的ナル金額ノ弔慰金支拂ノ用意アル旨ノ覺書ヲ手交セリ

尙、次官ヨリ佛側ハ日本飛行機ガ佛印ニ越境セリト屢々抗議越セル處今迄ニ判明セル我方調査ノ結果ニ依レバ佛側抗議ノ内ニハ事實無根ノモノモアル次第ナルガ調査完了ノ上一括回答スベシト申述べ置キタリ

右ニ對シ大使ハ佛側ニ於テハ佛印經由武器彈藥ヲ輸送シ居ラザルニ拘ラズ日本軍ガ雲南鐵道爆撃ヲ行ヒ今次ノ如キ事件ヲ惹起セルハ佛側トシテ憤慨ニ堪エズト云ヘルニ依リ、次官ハ佛側ニ於テハ純粹ナル武器彈藥ノ輸送サハ停止セバ其レヲ以テ足り、他ノ物資ハ如何ニ輸送スルモ可ナリトノ見解ヲ執リ居ラルルモ近代戰ニ於テハ「ガソリン」、「トラック」等ノ物資モ武器彈藥ト同様不可缺ノ軍需品ナルハ現ニ佛國側ニ於テモ其ノ戰時禁制品ノ「リスト」ヲ恣ニ擴大

シ居ラルルニテモ明ニシテ前記物資が蔣政權ニ向ケ輸送セラルル限り、我軍トシテ右遮斷ノ爲メ輸送路ヲ爆撃スルハ自衛上已ムヲ得ズ又佛國民ニ死傷者ヲ生ズルガ如キ不幸ナル事件ノ再發ヲ避クル爲メ佛側ニ於テモ我軍事行動ノ行ハルル地域ニ於テ能フ限り佛國民又ハ其財産ニ對スル戰禍ノ波及ヲ避クル様最善ヲ盡サルルハ常識上當然ナルベシト應酬セリ

冒頭往電通り轉電セリ

河内ヨリ西貢ヘ轉電アリ度シ、廣東ヨリ香港ヘ轉報アリ度

1771

昭和15年2月21日

有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛（電報）

谷・アンリ会談において日仏国交調整交渉を  
パリで開始したき旨わが方提議について

本省 2月21日発

第八五號（至急）

往電第八四號ニ關シ

更ニ引續キ佛大使ハ佛側トシテハ天津問題其他日佛間ノ一般的懸案ニ付話合ヲ開始セントシ居タル矢先本件爆撃ハ之

ヲ不可能ナラシメタリト云ヘルニ對シ次官ヨリ今ヤ我方トシテハ爆撃ヲ以テ右話合ニ進マントスルニアラス今次ノ不幸ナル事件ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ之ヲ弔慰シテ國交調整ノ爲新ニ出發セムトシ居リ此ノ趣旨ニテ近ク澤田大使ヨリ巴里當局ト開談ノ予定ナリ斯クシテ兩國間ノ一般的懸案ヲ解決スルコトヲ得バ雲南鐵道爆撃等ノ必要モ自然ニ解消スヘク少クトモ右ノ如ク澤田大使ニ於テ開談ノ運ニ至ラハ爆撃中止等ニ付キ我軍當局ト協議スル事モ可能ナルヘシト思考ス而シテ支那事變ハ漸次終局ニ近ヅキツツアル一方歐洲ノ狀勢ハ漸ク險惡ナラムトスル今日速ニ日佛國交調整ヲ圖ルコトハ佛側トシテ最モ時宜ニ適セル措置ニ非ズヤト述べタルニ大使ハ其ノ點ハ自分モ全然同感ナリ又帝國政府ノ今次事件ノ犠牲者ニ對スル處置ニ對シテハ謝意ヲ表スル旨竝ニ本會談ノ模様ハ早速本國政府ヘ電報スベキ旨答ヘタリ

尙弔慰金ノ點ニ關スル發表振及時機ニ付テハ必要ノ際双方打合ノ上行フコトニ話合置タリ

冒頭往電通り轉電セリ

河内ヨリ西貢ヘ轉電アリ度、廣東ヨリ香港ヘ轉報アリ度

1772

昭和15年2月27日  
有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛（電報）

事変処理における仏国側の対日同調を引出す

ため日仏国交調整交渉至急開始方訓令

本省 2月27日後9時20分発

第八九號（極秘）

貴電第一二八號ニ關シ

本件交渉開始ノ目的ハ雲南鐵道爆撃以來打開困難トナリ居ル兩國關係ニ我方ヨリ進ンデ疎通ノ道ヲ開キヤルコトニア  
ル處右ハ我方從來ノ主張ヲ變更セントスルモノニハ非ザル  
ニ付話ノ持チ出シ様如何ニ依リテハ先方ヲシテ附ケ上ラシ  
ムルノ懸念モ無カルヘシト思考セラル他方佛國ガ英國ト歩  
調ヲ合セ極東ニ於テ我ト妥協セントノ希望ハ一時ノ感情ノ  
纏レニ不拘現在ニ於テモ變リ無キモノト認メラレ「アン  
リ」大使最近ノ態度モ相當和協的ナルコトハ往電第八五號  
會談ノ際ニモ看取セラレタル處我方トシテモ新政權樹立モ  
間近ニアル今日佛國トノ關係モ出來得ル限り友好的ニ調整  
シ先方ヲシテ支那事變處理ニ同調的態度ニ出デシメ度意向  
ニテ之ガ爲我方ヨリ相當具體的提案ヲ爲シテ交渉ヲ進捗セ

シムルコト緊要ト考ヘ居ル次第ナリ

就テハ貴見ノ次第ハアルモ此ノ際往電第七十九號ノ趣旨ニ  
テ至急佛國側トノ話合ヒヲ開始セラルルコトト致度結果電  
報アリ度

1773

昭和15年2月27日  
有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛（電報）

日仏国交調整のためのパリ交渉開始を仏国側

応諾について

本省 2月27日後9時20分発

第九〇號（極秘）

往電第八九號ニ關シ

二十七日「アンリ」大使谷次官ヲ來訪政府ノ訓令ニ依ル趣  
ヲ以テ過般次官ヨリ申出デラレタル日佛間ノ一般の問題ニ  
付巴里ニ於テ話合ヲ開始シ度シトノ提議（往電第八五號參  
照）ハ佛政府ノ快諾スル處ナル旨述べタリ

1774

昭和15年2月29日  
有田外務大臣宛（電報）



日仏国交調整に関するわが方提議に対し仏国外  
務次官が援蔣物資輸送停止に難色表明について

パリ 2月29日後発  
本省 3月2日前着

第一四六號

往電第一四一號ニ關シ

二十九日「レヂエ」次官ヲ往訪先ツ本使ヨリ二月一日ノ雲南鐵道爆撃事件ニ關スル我方回答ニ關スル先方ノ印象ヲ訊ネタルニ「レ」ハ遺憾ノ意ノ表明及被害者ニ對スル賠償ノ二點ニ付テハ満足シ居ルモ爆撃中止ヲ約シ得ストノ點ハ不滿ニ感シ居レリト述ヘタルニ依リ本使ハ帝國政府ニ於テハ鐵道爆撃ニ依リ兩國間ノ關係カ根本的ニ行詰リニ達セルヲ何トカ打開セシカ爲本使ニ對シ開談。方希望シ來レリトテ貴電第七九號二ノ(二)ノ趣旨ヲ述ヘ(三)及(四)(イ)(ロ)ノ日本側ノ要求及代償ヲ提示シ東京ニテハ成ルヘク本會談カ妥結ニ達セントノ希望ヨリ佛印通過阻止方ヲ求メタル物資ニ關シテモ不取敢「トラツク」及「ガソリン」ニ限リタルモノニテ又佛國側ニ於テ極東ニ於ケル認識ノ根本トシテ昨夏日英間ノ話合ニ依リ英國カ承認セルト同様ナル原則ヲ承認セラルルコ

ト望マシキ旨述ヘタリ之ニ對シ「レ」ハ日本側ノ要求ニ對シ前顯貴電(三)(ロ)ニ付テハ未タ知悉シ居ラサルモノナルモ交渉中ニ英國ヨリ情報ヲ得ルコトモ可能ナルヘク(イ)ノ點ト共ニ承認ニハ大シタ困難ハ無カルヘキモ(ハ)ニ付テハ武器彈藥ハ從來ヨリ輸送ヲ阻止シ來レルニ鑑ミ問題無キモ其他ノ物資ハ同鐵道カ國際輸送ノ通路トナリ居ルコトニモアリ旁々<sup>(2)</sup>「トラツク」「ガソリン」等「シビル」ノ生活ニ不可缺ノモノノ輸送ヲ止メヨトノ要求ハ無理ナラスヤト思ハル(此ノ點ニ付テハ本使ヨリ現代戰ニ於テハ双方共戰爭遂行ノ重要ナル手段ヲ爲スモノニテ武器彈藥ト大差無キ旨反駁スルト共ニ帝國政府ニ於テハ難キヲ忍ンテ當初要求セシ品目ヲ更ニ減シ差當リ二トシタル次第ナルヲ以テ佛國側トシテモ大局の見地ヨリ右輸送ヲ阻止セラレンコト希望ニ堪ヘサル旨述ヘ置キタリ)次テ日本側代償ノ點ニ關シ「レ」ハ何等新シキ約束無ク殊ニ新南群島問題ニ全然觸レ居ラサルハ失望セサルヲ得スト言ヘルニ付本使ハ今回ノ纏レハ主トシテ佛印ヲ繞リ起リタル問題ナルヲ以テ話合モ之ヲ中心トスルコト速ニ妥結ニ到達スル所以ト信ス事態此ノ儘ニ推移セハ更ニ印支ニ近ク戰線ノ擴張ノ必要生スルコトトモナリ

兩國關係ハ益々惡化スル許リナルヘキニ鑑ミ先ツ右ニ提示セル諸點ニ關シ諒解ニ達スレハ之ヲ切掛トシテ兩國關係改善ニ資スルコト大ナルヘク兎モ角「ダラヂエ」首相ニモ取次ノ上速ニ妥結ニ達スル様考慮アリ度キ旨述ヘタルニ「レ」ハ谷次官ノ「アンリー」大使ニ語ラレタル點ハ一般問題ノ調整ト謂フコトナリシヲ以テ今少シク廣汎ナル問題ニ付話合アルモノト期待シ居リタルヲ以テ首相モ爆撃中止丈ノ問題ナラハ失望スルコト思フモ一應之ヲ傳ヘタル上何分ノ回答スヘキ旨答ヘタリ

1775

昭和15年3月2日  
在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日仏国交調整に関するわが方提議への仏国側  
意向につき観測報告

第一五二號

往電第一四六號及第一五一號ニ關シ

「レヂエ」「クーロンドル」共二日英間ノ協定承認ナル我方

パリ 3月2日後発  
本省 3月3日前着

要求ノ第一及第二ノ點ニ付テハ承諾困難ナラサルカ如キ態度ヲ示シ只第三石油「トラツク」輸送阻止ノ點ニ付「レヂエ」ハ從來ノ理窟ヲ繰返シ難色ヲ示シタルノミナルカ我方代償ニ關シテハ權益尊重ハ從來屢々聞キタル所ニシテ又懸案解決モ支那事變終熄セハ急キ貰ハサルヘカラサル所ナリ從テ結局日本側代償トシテハ鐵道爆撃中止ノミナリトテ兩人共ニ之ニテハ内容貧弱ナリトノ意嚮ヲ洩シテニ「レヂエ」ハ海南島ハ日本側ニテ事變中作戰上ノ占領ト言フコトナルヲ以テ致方無ク「パラセル」島ハ支那トノ間ノ問題ナルカ他方新南群島ニ至リテハ日本トノ間ニ解決スヘキ重大問題ニテ之ヲ除キテハ一般的國交調整ト謂フ意味ヲ爲サストテ從來佛國側力踏付ケニ遭ヒタリト稱スル歴史ヲ淳々ト述ヘ立テタリ之ニ對シ本使ハ聞流スノミニテ一言モ應酬ヲセス今次我方提示ノ要點ヲ基礎トシテ速ニ何等カノ協定ニ達スルコト聽テ通商問題其ノ他ノ問題ノ解決ニ乗出ス第一歩ナリトノ趣旨ヲ繰返シ強調スルニ留メ置キタリ  
右ニテ大體先方ノ意嚮ハ察シ得ル次第ニテ此ノ上ハ首相トシテノ先方ノ回答ヲ俟ツ積リナリ

1776

昭和15年3月6日

在ハノイ鈴木総領事より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南鉄道の修理完了について

ハノイ 3月6日後発

本省 3月7日前着

第四五號

修理中ノ雲南鐵道ハ工事完了シタルニ付五日ヨリ全線各驛宛乗車券ヲ發賣スヘキ旨五日、六日ノ各紙ニ發表セラレ居レリ

御見込ニ依リ關係公館ヘ轉電アリタシ

1777

昭和15年3月[12]日

有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

日仏国交調整交渉中は雲南鐵道による援蔣物資輸送を事実上停止するよう仏国側へ申入れ方訓令

本省 3月12日発

第一三六號(大至急)

河内來電第四五號ニ關シ

佛側ニ對シ至急左記趣旨ヲ申入レラレ御交渉ノ結果ハ出來得ル限り十五日中ニ回電到着スル様御措置アリ度

雲南鐵道輸送再開セル處再ビ武器彈藥類及「ガソリン」、「トラック」等ガ輸送セラル、コト、ナラバ我軍トシテハ之ヲ默視シ得ザル次第ニ付少クトモ目下ノ日佛間交渉進行中ハ佛側ニ於テ武器彈藥類ノミナラズ「ガソリン」及「トラック」ノ輸送ヲ事實上停止セラレ度ク、右ガ實行セラル、ニ於テハ同鐵道ノ爆撃等モ自然其ノ必要無キニ至ルベシ 以上

1778

昭和15年3月13日

在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

日仏交渉中の援蔣物資輸送を事実上停止するよう仏国外務省亜細亞局長へ申入れについて

パリ 3月13日後発  
本省 3月14日前着

第一七九號(至急)

貴電第一三六號ニ關シ(佛印經由軍需品輸送停止ノ件)

十三日午前原田ヲシテ亞細亞局長ヲ往訪セシメ御來示ノ趣

旨ヲ申入レシムルト共ニ本件ハ日佛間一般交渉トハ別途ニ至急解決ノ要アル點ヲ強調セシメタル處同局長ハ早速右ノ次第ヲ「レヂエ」次官ニ傳達スヘク何レ次官ハ先日貴方申入レノ次第ニモ關係アリ恐ラク十四日中ニ大臣又ハ次官カ貴方大使ト會見スル段取トナルヘシト語レル趣ナリ尙同局長ハ自分限りノ感想トシテハ何分ニモ「ガソリン」及「トラツク」ハ主トシテ米國品ナルヲ以テ米側トノ關係モ考慮スルノ要アリ早急決定シ兼ナル問題ニアラスヤトノ懸念ヲ洩シ居リタル由右不取敢

1779

昭和15年3月15日  
有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

日仏交渉中は現状以上に雲南鉄道の修理を行  
わず修理未完成を口実としてわが方の禁輸要  
求に應じるよう仏国側へ申入れ方訓令

本省 3月15日後4時発

第一四四號(大至急、館長符號扱)

貴電第一八三號ニ關シ

十五日中ニ佛側回答接到セサル場合ハ我軍ニ於テハ更ニ徹

底的爆撃ヲ開始スベキ情勢ニ在リ(以上絕對ニ貴使限り御含ノコト)就而一九〇三年雲南鐵道建設協定第二十三條第四項第二十四條第二項ノ規定ノ外河内來電第五一號ノ次第モアリ此際佛側ニ於テ少クトモ日佛交渉進行中現状以上ニ鐵道ノ修理ヲ行ハザルコト、シ外部ニ對シテモ右修理ノ困難ヲ理由トシテ「ガソリン」「トラツク」類ノ輸送ヲ拒絕スルコトニ依リ事實上我方要求ヲ充スコトモ一方法ナルベキ旨貴使ノ思付トシテ申入ラレ大至急結果回電アリ度

1780

昭和15年3月15日  
有田外務大臣宛(電報)

日仏交渉中の援蔣物資禁輸に関し仏国外務次  
官が非公式承諾について

パリ 3月15日後発  
本省 3月16日夜着

第一九一號(大至急、館長符號扱)

貴電<sup>(1)</sup>第一四四號ニ關シ

十五日午後「レヂエ」次官ニ面會ヲ求メ御來示ノ趣旨ヲ自分限りノ思付ナルカトテ日佛一般交渉進行中佛政府ヨリ鐵

道會社ニ指令ヲ發セラレ現狀以上ノ大修繕ヲ一時中止セシメラルルト共ニ一般外界ニハ修理不充分ヲ理由トシ武器「ガソリン」及「トラック」類ノ輸送引受ヲ暫ク行ハサルコトトセラレテ事實上ニ我方要求ニ満足ヲ與ヘラレテハ如何ト切出シタルニ「レ」ハ交渉繼續中トハ極メテ漠然ナリトテ嫌味ヲ述ヘ一般國交調整問題ニ觸レ來リ日本側對案(一)及(二)ハ左シタル困難ナキモ(三)ノ點ニ關シテハ結局國境ヲ閉鎖スルコトトナル處佛ハ支那トノ政治關係ヲ決シテ絶チ居ルニアラサルヲ以テ同國トノ間ニ問題生スル一方輸送品ハ主トシテ英米品多キ關係上兩國トノ關係ヲモ惡化セシムル惧アルニ付考量方不可能ナリ

尤モ日本側ニ於テ更ニ廣汎ナル問題ニ付佛ニ希望ヲ持タシ吳レハ別問題ナルモ之トテ無キ今日話合ハ急ニ纏ルモノトモ思ハレストテ佛側ノ遷延的態度ヲ是認スルカ如キ口吻ヲ示シタルニ依リ本使ヨリ先日ノ提議ニ對シテハ佛側ノ正式回答ヲ待チ居ル次第ナルヲ以テ之ヲ俟チテ討議ニ入ルコトトシタク右ハ別トシ今日ノ自分ノ思付ニ對シテハ至急御回答ヲ得タク若シ回答ヲ得ス此ノ上事態ノ惡化ヲ見ルカ如キコトハ御互ニ避クル必要アル旨ヲ述ヘタルニ「レ」ハ

「ダラジエ」首相ハ議會關係ニテ多忙ヲ極メ本日ハ語ル機會モナキ旨答ヘタルニ依リ首相トノ相談ハ別トシ貴官限リノ取計トシテ受諾アリタルコトヲ本國政府ニ打電シ差支ナキヤ否ヤト質シタルニ「レ」ハ默考ノ後遂ニ佛國トシテ非公式(「オフイシューズマン」)ニ貴官提案ヲ受諾スル旨貴國政府ニ傳ヘラレ差支ナキ旨確言セリ



1781

昭和15年3月16日

有田外務大臣より  
在仏国沢田大使宛(電報)

日仏交渉中の援蔣物資禁輸措置への仏国側回答を待つて三月十八日まで雲南鉄道空爆を延期するとの軍側意向について

本省 3月16日後8時発

第一四九號(大至急、館長符號扱)

往電第一四四號ニ關シ

未ダ御返電無キ處事態重大ト認メラルルニ付今暫ク爆撃延期方極力軍側ト折衝セル處軍側ヨリ十八日迄ハ待ツコトトスベキモ、夫レ以上ハ不可能ナルヲ以テ、佛側ニ於テ我方要求ヲ容レ、之ガ實行方ニ付言質ヲ與ヘタル旨ノ回電十八

日中ニ接到セザル場合ハ爆撃ヲ開始スルノ外無シト回答越  
セリ(以上絶對ニ貴使限リ御含ミノコト)就テハ大至急佛側  
意向御確メノ上御回電アリ度

1782

昭和15年3月17日  
在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

雲南鉄道対中禁輸措置は仏国の利害に関する  
諸問題を日仏交渉で取上げなければ検討でき  
ないとの覚書を仏国政府提出について

付記 右覚書仮訳

パリ 3月17日前発  
本省 3月17日夜着

第一九四號(大至急、館長符號扱)

往電第一九一號ニ關シ

十六日午後亞細亞局長ヨリ本使及「レジエー」次官ノ十五  
日ノ會談ニ關シ別電第一九五號<sup>(電注)</sup>ノ通り覺書ヲ送付越シタル  
ニ付早速原田ヲシテ同局長ヲ往訪セシメ原田ヨリ右覺書ハ  
十五日「レジエー」次官ノ本使ニ與ヘタル確言トハ其ノ趣  
ヲ全然異ニスル様思考セラルル處果シテ次官ノ本使提言受

諾後現地ニ對シ「ガソリン」及「トラツク」ノ輸送拒絶方  
ヲ訓電セラレタリヤト質シタルニ未タ何等ノ措置ヲ執リ居  
ラス現ニ佛側ノ情報ニ依レハ鐵道修理モ完了シタル趣ナル  
ヲ以テ貴方申入通り破損ヲ現狀ノ儘放置スルカ如キハ問題  
トナラスト述ヘ(右ニ對シ原田ヨリ往電第一八〇號ノ説明  
ニ反スル旨ヲ指摘シタルニ對シ事實問題ニ付テハ更メテ調  
査ヲナスコトモ得ヘシト答ヘ)要ハ該覺書ニ依テ明カナル  
如ク一二貴政府ヨリ一般的交渉ニ關シ何等カノ意思表示ア  
ルニアラサレハ措置シ難キコトニ屬スト答ヘタリ仍テ原田  
ハ十五日午後「レジエー」次官ハ假令非公式(「オフイシユ  
ーズマン」)ナリトモ我方申入ヲ受諾セラレタリト了解スル  
カ右ハ事實ニアラスヤト訊ネタルニ同局長ハ急ニ言葉ヲ濁  
シ右ノ點ハ自分ニモ判然セサルカ事ハ極メテ重大ナルヲ以  
テ首相ハ勿論關係各省トモ協議ノ要アルハ御推察ノ通りナ  
リ而モ佛側ニ於テハ本件ト一般交渉トハ何處迄モ關聯性ア  
リト思考スルニ付一般問題ト切離シテ本件ヲ考慮スルノ餘  
地ナシト答ヘタル趣ナリ

右ノ次第二テ往電第一九一號ニ反シ未タ我方申入通り措置  
シ居ラサル次第ナルヲ以テ此ノ點「レジエー」次官ニ問ヒ

質ス爲至急面會ヲ求メタルモ週末不在ニテ十八日午前ニア  
ラサレハ歸京セサル趣ナルカ右不取敢

編 注 別電第一九五号は省略。本文書付記の仮訳参照。

(付記)

三月十七日附在佛澤田大使發有田大臣宛電報

佛側提出ノ覺書(佛文ヨリ假譯)

雲南鐵道ニ依ル「トラック」及「ガソリン」輸送ヲ停止ス  
ルノ案ハ、假令右停止ガ總テノ主義上ノ見解ヲ留保シタル  
上ニテ更ニ廣汎ナル意見交換ノ遂行ヲ容易ナラシムル事ヲ  
目的トスル暫定的ノモノナリトスルモ、日本政府ニ於テ佛  
國政府ニ對シ同時ニ右意見交換ノ範圍ヲ明示シ又日本政府  
ニ於テ佛國側ガ利害ヲ感ジ居ル諸問題ヲ取り上ゲルノ意向  
ヲ明瞭ナラシムルニ於テ始メテ佛國政府ノ檢討ニ附セラル  
ルヲ得ベキモノナリトス。

二月二十九日澤田大使ニ依リ爲サレタル通報ハ佛國政府ニ  
對シ極メテ明確ナル且ツ佛國ノ對英、米關係ニ影響ヲ及ボ  
スガ如キ性質ノ政治的立場ヲトラシムル代償トシテ日本政

府ガ佛國政府ニ提供セントスルモノハ如何ナル事態ニ於テ  
モ日本ガ佛國ニ保障スルコトヲ要スルモノニ過ギズトノ印  
象ヲ佛國當局ニ與ヘタリ

佛國側ヨリノ見地ヨリスレバ日佛兩國關係ノ再檢討ノ提議  
ハ右ガ單ニ支那ニ於ケル佛國及佛國人ノ物質的權益ノ尊重  
ニ止マラズ一九〇七年ノ日佛協約ガ其ノ目的トシ居ル權利  
及政治的地歩ノ一般問題ヲ包含スルニ非ザレバ何等考慮ニ  
値セザルモノナリ、此ノ故ニ佛國政府ハ日佛交渉ノ「プロ  
グラム」中ニ新南群島問題、西沙島問題ヲ包含セシムルコ  
ト竝ビニ海南島、東京灣及ビ印度支那ニ近接セル諸地方ニ  
對スル日本ノ無關心ト不干渉ニ關スル特別ノ保障及ビ日本  
ガ支那ノ獨立ト領土保全ヲ尊重スルコトニ關スル再確認ヲ  
要求スルコトヲ強ク主張スルニ至ル次第ナリ  
尙佛國政府ハ歐洲紛爭ニ對スル日本政府ノ立場ヲ承知セン  
コトヲ欲シ又日本ト蘇聯トノ關係ニ關聯スル如何ナル指示  
ニモ興味ヲ有スルモノナリ

最後ニ佛英同盟及右同盟國ガ米國トノ間ニ有スル友好關係  
ニ鑑ミ日本ト佛國トノ間ニハ米國及ビ英國ニ諒知セシムル  
コト無クシテハ如何ナル政治的取引ヲモ行フコトヲ得ズ又



佛國政府ハ米政府及英政府トノ事前ノ合意無クシテハ英米ノ權益ニ影響ヲ及ボスガ如キ性質ノ如何ナル取極ヲモ受諾スルコトヲ拒否スベキモノナルコトハ之ヲ看過セザルノ要アルベシ

1783

昭和15年3月17日  
在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

仏国政府覚書への対処振り請訓

パリ 3月17日後発  
本省 3月18日前着

第二〇〇號(極秘、館長符號扱、大至急)

往電第一九四號ニ關シ

佛國政府力覺書ニ依リテ前言ヲ翻シ且附ケ上リタル數々ノ條件ヲ附シ來リタルハ甚タ不都合ノ次第二テ「レヂエ」次官ニ對シテハ次回會見ニ於テ之ヲ詰ル積リナルモ詰ルノミニテハ目的ヲ達セス依テ「過日本使提案ノ趣旨ニ依リ鐵道當局ニ對シ訓令ヲ發セシムル様今カラニテモ措置ヲ執ラレシコトヲ要望ス」ル旨ヲ新ニ申入レテ諾否ノ確答ヲ求ムヘク再ヒ覺書所載ノ如キ條件附ニ非レハ承諾セストスルニ於

テハ右新ナル申入モ拒否シタルモノトシテ我方本來ノ建前即チ物資輸送繼續スルニ於テハ適時爆撃ノ必要生スヘキ旨ヲ再ヒ明確ニ言ヒ殘シ置クコトトスヘシ從テ貴電第一四九號御内報ノ十八日ヨリノ爆撃モ右次官ノ確答ヲ得ル迄實行ニ移ラサル様致度シ(十七時午後二時半)

1784

昭和15年3月18日  
在仏国沢田大使より  
有田外務大臣宛(電報)

仏国外務次官に口約撤回を詰問し援蔣物資の禁輸を至急措置方説得について

パリ 3月18日後発  
本省 3月19日前着

第二〇二號(大至急、極秘、館長符號扱)

往電第二〇〇號ニ關シ

十八日午前本使「レヂエ」次官ヲ往訪シ十五日午後會談ノ結果ニ基キ早速貴方ヨリ鐵道會社ニ指令アリタルモノト諒(解?)シ實ハ本國政府ニ其ノ趣旨打電シタルニ土曜日「ノー」トニ接スルト共ニ現實ニ右指令無カリシコトヲ知り驚キタル次第ナリト述ヘタルニ「レ」ハ本件ハ日佛一般交渉ト

關聯性アルヲ以テ今少シク廣汎ナル問題ニ付佛側ニ希望ヲ持タシテ戴ケルコトヲ豫期シ應諾シタル次第ニテ其ノ間ニ誤解ノアリタルハ遺憾ナリト逃ケヲ張リタルニ付右ノ如ク條件付ナラハ結局本使申入ヲ實質のニ拒絶セラレタルト等シキニアラスヤ現ニ自分ハ辭去ニ際シ貴方受諾ヲ本國政府ニ打電シ差支無キヤ念ヲ押シタルニ貴官ハ非公式ニ受諾シタル旨傳ヘラレ差支無キ旨確言セラレタルニアラスヤト詰リタルカ結局水掛論ニ陥ルヲ以テ本使ヨリ本件ヲ實際的ニ解決スル爲今カラニテモ遅カラサルニ付鐵道當局ニ對シ指令發電考慮方示唆シタルニ「レ」ハ「會談ノ續ク限り」ト言フカ如キ不定期ニ亘ル約束ハ爲シ得スト頻リニ難色ヲ示シタルニ依リ御訓令ノ範圍ヲ逸脱スルモ然ラハ「當分ノ内」トセラレテハ如何ト述ヘタルニ「レ」ハ更ニ「ノート」ノ取扱振ニ付關心ヲ示セルニ付佛側ニテ至急輸送阻止ノ措置ヲ採ラレハ「ノート」ハ二月二十九日申入レニ對スル貴方ノ新タナル提案トシテ東京ニ傳ヘ本國政府ノ意嚮ヲ尋ネルコトトスレハ貴方ノ「ノート」ト二月二十九日ノ申入レトカ意味ヲ生シ來ルヘキ旨説明シタルニ「レ」ハ右ハ實際的解決方法ナリ早速「ダラヂエ」首相ニ正午面會ス

ルニ付直ニ御來示ノ趣旨ヲ傳ヘ何分ノ儀午後御回答スヘシト約セリ右ノ結果ハ速ニ電報スヘキモ不取敢

~~~~~

1785

昭和15年3月18日

在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

仏国政府が修正覚書を提出し雲南鐵道對中禁
輪措置を三月一杯まで実施するなど新提案提
示について

付記 右修正覚書仮訳

パリ 3月18日後発

本省 3月19日前着

第二〇五號(極秘、大至急、館長符號扱)

往電第二〇二號ニ關シ

十八日午後六時三十分亞細亞局長原田ノ來訪ヲ求メ回答ノ
遅延ヲ謝シタル後往電第一九五號覺書ニ替ヘ別電第二〇
六號^(電注)ノ如キ覺書ヲ作成シタリトテ手交ノ上現地鐵道當局ニ
對シ「ガソリン」「トラック」ノ輸送中止方指令シタルコ
トヲ告ケ唯特ニ御願ヒ致度キコトハ本件措置ヲ絕對極秘ニ
附セラレタク萬一外部ニ洩ルルカ如キコトアランカ政府始

メ鐵道當局側モ立場ヲ失フコトナルニ付細心ノ注意ヲ拂ハレタシト述ヘタル上右覺書ハ今朝大使ヨリ次官ニ御注意ノ次第モアリ特ニ有田「クレーギー」協定及今後取極メラルコトアルヘキ日英了解受諾方ニ關スル佛側ノ用意ヲ附加シタル外佛側ノ諸要望列舉ヲ改メ一九〇七年ノ日佛協定ヲ單ニ引用スルコトニ止メ改稿シタル次第ヲ説明セリ尙其ノ際今朝大使ハ妥協案トシテ「當分ノ中」トスルコトヲ提議セラレタルモ右トテモ依然不定期ノコトトテ政府トシテハ鐵道當局側ニ與フル指令ノ關係上本月末トセル次第ナリト釋明シタルニ依リ原田ヨリ右期限經過後ハ如何ナルヘキヤト問ヘルニ萬事ハ今後ノ推移ニ待ツモ其ノ時ハ改メテ協議シタク考ヘ居レリト答ヘタル趣ナリ

編 注 別電第二〇六号は省略。本文書付記の仮訳参照。

(付記)

三月十九日在佛澤田大使發有田大臣宛電報

佛側ヨリ提出セル書改メラレタル覺書(佛文ヨリ假譯)

雲南鐵道ニ依ル「トラック」及ビ「ガソリン」ノ輸送ハ今

月末迄停止ノ儘トスルノ措置執ラレタリ

然レドモ此ノ狀態ヲ其ノ後ニモ維持スルコトヲ佛國政府ニ要求セラルルガ爲ニハ、假令之ガ暫定的ノ措置ニシテ且凡テノ主義上ノ問題ハ之ヲ留保スルトスルモ、日本政府ハ其ノ提案セル意見交換ノ範圍及ビ日本政府ガ佛國側ノ利害ヲ感ジ居ル諸問題ヲ取上グルノ意嚮ニ關シ之ヲ明確ナラシムルノ措置ヲ執ラルルコト不可缺ナリ

去ル二月二十九日澤田大使ニ依リナサレタル通報ハ要スルニ佛國政府側ニ廣汎ナル約束ヲ期待シ居ルモノナリ即チ有田「クレーギー」協定ノ方式ヘノ參加ハ一般的國交調整ノ範圍内ニ於テ特別ノ困難ヲ惹起スルコト無カルベク、又天津問題ニ關スル將來ノ日英間協定ノ條件ノ受諾モ可能ナルベキモ、此ノ外ニ佛蘭西政府ハ目下支那ニ於テ行ハレツツアル敵對行爲ト直接ニ關聯シ極メテ明瞭ナル政治的立場ヲ取ラサルルニ至ルコトナルベク右ハ其ノ對英米關係ニ影響ヲ及ボスベキ性質ノモノナルベシ、然ル處佛蘭西側見解ニヨレバ日本政府ガ之ニ對價トシテ提供セラレントスルモノハ如何ナル事態ニ於テモ日本ガ佛蘭西ニ對シ保障ヲ義務付ケラレ居ルモノニ過ギズ

佛蘭西側ノ見地ヨリスレバ日佛關係ノ再檢討ニ關スル提案ハ若シ之ガ支那ニ於ケル佛蘭西及佛蘭西人ノ物質的權益ノ尊重ノミナラズ一九〇七年ノ日佛協約ガ其ノ目的トシ居ル權利及ビ政治的地歩ニ關スル一般問題ヲモ包含スルニ非ザレバ何等考慮ニ値セズ

尙佛國政府ハ日本政府ノ歐羅巴紛爭ニ對スル立場ヲ承知セシコトヲ希望スルモノニシテ又日本ト蘇聯ノ關係ニ關スル凡テノ指示ニ興味ヲ有スルモノナリ

1786

昭和15年3月20日

有田外務大臣より
在仏国沢田大使宛(電報)

仏国政府の新提案は受諾不可能な旨回答方訓令

本省 3月20日午後4時0分発

第一五七號(大至急、館長符號扱)

貴電第一九四號ニ關シ

雲南鐵道修繕完了シ物資輸送可能トナリタル限リ軍トシテ輸送遮斷ノ爲更ニ實力ヲ行使スベキコトハ當然ノ儀ナルモ折角一般的交渉ヲ開始セル矢先ナルニ付何トカ實力ヲ用フルコト無ク、話合ニ依リ不取敢右交渉進行中佛側ヲシテ自

發のニ輸送停止ヲ行ハシメントシ他方軍側ニ對シテハ實力行使差控方ヲ交渉シ來レル次第ナリ、然ルニ貴電第一九五號佛側回答ハ我方苦心ヲ汲ムコトナク不必要ニ問題ヲ廣範ナラシメ何等建設的性質ヲ帶ヒス不都合千萬ナルコト御來示ノ通りニシテ軍側トテモ實力行使ヲ之以上差控フルコト能ハサル狀態ニ立至リ所要ノ措置ヲ執ルコト、ナレリ(此點御含迄)其ノ後貴電第二〇二號乃至第二〇六號接到、貴使ノ御努力ニ依リ佛側態度ニ多少ノ緩和ヲ見タルモ輸送停止ハ單ニ本月未迄トナリ居リ(四月以降ハ長期間雨季ニ入り爆撃不可能トナル惧アリ此ノ點ニ遷延策トモ見ラレ困難存スル次第ナリ)軍需品ノ輸送停止ト爆撃停止トハ他問題ト切り離シ處理シ得ヘキモノナルニ拘ラス爾後ノ輸送停止ヲ依然廣範圍且重要ナル諸問題ト關聯セシメ居リ佛側提案ハ少クトモ差當リノ措置トシテ受諾不可能ナル次第ナリ就テハ貴使ハ不取敢佛側ニ對シ右ノ次第至急然ルヘク申入レ置カレ度シ

1787

昭和15年3月20日

在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

仏国政府の新提案は受諾不可能な旨同国外務
当局へ申入れについて

パリ 3月20日後発
本省 3月21日前着

第二一四號(大至急、極秘、館長符號扱)

貴電第一五七號ニ關シ(日佛國交調整ノ件)

二十日午後原田ヲシテ亞細亞局長ヲ往訪セシメ帝國政府ト
シテハ本件輸送停止ヲ廣汎且重要ナル諸問題ニ關聯セシメ
ントスル佛側提案ハ差當リノ措置トシテ受諾不可能ナル旨
申入レシメタリ

1788 昭和15年3月20日 在ニューヨーク若杉總領事より
有田外務大臣宛(電報)

仏印經由の援蔣物資輸送量が激減しハイフォン
に滞貨が山積しているとの新聞報道報告

ニューヨーク 3月20日後発
本省 3月21日前着

第一八〇號

二十日「タイムス」ハ海防十九日發「アペンド」特電トシ

從來滇越鐵道ニ依ル重慶向軍需品ノ毎月輸送能力ハ最高一
萬八千噸ニ達セシカ日本軍ノ南寧占領以來累次ノ爆撃ニ依
リ現在ハ其ノ四分ノ一二激減シ又雲南路往復ノ「トラツ
ク」數モ從來一日平均百臺ニ近カリシカ雨期及爆撃ニ依リ
僅ニ二十臺ニ過キサルニ至レル處海防ニハ目下十五萬ニ達
スト謂ハルル軍需品及二千二百臺以上ノ「トラツク」山積
シ居リ右ヲ重慶方面ニ輸送スルニハ蘭貢緬甸經由ノ外ナキ
モ同街道ノ現在輸送能力ハ毎月僅ニ七千噸ニ過キサルヲ以
テ支那側ノ軍需品供給ニ重大ナル支障ヲ來シタルト共ニ海
防停滯中ノ「トラツク」及機雷類等ノ立腐レニ依ル損害巨
額ニ及ヒ居ルニモ拘ラス同地入港船ハ殆ト皆支那向軍需品
ヲ積載シ來ル有様ナル旨ヲ述ヘ更ニ日本軍カ其ノ軍需品ノ
海防經由南寧向輸送許可ヲ佛印側ニ要求セリトノ噂ハ事實
無根ナル旨ノ佛印當局側ノ否定ヲ報シ居レリ

上海へ轉電アリタシ
米へ郵送ス

1789 昭和15年4月27日 在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

雲南鐵道空爆を行わない旨の声明をわが方が
發出すれば日仏國交改善に資するとの仏國植

民地大臣内話について

パ リ 4月27日後発
本 省 4月28日後着

第三〇四號

二十六日機會アリテ植民大臣「マンデル」ト會談シタルカ
討議要旨御參考迄左ノ通り

「マ」ヨリ二十五日ノ下院外交委員會ニ於ケル極東問題
質疑應答ニ觸レ首相「レーノー」ハ同委員會ニ於テ對日
關係改善ニ關スル希望ヲ開陳シ居リタル旨ヲ内話シタル
上佛國現下ノ對外政策ハ米國ノ態度ニ影響セラルコト
多ク極東問題ニ關スル同外交委員會ノ空氣モ此ノ傾向ヲ
示シ居リタルニ付日本側ニ於テモ此ノ點ヲ考慮ニ入レ日
米關係好轉ヲ佛側ニ反響セシムル様努メラルコト得策
ナルヘシト述ヘタリ仍テ本使ハ近時英國側ノ對日懸案解
決熱意ヲ説明シ佛國トシテハ米ノ意嚮ヲ考慮スル要ハア
ルヘケレ共先ツ個々ノ問題解決ニ付テハ獨自ノ立場ヲ執
ラルコト困難ナラサルヘシト應酬シタルニ「マ」ハ英

國ノ熱意ナルモノヲ疑フカ如キ口吻ヲ洩ラシ居リタリ

三、次テ日佛一般國交問題ニ付本使ヨリ双方ニ關係改善眞摯
ナル希望アルハ之ヲ認ムルモ未タ何等カノ協定ニ到達ス
ル迄ニハ氣合熟シ居ラサル様感セラルル處事前ノ地固メ
ヲ爲シ置ク爲ニハ小サキ懸案ノ如キハ理窟ニ囚ハレスシ
テ解決シ行クコト得策ト考ヘ居リ例ヘハ日「タイ」航空
聯絡ノ爲佛印上空航行ノ如キハ佛側ニ寧ロ利益多シト言
ハサルヘカラスト述ヘタルニ「マ」ハ本件ニ關シテハ自
分モ斯ル意味合ニテ客年既ニ主義上ノ同意ヲ與ヘタル次
第ナルカ其ノ後雲南鐵道爆擊問題起リタル爲國論ノ手前
其ノ儘トナリ來レルモノナリ左レト此ノ際日本側ヨリ何
等カ右ヲ緩和スルニ足ル口實
例ヘハ今日迄一箇月以上モ爆擊無キ事實ニ鑑ミ日本側ヨ
リ今後之ヲ行ハスト云フカ如キ保障ニテモ與ヘラルレハ
問題ハ容易ニ解決シ得ヘキニアラスヤト思考スト述ヘタ
ルニ付本使ハ蔣政權ノ抗日勢力ヲ培養スルカ如キ物資ノ
輸送アル間ハ何日ニテモ之ヲ爆擊スル我方ノ態度ハ作戰
上ノ必要上之ヲ放棄スルヲ得スト應酬シタルニ「マ」ハ
爆擊中止ヲ約束セラレストモ何等カノ一般の保障ニ依リ

事實上今日迄爆撃無キ事態ヲ其ノ儘繼續セラルコト可能ナラスヤト思フモ尙自分ニ於テモ充分考慮スヘシト答ヘ更ニ「トラツク」及「ガソリン」ヲ軍需品ト看做ス日本側ノ見解ニハ同意シ難キ旨ヲ附言シタルニ依リ本使ヨリ右カ蔣政權側ニ於テ軍用ニ供セラレ居ル以上之カ輸送ハ容認シ得サル所ナリト答ヘ置キタリ

三、更ニ横濱印支銀行支店開設問題ニ關シ本使ヨリ意嚮ヲ訊ネタルニ「マ」ハ印支銀行ニ付テハ自分ハ現在ノ資本金一億二千萬法ヲ少ク共差當リ倍額ニ増資方主張シ居レルカ之ニ依リテ道路及「タイ」國ト聯絡スル鐵道開設等ノ爲ノ投資ニ便セシメ併テ印支ノ貿易發展ニモ働カセタキ積リナルカ現在日本ニ輸出シ居ル鐵鑛石炭ハ佛國ニトリテモ戰爭ニ不可缺ノ物質ナルニ鑑ミ右カ蘇聯邦ニ渡ル惧アルニ於テハ對敵封鎖強化ノ趣旨ヨリ之カ供給繼續ハ困難トナルヘシト考フト答ヘタルニ依リ本使ハ何レ夫等ノ問題ハ日佛一般通商問題商議ノ際檢討ヲ加フルコト一策ナルヘシト答ヘ置キタリ

英、米ヘ轉電セリ

1790

昭和15年4月30日
在仏國沢田大使ヨリ
有田外務大臣宛(電報)

日本軍の雲南鐵道空爆再開に關シ仏国外務省

亜細亜局長がわが方の説明要求について

パリ 4月30日前発

本省 4月30日後着

第三一一號

二十九日求メニ依リ往訪シタル原田ニ對シ亞細亞局長ハ日本海軍機カ二十六日雲南鐵道第八三橋梁ヲ爆撃シタル顛末ノ植民大臣報告ヲ讀上ケタル上本件ハ既ニ在京佛國大使ヨリ日本外務省ニ抗議セル筈ナルカ爆撃問題ニ關スル日佛折衝カ三月中絶セラレテ以來問題ナカリシ折柄今同突如日本側ニ於テ斯ル措置ニ出テラレタルハ何等カ特ニ理由アリヤト尋ネタルヲ以テ原田ハ我方ノ建前ヲ説明シ佛側ニ於テ先般ノ交渉前ノ狀態ヲ維持セラルル以上我方モ已ムナク必要措置ヲ執リタルモノニシテ特ニ何等新ラシキ理由アリトハ思考セラレスト應酬シ置ケル趣

尙同局長ハ今回ノ事件ハ必スヤ日佛通商交渉ニモ惡影響ヲ與フヘシト悲觀的口吻ヲ洩ラシタルヲ以テ原田ヨリ通商問

題ハ一般政治問題ト切離シ處理シ得ヘキ技術問題ナル旨強調シタルニ同局長ハ右ニハ自分モ同感ナルモ何分ニモ關係官廳モ多キコトト種々議論モ起ルヤヲ俱ルルトテ重ネテ今次爆撃遂行ニ特別ノ理由アラハ自分限りニテモ伺ヒ置キタシト述ヘ居リタル趣ナリ

英、米へ轉電セリ



1791

昭和15年5月5日

在仏国沢田大使より
有田外務大臣宛(電報)

日仏交渉行詰まりおよび仏国の対日經濟圧迫
の態度に鑑みわが方も対仏經濟圧迫が必要の
旨意見具申

パリ 5月5日後餐

本省 5月6日前着

第三二六號

往電第三〇四號ニ關シ

佛國當路者力會見ノ都度雲南鐵道爆撃ニ言及シ頭ヲ撲ラレ乍ラ他面個々ノ問題ニ關シテハ大局の見地ヨリ同意ヲ示セト言ハレ居ルモ右ハ如何ニモ無理ナル註文ナリト申シ居ル

ハ屢次往電ニテ御承知ノ通りニシテ右ニ對シ當方トシテハ非ハ援蔣行爲(少クモ「トラツク」「ガソリン」ノ輸送)ヲ繼續スル佛國側ニ在リトシ爆撃ハ當然ナリトノ主張ヲ捨テス之ニ反シ先方ハ自動車等ハ商業上ノモノナルニ付宣戰布告モセサル日本側ヨリ輸送停止ヲ要求サルルモ無理ナリトノ理論ヲ繰返スノミニテ本使着任以來數ヶ月ニ亘リ常ニ同シ議論ヲ追驅ケ居リ未タ先方ヲ説得シ得サルハ遺憾ニ存シ居ル處其ノ間先方ハ戰時下緊急措置ノ理由ノ下ニ或ハ一時本使發受ノ電報ヲ制限シ「ニツケル」等ノ輸出許可ヲ與ヘス又或種本邦品ニ對シ輸入割當ヲ拒否スル等次カラ次ニ我方利益壓迫ノ態度ニ出テツツアリ本使トシテハ今後ト雖飽迄我爆撃ノ建前ヲ持スル積リナルモ他ノ通商問題等ニ付常ニ要求者ノ立場ニ於テ折衝スルモ只々弱味多ク又單ニ先方ノ不都合ヲ詰リ或ハ抗議スルノミニテハ徒ニ議論別レトナリテ實際上ノ目的ヲ達シ得サルニ鑑ミ寧ロ此ノ際我方ヨリ積極的ニ先方ノ利益壓迫ノ態度措置ヲ執ルコト必要ト存ス



1792

昭和15年6月4日

谷外務次官
在本邦アンリ仏国大使 會談

仏印經由援蔣物資輸送の停止を谷次官がアン
リ大使へ再度要求について

付記 昭和十五年六月六日

西(春彦)欧亜局長・在本邦ファン仏国大使館
参事官会谈録

日佛間諸問題ニ關スル六月四日谷次官

「アンリ」大使會談録

大使 本國政府ノ訓令ニ依リ御通報スル次第ナルガ、先般
佛國ニ於テハ「ニツケル」其ノ他戰爭遂行上利用シ
得ル物資ノ數量ヲ全面的ニ調査スル必要上「ニユー、
カレドニア」「ニツケル」鑛ノ輸出ヲ禁止セル次第
ナルガ右調査モ終了セルニ依リ輸出解禁方關係省ヲ
説得中ナル處、此ノ際及今後日本飛行機ニ依ル雲南
鐵道ノ爆撃行ハレザレバ、右關係省説得上佛外務省
ノ立場容易トナル點ニ御留意願度シ

次官

本邦關係省ニ於テハ「ニツケル」ノ輸出問題ヲ日佛
通商ニ關スル諒解ノ效力延長ノ問題ト關聯シテ考ヘ
居リ、從ツテ「ニツケル」ノ輸出解禁セラルレバ通
商ニ關スル諒解延長方ニ付當省ヨリ本邦關係省ヲ説

得スルコトモ容易トナル次第ナリ

自分ハ日佛關係ヲ全般的ニ改善スル爲ニハ懸案ヲ一
ツツ解決スルコト必要ナリト思考シ居レリ

雲南鐵道爆撃問題ニ付テ言ヘバ、同鐵道ハ今猶支那
向軍需品ヲ輸送シ居ルガ……

大使 軍需品ハ絶對ニ輸送シ居ラズ

次官

……軍需品ナル語ニ付テハ暫ク問題外トシ「ガソリ
ン」、「トラック」等ノ輸送ガ行ハレ居ルコトハ事實
ナリ

而シテ雲南鐵道ガ此ノ種物資ノ輸送ヲ繼續シ居ル限
リ、日本軍トシテハ軍事の必要ヨリ之ガ爆撃ヲ行ハ
ザルヲ得ザル次第ナリ、然レドモ本件ノ實際的解決
方法ニ付テ考フルニ、佛側ノ考次第ニテハ、歐洲戰
争ノ激化ニ伴ヒ佛自身軍需品其ノ他ノ物資ヲ必要ト
ストノ理由ノ下ニ、事實上蔣向輸送量ヲ無クスルコ
トモ出來得ル筈ナリ、斯クナレバ自然同鐵道爆撃ノ
必要モ無クナル次第ナリ、

要スルニ蔣政權ノ抗戦力ヲ増加スルガ如キ物資ヲ一
切輸送セラレヌ様措置サルルコトガ最モ大切ナリ

日「タイ」飛行佛印通過ノ問題ニ付テハ佛ガ雲南鐵道爆撃ニ對スル報復手段トシテ、一旦右飛行ニ對シ與ヘタル承認ヲ取止メニシタルモノナリトノ印象ヲ我方ニ與ヘ居レリ、本問題モ遲滯無ク解決セラル、コトガ雙方ノ利益ナリト思フ

歐洲戰爭ノ激化スルニ伴ヒ、佛國ニ於テハ益々軍需品ヲ必要トセラレ、我方ヨリノ右必要品供給ヲ希望セラルコトモ起リ得ベキ處右様ノ場合我方ガ佛ノ希望ニ對シ好意的考慮ヲ拂ヒ得ル爲ニハ佛側ニ於テ前述ノ如キ我方要求ヲ容レ着々懸案ヲ解決サレルコトガ必要ナリト思考シ居レリ

天津ノ租界問題ニ付英國トノ間ニハ話合成立セルニ付テハ佛トノ間ニモ速ニ解決ヲ圖リ度ク、本件ニ關シ日英及日佛間ニ解決ヲ見タリト云フコトニナレバ凡ユル點ニ於テ雙方ニ對シ良キ「モーラル、エフエクト」ヲ齎ラスコトト思フ

大使
御話ノ御趣旨ハ本國政府ヘ傳達致スベシ

(了)

(付記)

「ニュー・カレドニア」官憲ノ邦船不法射撃事件其ノ他日佛間諸問題ニ關スル西歐亞局長・「フアン」

佛大使館參事官會談錄

六月六日午後四時西歐亞局長ヨリ「フアン」佛參事官ノ來訪ヲ求メ「ニュー・カレドニア」官憲ニ依ル本邦漁船不法射撃事件ニ關スル別紙公文ヲ手交スルト共ニ口頭ヲ以テ其ノ内容ノ要點、特ニ乗員ニ向テ實彈ヲ發射セルノ事實ニ付日佛雙方ノ調査ノ結果ハ一致シ居ル點及佛監視船ハ停船ヲ命ズル爲先ヅ空砲ヲ發スベカリシニ最初ヨリ實彈ヲ發射セル點ヲ指摘シ、賠償金ノ支拂方要求セリ、本件及其ノ他ノ日佛間諸問題ニ關スル會談要領左ノ通

佛參事官 自分ハ本件ヲ當初ヨリ取扱ヒ居ル關係上良ク記

憶シ居ル處、右一致シ居レリト云ハルル點ハ佛側調査ニ依レバ相違シ居タリト思フ

兎モ角御申出ノ次第ハ委細本國政府ヘ報告致スベキモ、右ハ郵便ノ往復ヲ必要トスルニ依リ相當ノ時日ヲ要スベシ

歐亞局長 佛監視船ガ本邦漁船ノ乗員ニ向テ實彈ヲ發射セ

ル點ハ貴方調査ニ依ルモ明白ナレバ賠償金ヲ要求スル次第ナリ

本件ハ至急解決シ度キニ付貴國政府ガ「エマー・ジェンシイ」ノ狀態ニ在ル此ノ際「アンリー」大使ノ裁量ニ依リ決定セラレテハ如何。萬一右ガ不可能ナラバ、要點ヲ電報ニ依リ本國政府ヘ「レコメンド」セラルレバ、可ナルベシ

佛參事官

本國政府ヘハ郵便ニ依リ全部報告ノ要アルニ依リ、相當ノ時日ヲ要スベシ

抑々本件ハ日本漁船ノ密漁ニ端ヲ發シ居ル次第ナリ

歐亞局長

我方ニ於テハ密漁ハ嚴ニ取締リ居ルニ付此ノ點ハ問題トナラズ、停船ノ方法ガ國際ノ慣例ニ違反シ居ルニ依リ賠償金ヲ要求スル次第ナリ

自分ノ青島在勤當時、支那海關監視船ニ依リ日本船停船ニ關シ本件ト同様ノ事件發生セルガ、海關側ト種々交渉ノ結果、賠償金支拂其ノ他ニ依リ圓滿解決セシメタルコトアリ

尙、序デ乍ラ雲南鐵道爆撃ニ依ル死傷者ニ對ス

ル賠償金ニ付テハ目下關係方面ニ於テ貴方要求額ヲ檢討中ナルガ、此ノ問題ハ本件「ニユー・カレドニア」不法射撃事件ト同時ニ友好的ニ解決致度キニ付貴方ニ於テモ右様御努力アリ度シ

尙、「ニユー・カレドニア」「ニツケル」鑛ノ禁輸ニ付テハ、本邦向輸出ハ少量ノコトニモアリ、是非共解禁セラレ度シ

佛參事官

目下佛國ハ戰爭ヲ爲シ居ルニ依リ各種ノ鑛物ヲ全部欲スル次第ナリ依テ「ニツケル」ノ日本向輸出解禁ニハ佛トシテ何等カノ代償ヲ得ザルベカラズ

歐亞局長

「ニツケル」ノ日本向輸出ハ少量ナルノミナラズ、最近佛國ハ彈藥其ノ他ノ軍需品及佛印軍夫用裝具、被服類ノ多量供給方ヲ本邦商社ヘ求メ來リ居ラルル處、若シ佛國ガ「ニユー・カレドニア」「ニツケル」ノ全部ヲ佛本國ヘ取ラズシテ、我國ノ必要トスル分量ノ對日輸出ヲ許可セラルレバ右ハ佛ガ我方ヨリノ供給ヲ希望セラルル前述軍需品ノ原料トモナル次第ナリ(佛參事

官ハ佛ヨリノ我國ニ對スル軍需品註文ノ件ハ初耳ニテ其ノ内容ヲ承知シ度キ希望ノ如ク見受ケラレタルニ依リ、歐亞局長ヨリ本件ニ付適宜説明シ置ケリ)

自分ハ歐亞局長就任以來約一年ニ亘リ努力セルニ拘ラズ日佛間ノ懸案一向解決セザルヲ不満足ニ思フ(トテ雲南鐵道問題、日「タイ」飛行佛印通過問題、「ニツケル」問題、日佛通商取極問題ヲ列擧ス、天津問題ニハ言及セス)先日「アンリー」大使ハ谷次官ニ對シ日「タイ」飛行佛印通過ニ對スル不許可ハ雲南鐵道爆撃ニ關聯スルモノニ非ズシテ佛ノ戰時措置ナリト言ハレタル趣ナルガ當方ノ明確ニ承知シ居ル所ニテハ「イムピーリアル・エアウェイ」及「エア・フランス」ノミナラズ、昆明、河内間ニハ米支合辦タル中國航空公司ノ飛行機モ就航シ居レリ、依テ佛側措置ハ明カニ日本ニ對スル差別待遇ニシテ戰時措置ナリト言フコトヲ得ズ、寧口援蔣行爲ナリ

佛參事官

(右ニ對シ種々辯解ヲ試ミ)一國內ニ於テモ或地帶ノ飛行ハ禁止シ、他ノ地帶ニ於テハ之ヲ禁止セザルヲ例トス佛印ノ現總督ハ軍人ナレバ如何ナル地帶ガ重要ナルカラ悉知シ居レリ

歐亞局長

軍人ガ海ヨリノ侵入ノミヲ防グヲ以テ足ルト云フガ如キ計畫ヲ建ツル筈無シ本件ハ日本ニ對シ故意ニ執ラレタル惡意的措置ナリト解スルノ外無シ

雲南鐵道ノ問題ハ其レ自体デ日佛相互のニ解決シ得ル問題ニシテ、現ニ本年三月下旬一應話合付キカケタルガ、其ノ期間ガ一年間位ナラバ兎毛角僅カ一週間位ニテハ無益ナルニ依リ、我方ハ之ヲ斷念セル次第ナリ斯クノ如ク解決スルノ意思サヘアラバ解決シ得ル問題ヲ佛側ニ於テ遷延シ居ラルルハ我方ノ了解ニ苦シム所ナリ

佛參事官

此ノ問題ハ「ギヴ・アンド・テーク」ニ依リ解決シ度シ(ト頻リニ力說シ)而シテ日佛間ノ諸懸案ヲ全般のニ一括解決致度シト思考シ居レリ尤モ雲南鐵道ノ問題ハ米國ノ利害ニ關スルコト多

歐亞局長

ク、殊ニ目下戰時下ノ佛國トシテハ米國ニ負フ所大ナルニ依リ此ノ點ヲ充分考慮スル必要ニ迫ラル、次第ナリ

雲南鐵道ニ依ル蔣向物資輸送停止ト同鐵道ノ爆撃中止トガ「ギヴ・アンド・テーク」トナル譯ナリ總括的ノ懸案解決ノ方法モ一案ナルベキモ、之ニハ相當長時日ヲ要スベキニ付、解決シ易キモノヨリ解決シ、更ニ他ノ問題ノ解決ヲ容易ナラシムル道ヲ開ク方可ナルベシ

雲南鐵道爆撃ニ關シテハ米國ヨリモ我方ニ對シ抗議シ來リタルモ、一九〇三年ノ雲南鐵道敷設協定ノ規定ヲ引用シテ、支那ガ交戰國タル場合ニ於ケル同鐵道ノ非中立性ヲ指摘シ、米ノ抗議ヲ反駁シ置キタルニ付今更米ニ反對ハ無キ筈ナリ佛國ガ自己ノ權益ニ關スル取極ヲ單獨ニ日本ト遣リ切レヌト云フガ如キハ佛國ノ權威ニ係ハルベシ又雲南鐵道ノ問題ヲ日佛間ニ於テ解決セリトテ米ガ歐洲戰爭ニ關スル對佛援助的態度ヲ變更スルガ如キコトハ考ヘ得ラレズ

要スルニ佛國政府ガ本件ヲ解決スベシトノ意思ヲ確立シテ、之ヲ斷行シ、米國ニ對シテハ可然適當ノ説明ヲ與ヘ若シ米國ガ之ニ對シ文句ヲ言ヘバ、其レハ日本ニ對シテ言ハレ度シト撥不付クレバ宜シカルベシ

右ノ如ク佛ガ硬キ決意ヲ以テ本件ヲ解決セラルルコソ佛ノ權威ヲ高メラルル所以ナルベシ

佛參事官

（沈痛ナル面持ヲナシ局長ノ談話ヲ相當了解シタルガ如キ様子ニテ）本日ノ會談ノ模様ハ早速「アンリー」大使ニモ報告スベシ（ト答ヘ辭去セリ）

（了）

1793

昭和15年6月20日

仏印經由援蔣物資の禁絶に関する情報部長談話

佛印の援蔣物資輸送禁絶に關する情報部長談

（昭和十五年六月廿日午后五時）

昨十九日午前在京アンリー佛國大使の來省を求め、谷次官

より佛領印度支那を通して行はれつつある援蔣物資の輸送禁絶方に付嚴重申入れを爲すと共に現地實情検査の爲め我方検査員の派遣容認方を請し置きたるに對しアンリー佛國大使は本廿日午后三時卅分谷次官を來訪、佛印の對支物資輸送に付佛國側は既に十七日よりガソリン、トラック等の對支輸送を禁止して來たか日本政府再應の申出もあり本日より極めて廣範圍に亘る物資の輸送を禁絶することとなりたる旨竝に日本側より現地調査員を派遣することに異議なき旨回答し同四十五分辭去した

1794 昭和15年6月25日

仏印へ援蔣物資輸送監視員派遣に関する情報
部長談話

佛印ニ援蔣物資輸送監視員派遣ニ關スル

須磨情報部長談(六月二十五日)

曩ニ佛國側ハ佛印經由重慶政權向ケ物資ノ輸送停止狀況視察ノ爲メノ我軍事専門家ノ佛印派遣ヲ承認シタルニ依リ我方ハ軍事専門家若干名及柳澤公使館一等書記官、宗村元在

河内總領事等ヲ佛印ヘ派遣スルコトナリ。外務省ヨリハ在河内帝國總領事館員數名ヲシテ之ニ協力セシムルコトナセリ。右派遣員ノ一部ハ近日中出發ノ筈。

尙右派遣員ノ佛印到着迄ノ間不取敢前記物資輸送停止狀況視察ノ爲メ廣東ヨリ陸海軍將校及下士官若干名ヲ帝國海軍艦艇ノ一部ニ搭乘セシメテ河内ニ派遣セラルルコトナリ。右ハ近日中海防着ノ筈。

尙佛印ヨリ支那向輸送ヲ禁絶スヘキ物資ノ正確ナル品目ハ前記軍事専門家ノ現地調査後ニ決定セラルヘキ處昨二十四日佛參事官ハ西歐亞局長ニ對シ佛印總督ハ右決定ニ至ル迄佛印國境ノ全面的封鎖ヲ繼續スルコトニ決定セル旨申越セリ。

編 注 本文書は、昭和十五年十二月、情報部作成「支那事變

關係公表集(第五號)」から抜粋。

1795 昭和15年6月26日

欧亞局第三課作成の「佛印經由蔣政權向軍需

品輸送禁絶方交渉経緯概要^①

佛印經由蔣政權向軍需品輸送禁絶方交渉経緯概要^②

(自昭和十二年九月至昭和十五年六月)

昭和十二年十月佛國政府ハ佛印經由支那向武器輸送ヲ禁止スベシトノ決定ヲ我方ヘ通報越セルニ拘ラズ、我方ノ入手セル情報ニ依レバ其ノ後モ右輸送繼續セラレ居タルニ依リ屢々佛側ニ對シテ抗議シタルガ、其ノ都度佛側ハ我方情報ヲ否認シ、右佛側決定ノ輸送禁止方針ニハ何等變更ナク、武器輸送ノ行ハレ居ルハ唯昭和十二年七月十五日以前ノ支那側トノ契約履行ニ係ルモノノミナリトテ常ニ我方ヲ瞞着スル如キ回答ヲナシ來レルヲ以テ我軍ニ於テハ遂ニ昭和十四年初頭一旦ハ自力ヲ以テ武器輸送遮斷ヲ行ハント決意セルコトモアリタリ

然ルニ昭和十四年夏歐洲戰爭勃發ノ前後ヨリ佛ノ對日態度好轉シ、日佛間諸懸案解決ニ依ル國交調整方ノ希望ヲ佛側ヨリ表明シ來レルニ依リ、我方ハ佛側ガ武器彈藥、「ガソリン」、「トラック」其他蔣政權ノ抗戦力ヲ増強スベキ一切ノ物資ノ佛印經由輸送ヲ停止スルノ用意アルニ於テハ國交調整ノ爲ノ交渉開始ニ應ジ得ベシトノ趣旨ニ依リ應答セル

處佛側ハ(イ)法律上ノ義務無キニ拘ラズ純粹ナル武器彈藥ノ輸送ヲ禁止シ居リ且ツ實際上モ右輸送ノ事實無シトテ我方情報ヲ否認シ、(ロ)日支間ニハ宣戰スラ無キニ、武器彈藥ニ非ザル「ガソリン」、「トラック」等一般商品ノ輸送停止迄モ要求セラルルハ心外ナリトテ之ニ應ゼズ

右ニ對シ我方ハ(イ)我方ノ入手スル情報ハ確實ナル「ソース」ヲ有スルモノニシテ之ニ依レバ武器彈藥スラ時々佛印經由蔣政權向ケ輸送セラルルノ事實アリ「ガソリン」、「トラック」、飛行機等純粹ナル武器彈藥以外ノ軍需品ニ至リテハ多量輸送セラレ居ルコト(ロ)現ニ廣西作戰ノ際我軍ハ佛印ヨリ入り來レルコト明カナル武器彈藥、「ガソリン」等多量ノ軍需品ヲ押收セルコト(ハ)廣西作戰ニ依リ南寧「ルート」遮斷後雲南鐵道ノ輸送量ハ約倍加セルコト(ニ)近代戰ニ於テハ「ガソリン」、「トラック」、飛行機等モ武器彈藥ト同様戰鬪力ヲ増加スル軍需品ナルコト(ホ)支那事變ニ於テ我方ハ日佛友好關係ノ見地ヨリ佛印向船舶及積載貨物ニ對スル措置ヲ差控ヘ居ル次第ナルニ佛側ハ自國ガ交戰國タル歐洲戰爭ニ於テハ戰時禁制品目ヲ著シク擴張シ歐洲航路ノ本邦船ニ對スル各種ノ措置ニ依リ我方ニ多大ノ損害ヲ與ヘ居

ルコト(ハ)佛當局ハ蔣政權ヲ援助スベキ旨聯盟ノ會議其ノ他ノ機會ニ於テ公言シ且實際上モ軍需品輸送、鐵道借款等ニ依リ援蔣行爲ヲ行ヒ、我國民ヲ憤激セシメ居ル處我方トシテハ佛ガ日支間ニ大規模ノ戰鬪行爲行ハレ居ル現實ノ事態ヲ認識シ宣戰ノ有無、又ハ軍需品輸送禁止義務ノ有無等ノ法律的議論ニ拘泥セズ日佛國交ノ大局の政治の見地ヨリ自發のニ輸送停止ノ英斷ニ出デンコトヲ望ム旨屢次申入レタリ然ルニ佛側ハ徒ニ從來ノ議論ヲ繰返スノミニテ政治的解決ヲ圖ラントスルノ誠意ヲ示サザリシ爲遂ニ昭和十四年末以來我軍ハ作戰上ノ必要ヨリ已ムヲ得ズ支那領内ニ於テ雲南鐵道爆撃ヲ敢行スルニ至レリ右爆撃ニ對シテハ佛側ヨリ屢次抗議越スト共ニ損害賠償ヲ要求シ來レルモ我方ハ右ハ我軍ノ自衛の措置ニシテ、又一九〇三年ノ雲南鐵道ノ敷設經營ニ關スル協定第二十四條第二項モ支那ガ交戰國タル場合合同鐵道ハ中立性ヲ失フ旨規定シ居リ、我方ニ於テ賠償スベキ筋合ニ非ズトノ趣旨ニ依リ應酬セリ

然ルニ其ノ後間モ無ク雲南鐵道ノ修理完了シ貨物ノ輸送可能トナリタルヲ以テ我軍ニ於テハ更ニ實力ヲ行使スルヲ要スルニ至レルモ他方日佛間一般の國交調整交渉漸ク緒ニ着

キタル矢先ナルニ依リ何トカシテ實力行使ニ依ラズ話合ニ依リ佛側ヲシテ自發のニ蔣政權向軍需品輸送ヲ停止セシメンガ爲昭和十五年三月中旬我方ヨリ佛側ニ於テ不取敢右一般國交調整交渉進行中ハ蔣政權向武器彈藥及「ガソリン」、「トラック」類ノ輸送停止ヲ行ヒ、他方我軍ニ於テハ其ノ間實力行使ヲ差控フルコトトシテハ如何ト提案シ佛側ト交渉ヲ重ネタルガ佛側ハ我方苦心ヲ酌ムコトナク三月中ハ「ガソリン」、「トラック」類ノ輸送ヲ停止スルモ爾後ノ取扱ハ他ノ重要諸問題ト關聯セシムト言フガ如キ不都合ナルモノニシテ我方ニ於テハ斯ル佛側態度ニテハ暫定的の措置トシテモ交渉ヲ進ムルコト不可能ナリトノ結論ニ達シ右ノ趣旨佛側ヘ申入方在佛大使ヘ訓電セリ

爾來蔣政權向軍需品輸送ハ依然繼續セラレ我軍ニ於テモ昭和十五年四月下旬再び雲南鐵道ノ爆撃ヲ行ヒ軍需品輸送停止問題ニ關スル日佛交渉ハ中絶ノ形トナリ居タル處獨ノ對佛攻撃ノ進展ニ伴ヒ佛國政府ハ五月下旬頃ヨリ本邦商社ニ對シ飛行機竝ニ莫大ナル數量ノ各種彈丸ノ供給ヲ求め來レルニ依リ、佛側ガ日佛間諸懸案殊ニ佛印經由蔣政權向物資輸送停止方ニ關スル我方要求ヲ容ルルニ於テハ我方ニ於テ

モ出來得ル限り右佛側ノ希望ニ副フ様考慮シ得ベキ旨佛側ニ申入レタリ其ノ後佛本國ニ於ケル戰局ハ急激ニ進展シ、遂ニ六月十六日佛國ハ對獨降服スルニ至レルヲ以テ我方ニ於テハ更ニ在京「アンリー」佛大使ヲ通シ佛印經由援蔣物資輸送ハ依然行ハレ居ル處我方ハ佛側ノ自發の措置ニ依リ問題ノ解決ヲ圖ラントシ過去二年以上ニ亘リ我方ノ意ノ存スル所ヲ言ヒ盡シタルモ佛側ニ於テハ我方ノ納得シ得サル議論ヲ繰返スノミニテ問題ノ解決ヲ遷延シ來リ他方日本國內ニ於テハ佛側態度ニ對スル不滿ノ念昂リ居リ我方トシテハ最早此レ以上右輸送繼續ヲ默過シ得サル旨「アンリー」大使ヲ通ジ申入レントシ居タル矢先、十八日同大使ヨリ佛印總督ハ六月十七日自己ノ權限ヲ以テ蔣政權向武器彈藥ノミナラズ「トラツク」及「ガソリン」ノ輸送ヲモ停止スルニ決定セル旨電話ヲ以テ谷外務次官ニ通報越シタリ谷次官ハ十九日大使ヲ招致シ佛印ガ右決定ヲ爲セリトモ其ノ具體の結果如何力重要ナリトテ之ガ實證方法即チ我軍事専門家派遣ノ承認方ヲ要求セリ翌二十日「アンリー」大使ハ自分ノ發意ニテ印支國境ノ全面的閉鎖方佛印總督ニ進言セル處總督ハ之ヲ實行スルコトニ決定セル旨竝佛印經由物資輸送

狀況視察ノ爲軍事専門家派遣ノ件モ承認スルコトセル旨回答セリ依テ我方ヨリ佛側ニ對シ支那側ニ於テハ六月十七日ノ佛印總督ノ決定ニ伴ヒ既ニ佛印ニ於ケル滯貨ノ隱匿密輸ヲ策シ居ル模様ナルニ鑑ミ佛側ノ嚴重取締方竝ニ右支那側策動ヲ監視シ旁々追テ派遣スベキ軍事専門家に着前ノ應急措置トシテ在河内尾花少佐ヲシテ至急支那向輸送停止狀況ヲ視察セシメ度キニ付同人ニ對シ便宜供與アリ度キ旨申入レ、更ニ六月二十二日「アンリー」大使ヲ通ジ

(イ)支那向物資輸送停止狀況視察ノ爲軍事専門家三十名、外務省員十名(内三名ハ河内總領事館員)及通譯等若干名ヲ佛印ニ派遣シ度キニ付右派遣員竝ニ内地或ハ支那現地ヨリ隨時派遣スルコトアルベキ連絡員ニ對シ簡易入國竝任務遂行上必要ナル一切ノ便宜供與アリ度キ旨

(ロ)右一行ノ先發隊トシテ陸海軍士官及下士官約七名ヲ支那現地ヨリ掃海艇ニテ派遣シ度キニ付右ニ對シテモ同様一切ノ便宜供與アリ度キ旨

(ハ)我方ヨリ佛印當局ニ對シ支那向輸送禁絶方要望スヘキ物資ノ品目ハ右一行ノ現地事情視察ノ結果ニ依リ決定スベキニ付其レ迄佛印當局ニ於テ印支國境ノ全面的閉鎖ノ繼

續アリ度キ旨

ヲ申入レタルニ、佛側ハ之ヲ承認シ來リ右監視員派遣ハ計畫通り順調ニ進行シ夫々現地ニ赴キタリ

次デ更ニ我方ヨリ佛側ニ對シ

(イ)廣州灣租借地經由支那向物資輸送力行ハルル限り今般佛側ノ執レル支那向物資輸送禁絶措置ハ其ノ效果ヲ甚ダシク減殺セラルベキニ依リ過般右廣州灣經由輸送禁絶方ヲ佛側ニ申入レタル次第ニシテ、我方ニ於テハ右禁絶措置ガ執ラレ居ルコト期待シ居ル處右禁絶措置視察ノ爲支那現地ヨリ二、三名ノ帝國海軍士官及下士官ヲ同地ニ派遣シ度ク且隨時支那現地ヨリ小艦艇ニヨリ連絡員ヲ派遣シ度キニ付右ニ對シ簡易入國及任務遂行上必要ナル一切ノ便宜供與アリ度キ旨

(ロ)七月七日ヨリ向フ一ヶ月間凡ユル物資ノ支那ヨリ佛印ヘノ輸入モ禁止セラレ度キ旨

ヲ申入レタルニ佛側ハ右ニ付テモ我方要求ヲ容認シ來リタル次第ナリ

(完)